

末日聖徒イエス・キリスト教会・2001年10月号

リアホナ



リアホナ



表紙

写真/ジェリー・ガーンズ。表紙——スペイン、バルセロナの宣教師。裏表紙——ホンジュラスの宣教師。



「フレンド」表紙

貯金をすることは、宣教師になる備えの一つの方法です。8ページの「今、せんきょうしになれるよ!」を見ましょう。

34ページ参照

一般

- 2 大管長会メッセージ——幸福な家庭のしるし
第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 25 家庭訪問メッセージ——神聖な聖約を守ることによる守り
- 26 伝道活動と贖罪 十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド
- 44 末日聖徒の声——冒険を生きる
愛の宝 ロミー・バサラル・コテラ
思いがけない経験 ^{ウイン}主 ^{シェナデフ}淑娟
「わたしたちに祝福を下さい!」
レスリー・アウグスト・トバール・コレア
- 48 「リアホナ」2001年10月号の活用法

青少年

- 10 伝道活動について語る末日の預言者たち
- 12 伝道——霊的な冒険 十二使徒定員会 デビッド・B・ヘイト
- 17 質疑応答——自分がなぜ伝道に出たいのか、どうすれば友人に理解してもらえるでしょうか
- 20 あなたの召し パーバラ・ジーン・ジョーンズ
- 24 伝道に備える
- 33 最高の自分になりましょう
- 34 最も大切な一歩 F・デビッド・スタンレー
- 38 宣教師訓練センターにて マービン・K・ガードナー

フレンド

- 2 ^{ちい}小さな^{とも}お友だちへ——ウェイン・M・ハンコック^{ちやうろう}長老
- 4 新約聖書ものがたり——^{しんやくせいしよ}地上^{ちやうりやう}でお父^{おこな}さまのわざを行われる/
イエス、5,000人にしょくもつをあたえられる
- 8 ^{いま}今、せんきょうしになれるよ! コーリス・クレートン
- 10 ^{うた}歌——エリヤが教えた^{おし}真理^{しんり}
- 12 ^{わかちあひ}分かち合いの時間——やくそくされた^{じかん}しゅくふく
ダイアン・S・ニコルズ
- 14 ^{みぞに}みぞに雄牛はいない シーラ・R・ウッダードとフランシス・M・ウッダード



38ページ参照

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。
アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、イロカノ語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、オランダ語、韓国語、ギルバート語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、チェコ語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、ハンガリー語、ヒリガイノン語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順—発行頻度は言語により異なります。)

大管長会: ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会: ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長: デニス・B・ノイエシヨバンダー

顧問: J・セント・ジョリー、W・ロルフ・カー、ステイブン・A・ウェスト

教科課程管理部責任者

実務部長: ロナルド・L・ナイトン
企画・編集ディレクター: プライアン・K・ケリー
グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ

編集主幹: マービン・K・ガードナー
編集主幹補佐: R・バル・ジョンソン

編集副主幹: ロジャー・テリー

編集補佐: ジェニファー・グリーンウッド

編集補助: スーザン・バレット

出版補佐: コレット・ネベカー・オウン

デザインスタッフ

機関誌グラフィックスマネージャー: M・M・カワサキ
アートディレクター: スコット・バン・カンペン

デザイナー主任: シェリー・クック

デザイナー: トーマス・S・チャイルド

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

制作: レジナルド・J・クリステンセン、デニース・カービー、ケリー・ブラッド、ローランド・F・スピークス、カリ・A・トッド、クラウディア・E・ワーナー

デジタルプリプレス: ジェフ・マーティン

予約購読スタッフ

ディレクター: ケイ・W・ブリッグス

配送部長: クリス・クリステンセン

マーケティング部長: ジョイス・ハンセン

●定期購読は、「[リアホナ] 予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留が郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター ☎03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 明文社

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)

半年予約1,200円(送料共)

普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Magazines October, 2001. Japanese. 21990 300

For Readers in the United States and Canada:

October 2001 no.10. LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1344-8595) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$15.50 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

読者からの便り



『リアホナ』の道徳的な記事が好きです

末日聖徒の友人たちから『リアホナ』(イタリア語版)を頂くようになってしばらくたちますが、とても楽しく読んでいます。『リアホナ』には道徳的に申し分のない内容、特に家族の価値についてすばらしいメッセージが込められています。『リアホナ』に書かれている記事は宗教の枠を超えて、わたしたちみんなのためになると思います。

イタリア・トリエステ

教会員の友人

ビンセンツォ・チェルチエオ

神が下絵を描かれた

厳しい試練に直面するとき、大切なことはただ一つ、神に従う信仰と意志と強さを持つことです。

ヨブは神に服従しました。苦痛のさなかに、彼は自分自身と神を知ることができました。神の目的は、最終的に彼を祝福することでした。神はヨブを癒し、完全に元どおりにし、失ったものを回復なさいました。

神にとって、わたしたちの人生は刺しゅうの作品のようなものです。わたしたちは、作品の裏側、つまり、糸の始末をした部分しか見えませんが、神は作品全体を見ておられます。神は下絵を描いたときに、きらめく色が美しく映えるように黒い糸を刺すように計画されたのです。

フランス・カン地方部

エブルー支部

ギー・A・マデック



信仰と献身の模範

『リアホナ』(ポルトガル語版)を通して、わたしたちは世界中の教会員について知ることができます。教育、社会、文化などの状況は違っていても、イエス・キリストの福音に関する知識と証が、彼らの生活にすばらしい影響を与えているのを知ることができます。そして、彼らの信仰と献身の模範から、わたしたちは自身の生活に良い影響を受けているのです。

ブラジル・カンピーナス・カステロステーク、
マタウンワード

レオニルダ・ベントウリーニ

すべての善なるものへの掛け橋

わたしは1976年にアルゼンチンのコルドバでバプテスマを受けたときから、『リアホナ』(スペイン語版)を集め始めました。事情で何度か引っ越しましたが、この大切な機関誌を片時も手放したことはありません。『リアホナ』には聖典同様、答えがあります。人生の様々な段階において、また教会で様々な召しや割り当てを受けたときに、慰めや導き、靈感、レッスンの資料、伝道用の贈り物、友人が必要なときに、いつも『リアホナ』を当てにすることができました。すべての善なるものとわたしをつないでくれる『リアホナ』に感謝しています。

ベネズエラ・バルキシメステーク

ヌエバセゴビアワード

ルイサ・セシリア・ボネット・デ・バミオ



幸福な家庭の しるし

第一副管長 トーマス・S・モンソン



「幸福こそ、わたしたちの存在する目的であり計画である。わたしたちがそこに通じる道に従っていけば、最後に到達できるものである。その道とは、徳、公正、忠実、聖さ、そして神のすべての戒めを守ることである。」¹

全人類のためのこの普遍的な目標をそう説明したのは、預言者ジョセフ・スミスでした。これは、過去現在を問わず、至言と言えましょう。しかし、こうしたはっきりとした道しるべが与えられているにもかかわらず、不幸な人が多いのはなぜでしょうか。しかめっ面がほほえみを、絶望が喜びを押しつけてしまっているのです。わたしたちは神が与えてくださった可能性よりはるかに低いレベルで生活しています。ある人は物質主義に惑わされ、罪に足を取られ、世の風潮の中で自分自身を見失っています。またほかの人々は、いにしへのピリポが改宗に導いた人のようにこう叫ぶのです。「だれかが、手びきをしてくれなければ、どうして〔道を見いだせるでしょう〕。」²

さて、世間的な意味での「満足」、つまりあふれるばかりの富を得ても、わたしたちは幸福にはなれません。また幸福は、遠く離れた未知の国にあるものでもありません。幸福は、家庭の中にあるのです。

一生懸命努力すれば、家庭を地上の天国にすることができます。

わたしたちは皆、子ども時代の家庭の様子をよく覚えています。おもしろいことに、育った家の大小とか、周囲の環境が洗練されていたかどうかなどはあまり思い出しません。むしろ楽しい思い出となっているのは、家族とともに過ごした経験なのです。家庭は人生の経験の場であり、そこで学んだことが、わたしたちが家族から離れたときにどのような人生を送るかの決め手になります。

イギリスのマーガレット・サッチャー元首相は、次のような含蓄のある人生哲学を述べました。「家族は社会を築くれんがである。家庭は保育園であり、学校、病院であり、憩いの場、平安を見いだすところ、疲れをいやす場所である。家庭は社会の縮図である。我々の信仰を培うところであり、人生に向けて備えをしてくれる場所である。」³

「家庭は心のよりどころ」です。そして、立派な家庭を築くには、「日々の積み重ね」が必要なのです。⁴「塙生の宿、貧しくも家庭に勝るところなし。」⁵しかし、数々の楽しい思い出から我に返ると、そこには、両親がこの世を去り、息子や娘が成長して家を離れ、子ども時代は遠い過去のこと、という現実の世界が待ち受けています。そして、「どのような家庭を築くかは、わたしたちの責任である」という真理に、徐々に、しかし確実に直面することになります。わたしたちは知恵を使う必要があります。永遠は短い旅路ではないからです。なごとうねり、

ひなたと日陰、喜びと悲しみが混在しているからです。でも一生懸命努力すれば、家庭を地上の天国にすることができます。わたしたちの思いと行いと生き方は、この世の旅路の成功に影響を及ぼすだけではありません。それらは、永遠の目標に至る道を指し示すものとなるのです。

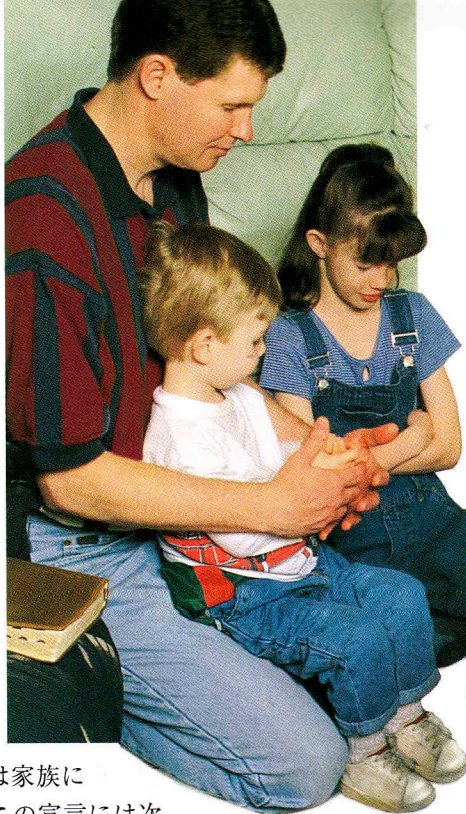
1995年に大管長会と十二使徒評議会は家族に関する世界への宣言を発表しました。この宣言には次のように述べられています。「家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。実りある結婚と家庭は、信仰と祈り、悔い改め、赦し、尊敬、愛、思いやり、労働、健全な娯楽活動の原則にのっとって確立され、維持されます。」⁶

幸福な家庭は様々な形を呈しています。両親と大勢の子どもたちが愛し合って暮らしている家庭もあれば、片方の親だけで一人か二人の子どもを育てている家庭もあります。また独りで生活している人もいます。しかし、このように個々の状況は違っていても、幸せな家庭には共通したものがあります。わたしはこれを、「幸福な家庭のしるし」と呼びたいと思います。それは、以下の4つから成っています。

1. 祈りの習慣
2. 学びの場
3. 愛の模範
4. 証の蓄え

祈りの習慣

賛美歌には「祈りは魂の見えぬ望み 述べても述べても、胸に燃ゆる」⁷と歌われていますが、確かに祈りはだれでも行うことができ、しかもだれもがその恩恵にあずかれます。ですからわたしは、幸福な家庭の最初のしるしとして祈りを挙げました。親は、子どもの祈りに耳を傾けることによって自分も神に近づくようになります。子どもたちはつい最近まで天の御父のもとにいたので、神に対する気持ちや願い、感謝を、率直に、遠慮なく述



現在の家庭をもっと天国に近づける方法について考えている人は、主から学ぶことができます。主は、偉大な、家庭の建築家だからです。主はわたしたちに、どのように家庭を築いていかなければならないか教えてくださっています。

べることができるのです。

家族の祈りは人を罪悪から守る最大のとりでであり、幸福と喜びの最高の源です。「一緒に祈る家族は、いつまでも一緒である」ということわざは真実です。

わたしたちの預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう述べています。「10代の子どもたちを含め、朝に夕に家族の祈りをささげる習慣のある家庭の子どもたちは、何と幸せなことでしょうか。」⁸

ここで、神に祈りをささげている典型的な末日聖徒の家族を、わたしと一緒に訪ねてみましょう。父親、母親、そして子どもたち一人一人は、ひざまずき、頭を垂れ、目を閉じています。愛と一致、平安を感じさせる素晴らしい雰囲気が家庭に満ちています。幼い息子が「パパが正しいことを行えますように」と祈っています。そのような祈りを聞いた父親は、大事な息子の祈りを銘記して生活することでしょう。大好きな母親が「娘が導きを受けて伴侶を選び、自らを神殿結婚に備えることができますように」と嘆願しています。そのような祈りを聞いた10代の娘はきっと、心から愛する母親の謙遜で切なる願いをきっと尊重することでしょう。「家族の中の善良な息子たちがふさわしく生活し、時機が来たなら伝道地で主の使いとして奉仕する召しを受けられますように」と、父親と母親、そして子どもたち一人一人が熱心に祈るとき、そのような息子たちはきっと、宣教師として奉仕したいというあふれるような望みを持った若人に成長することでしょう。

家族の祈りと個人の祈りをささげるときは、主への信仰と信頼を込めて祈りましょう。常に祈るようにという勧告になかなか耳を傾けられないでいる人は、今こそ耳を傾け、従う時です。祈りは自分の人間的な弱さを示す



行為だと感じている人は、ひざまずいて祈っているときほど確固とした人の姿はない、ということを覚えてください。

妻のフランシスとわたしは結婚して53年になります。わたしたちはソルトレーク神殿で結婚しました。司式をしてくれたのはベンジャミン・パウリング兄弟ですが、彼から次のような助言を受けました。「新婚のお二人に一つの公式を紹介しましょう。これを用いれば夫婦間の争いは1日で解決できます。それは、毎晩ベッドの傍らにひざまずいて祈ることです。モンソン兄弟が祈ったら次の日はモンソン姉妹が祈るというように、声を出して祈ってください。その日に持ち上がった問題は、祈るときにすべて消えてしまいます。約束します。一緒に祈れば、心の中はお互いへの最も温かい思いやりでいっぱいになるでしょう。」

わたしは38年前に十二使徒評議会の一員として召されましたが、そのときデビッド・O・マッケイ第9代大管長からわたしの家族のことを尋ねられました。そこでわたしはそれまで導きとなっていた、この祈りの公式について話し、確かに有効であったことを証しました。大きな革張りのいすにゆったりと座っていた大管長は、ほほえみながらこう言いました。「わたしも、あなたたちに有効であったのと同じ公式を使ってきました。そのおかげで、長い結婚生活を通してわたしの家族は皆祝福を受けてきました。」

祈りは霊的な力を得るためのパスポートです。

学びの場

幸福な家庭の第2のしるしは、家庭が学びの場であることです。自分自身の家族を築く備えをしている人も、現在の家庭をもっと天国に近づける方法について考えている人も、主から学ぶことができます。主は、偉大な、家庭の建築家だからです。主はわたしたちに、どのように家庭を築いていかなければならないか教えてくださっています。

現在、敬虔な思いを込めて「^{けいけん}聖地」と呼ばれている町や村のほこりっぽい道を歩み、美しいガリラヤ湖のほとりで弟子たちに教を説かれたとき、主は、人々が最もよく理解できる言葉で、しばしばたとえを用いて語られました。聞いている人々の生活に関連させながら、主は頻繁に家を築くことについて話されました。

こう明言しておられます。「内わで分れ争う……家は立ち行かない。」⁹後に主は次のように警告なさいました。「見よ、わたしの家は秩序の家であり、混乱の家ではない……。」¹⁰

1832年12月27日にオハイオ州カートランドで預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示の中で、主はこう勧告しておられます。「あなたがた自らを組織しなさい。すべての必要なものを用意しなさい。そして、一つの家、すなわち祈りの家、断食の家、信仰の家、学びの家、栄光の家、秩序の家、神の家を建てなさい。」¹¹

この言葉以上に賢明に正しく家庭を築ける見事な青写



真を、わたしたちは見いだすことができるでしょうか。そのような家はマタイによる福音書で説かれている建築基準に合致する、まさに、「岩を土台として」建てられた家です。¹² チャレンジに満ちたこの世界の至る所に存在する、逆境という雨にも、敵対者という洪水にも、疑いという嵐にも耐えることのできる家です。

こう尋ねる人がいるかもしれません。「でもその啓示は、神殿の建設に関する指示を与えるためのものです。今日でも当てはまるのでしょうか。」

その問いに対し、わたしは次のように答えます。「使徒パウロはこう宣言したのではなかったでしょうか。『あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。』」¹³

主を、わたしたちが築く家族すなわち家庭の導き手としてください。

学びの場となるには、まず良い本がなければなりません。

「本は知恵の宝箱を開ける鍵、
本は喜びの国への入り口、
本はわたしたちを高めてくれる。
本は友達、さあ、一緒に本を読もう。」¹⁴

読書は人生で得られるほんとうの喜びの一つです。大衆文化の現代、わたしたちが目にする非常に多くのものは縮約や翻案、偽物、断片、要約の文化ですから、一人静かに良書を読むのは、確かに心を安ませ、鼓舞する経験となることでしょう。

幼い子どもたちも本を楽しみ、両親に本を読んでもらうことが大好きです。

主はこう勧告しておられます。「最良の書物から知恵の言葉を探し求め、研究によって、また信仰によって学問を求めなさい。」¹⁵

教会の標準聖典は、わたしたちにとっても子どもたち

わたしたちの示している模範は、子どもが見習えるようなものでしょうか。わたしたちは、息子や娘たちから「ぼくはパパに従いたい」とか「わたしはお母さんのようになりたい」と言われるような生き方をしているでしょうか。

にとっても、学びの場を与えてくれます。

数年前のことですが、わたしたちは孫たちを教会の印刷施設の見学に連れて行きました。そこでわたしたちは、宣教師用のモルモン書が、印刷され、製本され、装飾され、読むばかりになって出て来るのを見ました。わたしは孫たちにこう言いました。「オペレーターの方が、自分用に1冊ずつ取ってもいいって言ってくださっている。どれでもいいから

選びなさい。それがおまえたちのものになるんだよ。」

孫たちは刷り上がったばかりのモルモン書を1冊ずつ取ると、自分たちがどんなにモルモン書が好きか話してくれました。

わたしはその日、ほかにどんなことがあったかはあまり覚えていませんが、モルモン書への愛を伝える純粋な表情、子どもたちの心からあふれ出た表情を決して忘れることはないでしょう。

わたしたちは親として、自分の人生そのものが、家族の蔵書の中で、子どもたちにとって最も大切な本になり得るということを覚えておかなければなりません。わたしたちの示している模範は、子どもが見習えるようなものでしょうか。わたしたちは、息子や娘たちから「ぼくはパパに従いたい」とか「わたしはお母さんのようになりたい」と言われるような生き方をしているでしょうか。書斎の本棚にある本は表紙が中味を覆っていますが、わたしたちの生活は閉じることができません。両親の皆さん、わたしたちは、まさに開かれている本のような存在なのです。

愛の模範

幸福な家庭の第3のしるしは、愛の模範です。

わたしは子どものころ、ソルトレーク・シティーのブエノ通りに住んでいた祖母を訪ねるのを楽しみにしていました。祖母はわたしたちに会うと、いつも抱き寄せて大変喜んでくれました。そして、わたしたちをひざに乗せてよく本を読んでもくれたものです。



祖母が亡くなってから、その家には祖母の末息子であるレイおじさんとその奥さんが住んでいました。昨年レイおじさんが亡くなる少し前に、その家を訪れました。昔、上り下りして遊んだ道路わきの消火栓が小さく感じられました。あの懐かしい玄関、それを取り巻く静けさ、心安まる雰囲気はまったく昔と同じでした。台所の壁には、額に入ったある言葉が飾られていました。おばが刺しゅうしたもので、実に味わい深い言葉が刺し込まれていました。「愛する人を選び、選んだ人を愛しなさい。」それを実践するには、互いの歩み寄りと赦し、そして恐らく謝罪が幾度となく必要となることでしょう。わたしたちは結婚生活を実りあるものとするという決意をしなければなりません。

子どもたちは、愛についての小さな教訓の数々を、無意識のうちに親の模範から学んでいくようです。わたしの父は印刷業を営んでいましたが、毎日毎日遅くまで一生懸命働いていました。日曜日はきっと家でくつろぎたかったのですが、年老いた親族を訪問し、励ましを与えていました。

その中に父のおじがいました。彼は関節炎がひどく、歩くことはおろか自分で何もすることができませんでした。日曜の午後になると父はわたしに、「トミーおいで、一緒にエライアスおじさんをドライブに連れて行こう」と言うのでした。旧式の1928年型オールズモービルに乗って西8番街のエライアスおじさんの家に行き、父が家の中に入って行く間、わたしは車で待っていました。や

がて父は、まるで陶器の人形を抱えるかのようにおじさんを大事に抱えて出て来るのでした。わたしは車のドアを開け、父が優しく愛を込めてエライアスおじさんを景色のよく見える前の座席に座らせるのを見守りました。そしてわたしは後ろの座席に座りました。

ドライブは短時間でその間あまり話はしませんでした。が、何とすばらしい愛の模範だったことでしょう。父はわたしに良いサマリヤ人の話を読んでくれたことはありません。でも父は、わたしとエライアスおじさんを旧式の1928年型オールズモービルに乗せて、エリコへの道をドライブしたのです。

家庭の中に愛の模範という伝統が築き上げられるようになると、モルモン書に記されているようなヤコブの叱責しっせきを受けることはなくなるでしょう。「あなたがたは妻子の前に良くない手本を示して、感じやすい妻の胸を張り裂けさせ、子供たちの信頼を失った。彼らの心のむせび泣きが神のみもとに上って、あなたがたを訴えている。」¹⁶

わたしたちの家庭が愛の模範を反映したものとなりますように。

証の蓄え

幸福な家庭の第4のしるしは、証の蓄えです。デビッド・O・マッケイ大管長は「教会にあって教育の最も重要な第一の場は家庭です」と述べています。¹⁷「真のモルモンの家庭とは、もしキリストが入って来られたとし

たら、喜んでそこにとどまり、休んでいただけるような場所です。』¹⁸

この言葉どおりの家庭にするために、わたしたちはどうしているでしょうか。親が強い証を持っているだけでは十分ではありません。子どもたちはいつまでも両親の証に頼ってられるわけではないのです。

主に対する愛、主の名に対する敬意、互いに心から尊敬し合うこと、これらは証を養い育てるためのよく肥えた畑になることでしょう。

福音を学び、証を述べ、家族を導いていくことは決して易しいことではありません。人生の旅路はでこぼこだらけの道であり、うねりの激しい航海なのです。現代の社会はまさに嵐の時代です。

数年前、オーストラリアに行き、教会員や宣教師と面接したのですが、そのとき証の蓄えがいかに家族を聖め祝福するかというこの上ない模範を見ることができました。ホレス・D・エンサイン伝道部長とわたしはシドニーからダーウィンまで長い行程を旅していました。ダーウィン初の礼拝堂の鋳入れ式を管理することになっていたので。飛行機は、その途中のイサ山という鋳山町に寄る予定でした。その小さな飛行場に着いたとき、二人の子どもを連れた夫人が近づいて来ました。「わたしはジュディス・ローデンという教会員です。この二人はわたしの子どもです。この飛行機であなたがたが来られると思ったので、短い時間でもお話ししたくてやって来ました」と言いました。彼女は続けて、夫は教会員ではなく、その地域の教会員は彼女と二人の子どもたちだけだと説明しました。わたしたちはそこで福音の話をし、証を述べ合いました。

数分たってまた飛行機に乗ろうとしたとき、ローデン姉妹はたいそう心細く、寂しそうな顔をしていました。そして、「まだ行かないでください。教会が懐かしくてたまらないのです」とすがるように言いました。突然場内アナウンスの音がしました。「機械の故障のため飛行機は30分遅れます。」ローデン姉妹はわたしの耳に、「たった今祈りがこたえられました」とささやきました。そ



わたしたちの心の窓を大きく開き、家族の一人一人が家庭にあって受け入れられていると感じ、安らげるようにしましょう。

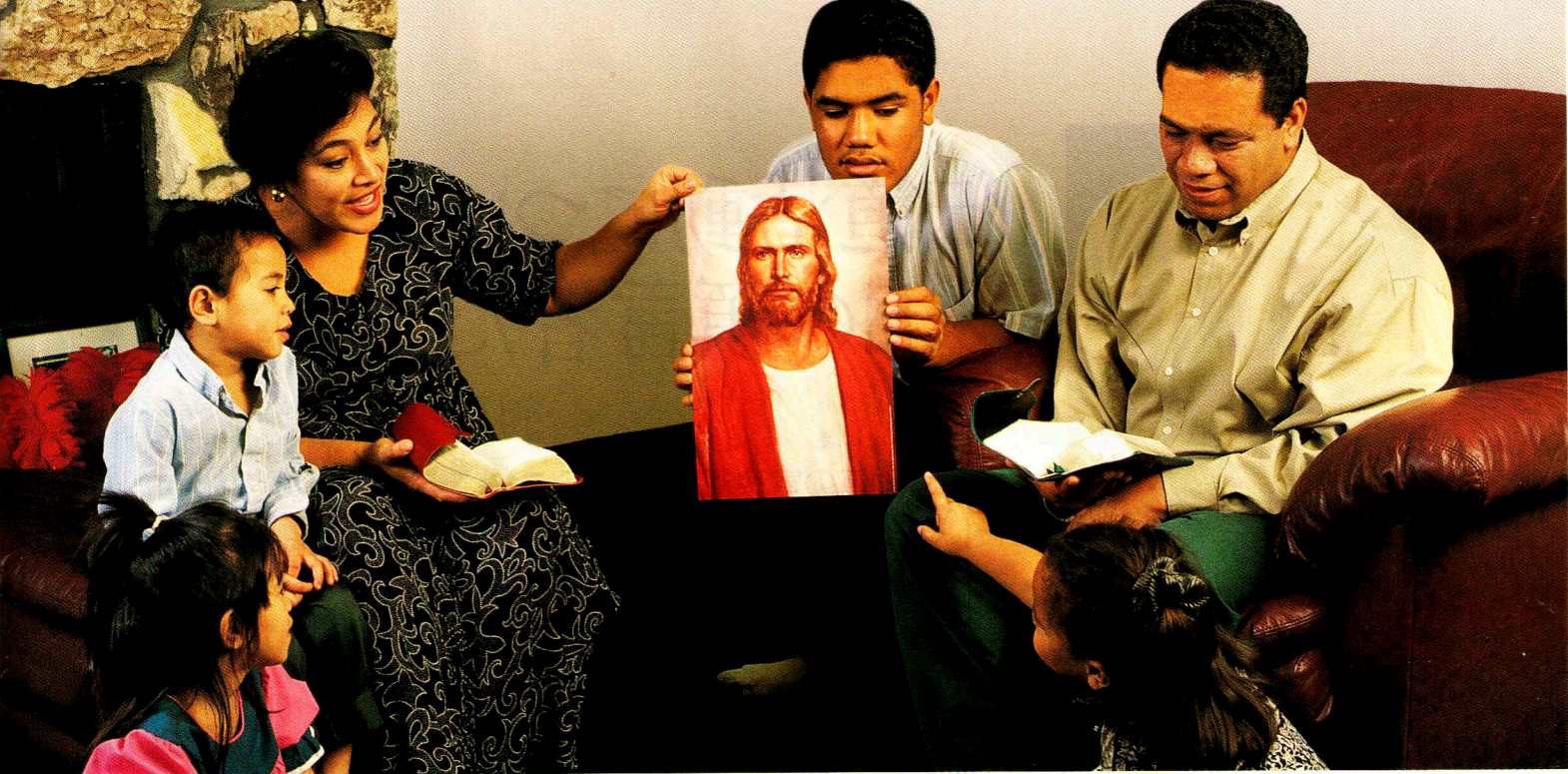
それから彼女はどのようにすれば夫が福音に関心を示してくれるか尋ねました。わたしたちは毎週家庭で開く初等協会にご主人にも出席してもらうように勧め、また彼のために福音の生きた証となるように、と言いました。わたしは教会の機関誌『チルドレンズ・フレンド』(Children's Friend) や家庭で福音を学ぶ助けとなる資料を送ることを約束しました。そして夫への希望を決して捨てないように勧めました。

こうしてわたしたちはイサ山を去りました。それから一度もその町を訪れたことはありませんが、あの立派な母親と愛らしい子どもたちが感謝の涙を目にいっぱい浮かべながら、愛を込めて手を振り、見送ってくれた光景を決して忘れることができませんでした。

それから数年たって、わたしはオーストラリアのブリスベーンの神権指導者会で話す機会がありました。わたしは家庭で福音を学ぶこと、また福音を忠実に実践し、真理の模範となることがいかに大切か話しました。そしてローデン姉妹のことを話し、彼女の強い信仰と決意がわたしにどんなに強い影響を及ぼしたかを話しました。わたしは次のように言って話を終わりました。「恐らくわたしはローデン姉妹のご主人が教会に入られたかどうか知ることはないでしょう。しかし、そのご主人は彼女ほどすばらしい模範をほかに見いだすことはできなかったでしょう。」

そのときです。一人の神権者が手を挙げ、立ち上がってこう言いました。「モンソン長老、わたしはリチャード・ローデンと申します。あなたが話されたその女性はわたしの妻です。その子どもたちはわたしたちの子どもです。[彼の声は震えていました。] 愛する妻の忍耐と不屈の努力によって、わたしたちの家族は永遠に結ばれました。みんな妻のおかげです。」会場は水を打ったような静けさに包まれました。静けさを破るものはただすすり泣く声だけであり、多くの人々の目には涙が流れていました。

兄弟姉妹の皆さん、どのような境遇にあっても、わた



したちの家を幸せな家庭にするよう決意しましょう。

わたしたちの心の窓を大きく開き、家族の一人一人が家庭にあって受け入れられていると感じ、安らげるようにしましょう。また、わたしたちの心の扉を開き、愛するキリストを迎え入れましょう。主の次の約束を心に留めようではありませんか。「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはい……るであろう。」¹⁹

以下の「幸福な家庭のしるし」が主の目に留まるならば、主はどんなに喜ばれることでしょうか。またわたしたちの生活もどれほど喜びに満ちたものとなることでしょうか。

祈りの習慣

学びの場

愛の模範

証の蓄え

わたしたちが幸福な家庭、永遠の家族を築こうと努めるときに、愛に満ちた天の御父の祝福がありますように。□

注

1. ジョセフ・スミス, *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス編 (1976年) 255-256

2. 使徒8:31

3. ニコラス・ウッド, "Thatcher Champions the Family," *London Times*, 1988年5月26日付

4. エドガー・A・ゲスト, "Home," *The Family Book of Best Loved Poems*, デビッド・L・ジョージ編 (1952年) 151-152で引用

5. ジョン・ハワード・ベイン, "Mid Pleasures and Palaces", 『賛美歌』[英文] (1948年) 107番

6. 『聖徒の道』1998年10月号, 24

7. ジェームズ・モントゴメリー「祈りは魂の」『賛美歌』83番

8. 「家庭の環境」『聖徒の道』1985年10月号, 5

9. マタイ12:25

10. 教義と聖約132:8

11. 教義と聖約88:119

12. マタイ7:25

13. 1コリント3:16

14. エミリー・ポールソン

15. 教義と聖約88:118

16. モルモン書ヤコブ2:35

17. *Priesthood Home Teaching Handbook*, 改訂版 (1967年) ii-iii

18. Conference Report, 1947年10月, 120で引用; または *Gospel Ideals: Selections from the Discourses of David O. McKay* (1953年) 169

19. 黙示3:20

ホームティーチャーへの提案

1. 幸福な家庭のしるしは、家族が多い少ないにかかわらずすべての家族に、そして独り暮らしの人にも当てはまるものです。

2. 祈りは霊的な力を得るためのパスポートです。

3. 教会の標準聖典は、学問を求めることのできる「最良の書物」です。

4. 家族を世話し心にかけることは、すべての人が達成しようとするべき伝統です。

5. 主に対する愛、主の名に対する敬意、互いに心から尊敬し合うこと、これらは証を養い育てるためのよく肥えた畑になることでしょう。



伝道活動について語る 末日の預言者たち

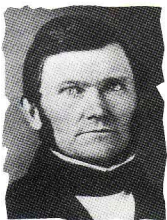
以下の写真の宣教師たちは、
後に末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長となりました。
彼らが宣教師の時代に経験した事柄と
伝道活動に対する証を幾つかご紹介します。

ジョセフ・スミス「アルビン・ギンティンズ」画



初代大管長
ジョセフ・スミス
(1805-1844年)

「宣教師は様々な国に出て行っている。そしてドイツ、パレスチナ、オランダ、オーストラリア、東インド、その他の地域に真理の旗が立てられている。いかなる汚れた者の手も、この御業の発展を止めることはできない。迫害は威を振るい、暴徒は連合し、軍隊は集合し、中傷の風が吹き荒れるかもしれない。しかし神の真理は大胆かつ気高く、悠然と出で立ち、あらゆる大陸を貫き、あらゆる地方に至り、あらゆる国に広まり、あらゆる者の耳に達し、神の目的は遂げられるであろう。かくして、大いなるエホバは、業は成就したと仰せになるのである。」
(History of the Church, 第4巻, 540)



第4代大管長
ウィルフォード・ウッドラフ
(1807-1898年)

イギリスで宣教師として働いていたとき、ウィルフォード・ウッドラフは従順による祝福を受けました。彼は次のように記しています。「わたしは主の御心を伺った。すると主はただ、『南に行きなさい』と言われた。わたしは乗り合い馬車に乗り、南へ130キロほど下った。それから最初に立ち寄ったのは、ヘリフォードシャーのジョン・

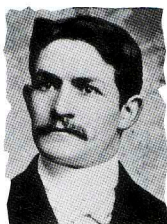
ベンボウ家だった。家に入って30分もたたないうちに、主がなぜわたしをその地に送られたのか、その訳をはっきりと知ることができた。そこにいた人々は、古代に存在していた秩序の回復を祈り求めていたのである。彼らはキリストや使徒たちが教えたとおりの福音を待ち望んでいた。結局、わたしはそこに着いてから約1か月間で600人にバプテスマを施した。この土地で働いた8か月間に、通算1,800人を教会に導くことができた。なぜこのようなことが起きたのであろうか。それは、福音を受け入れる備えのできた人々がいたうえに、主がその地で御業を推し進めるようにわたしを送ってくださったためである。」(ハワード・W・ハンターによる引用「霊性を培う」『聖徒の道』1979年10月号, 34参照)



第8代大管長
ジョージ・アルバート・スミス
(1870-1951年)

南部諸州伝道部で伝道していたころ、ジョージ・アルバート・スミスは、主は御自分に仕える人々をほんとうに守ってくださることを学ぶ経験をしました。ある田舎で福音を教えた後、スミス長老とほかの5人の宣教師は真夜中に、怒った暴徒たちが外で叫ぶ声に目を覚ましました。暴徒たちは建物を取り囲み、中を目がけて銃を撃ち始めました。スミス大管長は後にこう記しています。「頭上

には木の破片が方々に飛び交っていた。……わたしはまったく恐れを感じなかった。人生で最も恐ろしい経験のさなかでありながら、とても平安な気持ちでその場に横たわっていた。わたしは、神の言葉を説き、神の教えに従っているかぎり、主がわたしを守ってくださることを確信していた。そして事実、主はそうしてくださったのである。」(A Story to Tell [1945年] 155-156)



第9代大管長
デビッド・O・マッケイ
(1873-1970年)

デビッド・O・マッケイは、スコットランドでの伝道の経験から福音が真実であるという証を得ました。ある神権会に出席していたとき、「その場にいた全員が、主の御霊の驚くべき力を感じました。」マッケイ大管長はこのときの出来事を次のように振り返っています。「そのような気持ちは以前に経験したことのないものです。それは、まだ若く疑い深かったころ、一人ひそかに、丘や牧草地で熱心にささげた祈りに対する答えでした。この経験を通して、心からの祈りは『いつか、どこかで』こたえられるという確信を得ました。」マッケイ長老が伝道部長から「忠実さを保つなら、いつか教会を指導する〔評議会〕の席に座る日が来るでしょう」と言われたのは、その大会でのことでした。("Two Significant Statements," Deseret News, 1934年10月27日付, 8)



第13代大管長
エズラ・タフト・ベンソン
(1899-1994年)

1920年代のイギリスでの伝道活動は困難なものでした。それで、教会員と教会員でない人々が出席するある聖餐会で話すようにという依頼を受けたとき、エズラ・タフト・ベンソン長老と彼の同僚は、断食と祈りをささげました。ベンソン大管長は後に次のように回想しています。「会場はいっぱいでした。同僚は福音の第一の原則について話すように計画し、わたしの方は背教について話そ

うと思って一生懸命準備をしていました。集会は御霊に満ちたものでした。……席に戻ってから背教について話していなかったことに気がつきました。預言者ジョセフ・スミスのことについて話し、彼の使命とモルモン書の真実性について証しただけだったのです。」集会が終わって、数人が宣教師のもとに来て言いました。「今晚わたしたちはモルモニズムの真実性について証を得ました。バプテスマを受けたいと思います。」ベンソン大管長は次のように言いました。「わたしが常に主に頼ることの必要性を知ったのは、わたしの最初の伝道のときでした。」(「福音を全世界に宣べ伝える使命」『聖徒の道』1984年7月号, 81-82参照)

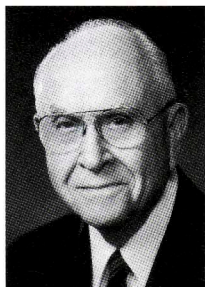


第15代大管長
ゴードン・B・ヒンクレー
(1910年-)

伝道できる若者がほとんどいなかった1930年代の大恐慌時代、ゴードン・B・ヒンクレーはイギリスへ召されました。到着後間もなく、彼は落胆し、自分の時間と父親のお金を無駄にしているのではないかと感じました。彼は父親に手紙を書きました。父親からの返事にはこう記されていました。「アドバイスは一つだけ。自分を忘れて伝道しなさい。」ヒンクレー大管長は次のように回想しています。「わたしはひざまずいて主に願い求めました。そして、主の業のために自己を忘れ自己をささげることが聖約したのです。1933年の7月のその日は、わたしにとって決意の日でした。新たな光がわたしの人生にさし込み、わたしの心には新しい喜びがわき上がりました。」(「世の人々への宣言」『聖徒の道』1987年11月号, 6)

それから何年も経て、ヒンクレー大管長は自分の伝道についてこう述べています。「わたしは〔こうした伝道が経験できたことに〕心から感謝しています。……この経験をするうちに、これはまさしく真実の、神の生ける業であるという確信がしっかりと心に根を下ろしたのです。この業は、これを受け入れ、その原則に従って生活するすべての人を祝福するために預言者を通して回復されたのです。」(「伝道に出るべきですか」『聖徒の道』1986年7月号, 42) □

伝道—— 霊的な冒険



伝道はいつまでも忘れることのない大切な思い出となることでしょう。そのためになどのような犠牲を払うとしてもそれだけの価値のあるものです。

十二使徒定員会 デビッド・B・ヘイト

教会の伝道活動の究極的な目的は、地上に住むあらゆる人をキリストのもとへ来るよう招くことです。世界中の60億の人々が回復された福音のメッセージを耳にする機会を待っています。わたしたちは民としてこの招きとメッセージを携えて行く義務と責任を負っており、それを大きな祝福と感じています。

ソルトレーク・シティーの伝道管理部には毎週800通近くの推薦書が送られてきます。これらの推薦書は救い主の宣言された責任にこたえようとする、全世界の若い男女の信仰と従順を表しています。

ステーク会長や伝道部長が宣教師候補者を推薦すると、待ち焦がれた手紙、すなわち「伝道の召し」が郵便受けに届くまでにさほど多くの日を要しません。

郵便物の中には、最初はだれにも大した注意を払われないような1枚の紙が入っています。それは「宣教師の召しの受諾」と呼ばれる用紙です。これは宣教師が伝道の召しを正式に受諾することを大管長会に連絡する個人的な手紙です。この用紙には15本のけい線が引いてあって、宣教師はそこに、主に仕えるというたぐいまれな機会に対する気持ちを書きます。この手紙は普通は手書きで、簡潔に、率直な言葉で書かれています。しかし、ここに記されるわずかな言葉は、多くを物語り、深い意味を含んでいます。一つ一つの言葉の背後には信仰を鼓舞する物語が隠れているのです。

「救い主はわたしの想像をはるかに超える多くの祝福を下さいました。救い主は御自分の命をわたしに下さいました。わたしの生涯から2年間で主にささげることなどほんの小さなことです。」

多くの手紙に、救い主を信じる信仰と主の犠牲に対する感謝の言葉が記されています。預言者ジョセフ・スミ

スはこのように記しています。「あらゆる行動の動機となるのは信仰であり、信仰をおいてほかにはない。」(Lectures on Faith [1985年] 1-2) 信仰は、救いをもたらすほどの信仰であるためには、キリストを中心に据えた信仰、人の心を動かしてキリストに服従させる、すなわちキリストの模範に従わせるような信仰でなければなりません。宣教師は奉仕の召しを受け入れるときに、信念を行動に移すだけの信仰を持っていることを表しているのです。多くの帰還宣教師が経験しているように、祝福は必然的についで来るのです。救い主を信じる信仰は心の錨(いかり)となります。

「この奉仕の召しを受けたときの幸せと喜びをとて言葉に表すことはできません。福音を宣べ伝えるためにわたしの生涯の2年間で心から喜んでささげます。」

多くの宣教師は受諾の手紙にこう書いてきます。「奉仕の召しを感謝して受け入れます。」けれどもわたしはどれだけの宣教師が「受け入れる」という言葉の意味を理解しているだろうかと考えることがあります。それは与えられたり差し出されたりした何かを進んで受けることを意味しています。前向きに対応することであり、正しく適切に考えることです。グループや地域社会に加入することを許されるという意味もあります。福音に照らして考えると、それは主の御心に服従し、召しを与えた預言者に心から従う(みこころ)ということなのです。伝道の「召し」は心と、勢力と、思いと、力を尽くして主に仕えることで

伝道を始めると、大きな冒険に乗り出すときに感じるのと同じ気持ちを味わいます。興奮や多少の心配、あるいはちょっとした恐れさえも感じるかもしれません。宣教師として働くときに、未知の世界に足を踏み入れます。





す。伝道の「任地」とはどの地で奉仕するかということです。受諾の手紙では、召しと任地の両方を主の御心として進んで受け入れることを表明します。

「わたしは伝道のために長くつらい準備をしてきました。伝道に出ることを決意してから、わたしの行いに関連して抱えていた問題を克服するために1年半近くかかりました。」

ある手紙には悔い改めに要した長い期間について記されています。それはアルマのように、「苦痛に責めさいなまれ」、「自分の多くの罪を思い出してひどく苦しむ」経験でした（アルマ36：17）。感謝すべきことに、聖文には彼らが悔い改めと赦しを通して「美しく、また快い」喜びを味わったことについても記されています（アルマ36：21参照）。

主は宣教師に対して清くあるように命じておられます。「わたしの前に心を清くしなさい。それから全世界に出て行って、わたしの福音を与えられていないすべての造られたものにそれを宣べ伝えなさい。」（教義と聖約112：28）「神から聖任され、遣わされる者」に与えられる神聖な力は、「すべての罪から清められてきれいにされ」ている者たちだけが行使できるのです（教義と聖約50：26-28参照）。

大管長会はこのように述べています。「専任宣教師として働く機会には当然の権利ではなく、大管長の靈感によって召された人々に与えられる特権です。伝道活動とは、文字どおり、主と主の教会に奉仕することです。義になかった働きには必ず成長が伴いますが、伝道活動の主たる目的は個々の宣教師の成長にあるものではありません。」（手紙、2000年12月12日付）神権指導者には宣教師が、霊的、肉体的、情緒的、道徳的に奉仕する資格があることを確認するための具体的な指針を与えられています。それらの条件を満たしていないにもかかわらず召しを与えることは、主に対して、教会に対して、そして宣教師志願者に対して、害を与えることになります。

多くの若い男女が伝道の召しにふさわしく生活していることをわたしたちは感謝しています。悔い改めて、贖罪のもたらす快い喜びを味わっている人々にわたしたちは心から感謝しています。肉体的、情緒的、あるいはそのほ

神に仕える召しを受け入れる人々によってわたし自身の信仰も絶えず強められています。彼らは主を愛するがゆえに恐れを乗り越える人々であり、生ける預言者の呼びかけに進んで従う人々です。

かの理由で専任宣教師として奉仕できない人々は、ぜひ両親や教会指導者から勧められるほかの方法で奉仕していただきたいと思います。

「伝道を決意することは簡単ではありませんでした。野球に対する思い入れが深かったためです。」

犠牲について記している受諾の手紙は膨大な数に上ります。ここに引用した手紙の青年は大学で野球選手として活躍して、プロのチームへ入るという生涯の夢に向かって順調に歩んでいました。しかし、祈りの気持ちでよく考えた末に、はっきりとした答えを得ました。主に仕えるべきであるという答えでした。一度決断してからは、彼の生活における優先順位は明確なものになりました。

預言者ジョセフ・スミスはこのように語っています。「人はこの世にかかわるものをすべて犠牲にすることによって初めて、神の目に喜ばれることを行っているという実感がわくのです。」(Lectures on Faith, 69) 心から大切にしている何かを捨てるようとするのは難しく、時には心の痛みさえ感じるものです。しかし、主はどのような犠牲に対しても豊かに報いてくださいます。

宣教師を志す人々は大好きな車やガールフレンド、音楽、高収入の仕事、そのほか多くのものを捨てたことを記しています。しかし、この世の宝に目がくらんで霊的な機会が見えなくなり、予任されていた伝道の機会からそれていく教会員が大勢います。これに対して、主に仕えるためにすべてを捨てる若者たちにわたしたちはいつも驚き、喜びを感じています。

「つい2年前までは、人生の目的がまったく分からずに生きていました。道を歩く度に、『あなたは何者ですか』とだれかから聞かれるのではないかとおびえていました。わたしにキリストの愛を知らせてくれたのは二人の宣教師でした。わたしと同じような気持ちでいる人々を見つけて、彼らに人生の目的を知らせたいと思います。」

モルモンは「完全な愛はあらゆる恐れを取り除く」と記しました(モロナイ8:16)。宣教師を志す人々は人生の目的と主の愛が分かると、恐れを物ともせずに行動する勇気を得ます。このようにして、彼らは自分の抱いた恐れが思い違いであり、心の中で自分が作り出したものであることを知るのである。主は宣教師に対して度々、障害に直面するときにそれを乗り越えて成功する力を与えてくださると約束しておられます。「わたしの力の下でおのく者は強くされ、……賛美と知恵の実を結ぶであろう。」(教義と聖約52:17) ハロルド・B・リー大管長(1899-1973年)はよく、「主から召される人は、主によ

現在伝道中の宣教師たちが、伝道への決意について語ってくれました。

ビクトール・マヌエル・ エスピノーザ・サンチェス長老、 ペルー、アバンカイ出身

「わたしが伝道に出たのは、大学の医学部卒業まで1年を残すだけというときでした。友人に2年間休学することを告げると、彼らはわたしを思いとどまらせようとしてしました。でもわたしは、今こそ伝道に出るべき時だ、と心から確信していました。その決心ができたことに感謝しています。また、この時間が無駄にはならないことを知っています。」

譚 宜意姉妹、 香港出身

「わたしは、宣教師になるとは、人がイエス・キリストについてもっと知ることができるように伝道することだと香港の友人に話しました。すると『どうしてイエス・キリストについてもっと知る必要があるの?』と質問してきました。わたしはこう答えました。『主がわたしたちに、もっと幸せになってほしいと望んでおられるからよ。』」

ジャスティン・マイケル・コリングズ長老、 アメリカ合衆国ユタ州プロボ出身

「『ジョセフ・スミスは、ただイエスは別として、この世に生を受けた他のいかなる人よりも、この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げ』ました(教義と聖約135:3)。ジョセフ・スミスについて学ぶ度に、わたしはいつも驚き、心を奪われ、教化され、靈感を受けます。わたしたちが述べるジョセフ兄弟についての証はとて**あかし**も大胆な証です。しかし、末日における神の王国の業そのものが大胆なものなのです。わたしたちには、弁解も、自分たちの信条の簡潔さに対する弁明も必要ありません。ただ、イエスが生ける神の御子であられ、ジョセフが神の預言者であると証すればよいのです。」

って適格な者とされる」と語りました。

一人の若い男性が監督のもとへ行って、とてもレッスンプランを覚えられないのではないか、そして福音を教えることなどできないのではないかと不安に感じていると言いました。彼は、自分自身を主の代表者としてふさわしくない者だと感じていました。モーセやエレミヤ、エノク、そのほかの人々は、自分の受けた召しにふさわしくないと感じていました。しかし主は彼らを強めて、語るべき言葉を与えると約束されました（出エジプト4：11-12；エレミヤ1：7-9；モーセ6：32-34参照）。恐れを克服して、口を開くならば、^{こんにち}今日の宣教師にも同じ約束が与えられています。「この民に向かって声を上げなさい。わたしがあなたがたの心の中に入れる思いを語りなさい。そうすれば、あなたがたは人々の前で辱められることはないであろう。あなたがたの言うべきことは、まさにそのときに、まことにその瞬間にあなたがたに授けられるからである。」（教義と聖約100：5-6）

スペンサー・W・キンボール大管長（1895-1985年）はこのように語りました。「伝道活動を行うときに霊的な冒険を経験します。」（“It Becometh Every Man,” *Ensign*, 1977年10月号, 7）多くの方がすでに御存じであるように、伝道を始めると、大きな冒険に乗り出すときに感じるのと同じ気持ちを味わいます。興奮や多少の心配、あるいはちょっとした恐れさえも感じるかもしれません。宣教師として働くときに、未知の世界に足を踏み入れます。見知らぬ文化を持つ外国へ赴任するかもしれません。初めて会う人を同僚として常に一緒に暮らすことが求められます。伝道活動の本質は新しい人たちに会って話しかけ、彼らには異様とも映りかねない、驚くべき不思議なことについて証することです。公衆の面前で自分たちの信条を明らかにすることは、あざけられ、ばかにされる覚悟がなければできません。そのようなことは冒険に付き物です。そして、ほかの多くの冒険と同じように、わたしたちは残る生涯を通じてその体験を大切な思い出として語ることでしょ。

「宣教師の召しの受諾」の手紙には霊性と信仰が豊かに表されています。神に仕える召しを受け入れる人々によってわたし自身の信仰も絶えず強められています。彼らは主を愛するがゆえに恐れを乗り越える人々であり、生ける預言者の呼びかけに進んで従う人々です。すべてのふさわしい若い男性と、希望するすべての若い女性が伝道という驚くべき冒険を経験するようわたしはいつも祈っています。□

エリカ・ピランスカ姉妹, チェコ共和国ブルノ出身

「両親とわたしが宣教師から福音を学んでいたときに感銘を受けたのは、彼らがわたしたちに対して実に親切だったことと、同僚同士の互いに対する立派な態度でした。人々が幸せになり、神がわたしたちすべてを愛しておられることを知ってもらえるように、わたしも人々に彼らと同じことをしたいと思いました。」

セサル・アルトゥーロ・ロドリゲス・ エルナンデス長老, メキシコ, オブレゴン出身

「わたしは、大学や仕事、教会の召し、家族から離れ、しかもヨーロッパとアジアでのダンスの公演もあきらめました。でも伝道に出からは、今まで以上にいつも心に天国と神を感じるができるようになりました。」

おのあやこ 小野綾子姉妹, 札幌市出身

「わたしは福音を通して人々の心に触れたいと願っています。主がわたしを道具として用いてくださることを喜んでいます。」

キース・J. シュミット長老, アメリカ合衆国カリフォルニア州シェリダン出身

「わたし以外の家族はだれも教会員ではありません。わたしが伝道に出ることを初めて口にしたとき、家族は、わたしが帰還しても家での同居は許さないと言いました。しかしその後両親の気持ちは和らぎ、今では宣教師となった息子を誇りに思うほどになっています。」

アレクサンドリナ・バディア姉妹, ルーマニア, ブクレシュティ出身

「わたしは伝道が大好きです。ほかの人たちがイエス・キリストの福音を理解できるよう力になりたいと心から願っています。この福音がわたしと家族の生活を変えてくれたからです。天の御父が世界中のすべての人を愛してくださっていることを皆に知ってもらいたいと思っています。」□



質疑応答

自分がなぜ 伝道に出たいのか、 どうすれば友人に 理解してもらえるでしょうか

本誌の答えは、問題解決の一助として与えられたものであり、
教会の教義を公式に宣言するものではありません。

回 答

教会員として、ある種の事柄をなぜ行うのかほかの人に説明するのが難しいと思うことがあるかもしれません。教会外の人々は主の戒めに対して、窮屈で厳しいものという誤った見方をすることがよくあります。言うまでもないことですが、わたしたちは戒めに従うことによって、幸福になり、成長し、守られるということを知っています。

あなたの友人に伝道について説明するための第一歩は、あなたの人生にとって福音がどれほど大切か伝えることです。友人たちがどのような趣味や活動に多くの時間を割いているか知っていますか。恐らく、彼らは勉強、スポーツ、芸術のいずれかに秀でているかもしれません。彼らが勉強やリハーサル、あるいは反復練習に時間を費やすのとまったく同じように、あなたも教会に時間をささげるのだと説明してください。もし適切ならば、証を述べてください。伝道に出ることは、主と主の福音に対する確信、ほかの人々が福音を知る手助けをしたいという望みを行動に表すことだと説明してください。

次に、自分の益のために伝道に出る

わけではないが、結果的に自分にも祝福がもたらされるということについて説明してもよいでしょう。帰還宣教師は、規律、勤勉、対人関係、予算のやり繰り、忍耐など、伝道中に身に付けたことについてよく話してくれます。多くの宣教師が外国の言葉を学び、外国に住むことについても友人に話してください。ほとんどの人々はこのような経験を教育的だと考えることでしょう。

帰還宣教師のほとんどは、宣教師だったころのことに対して熱い思いを持ち、自分の経験を熱心に分かち合います。あなたの友人は、宣教師の生活がどのようなものか知りたいと思っているかもしれません。帰還宣教師に会えば、宣教師のほとんどが自分たちのささげた犠牲と受けた祝福に感謝していることが理解できるでしょう。

機会をとらえ、喜んで、また進んで福音に関する質問に答えてください。会員として伝道活動に携わることによって、将来専任宣教師となることに胸躍らせていることをほかの人に示してください。

読者からの提案

わたしは友人に宣教師を通して教会を知るようになったことを話しています。伝道は主の福音の光を人々の間に広める方法であること、また、この愛の働きに関与することはすばらしい祝福であることを話しています。友人と世界中のすべての人々を愛していること、だれもが福音の祝福を受ける機会にあずかれるよう望んでいること、ただ一人の人でも助けることができたならば言いようのない大きな喜びがもたらされることについて話すようにしています（教義と聖約18：15-16参照）。

ラトビア・リガ地方部、

リガ中央支部

アーニス・カンリンシュ

伝道をしているすべてのの人にとって、伝道は祝福です。なぜなら伝道を通して福音に関する知識が増すからです。しかし、最も大きな祝福は人をキリストのもとに連れて行く手助けができることです。

タヒチ・ラロマタイステーク、

ウツロアワード

タヒア・モウ・ファ

あなたの愛、信仰、福音に関する証が、聖霊の助けによって、あなたの表情の中に光り輝きます。周囲の人々にあなたの幸福の源が福音であること、あなたが宣教師になりたいのは、あなたと同じ幸福を得る方法をほかの人々に教えるためであるということを伝えてください。

台湾高雄ステーキ、

高雄第6ワード

江 雅 齡

あなたの友人にわたしたちはすべて兄弟姉妹であるということ、福音を知らない人々を助けるために伝道に出るのだということを伝えてください。あなたの友人が理解できるよう天の御父に祈ってください。

ロシア・サンクトペテルブルク北地方部、
サンクトペテルブルク・ツェントラル二支部
エカテリーナ・ロディオナバ

わたしにとって、伝道になぜ出たいのか友人に理解してもらう唯一の方法は、福音を知るようになってから自分の生活の中に生じた変化を見てもらうことです。

伝道は数多くの祝福をもたらすということを多くの宣教師から聞きました。伝道に出る前に、天の御父は彼らに多くの祝福を与えられました。それで、宣教師たちは伝道に出たらお返しができるだろうと思っていました。しかし伝道中、天の御父はさらに多くの祝福を与えてくださったということです。

ウクライナ・ドネツク伝道部、

ポルタバ・ツェントラル二支部

ユリーア・イホリウナ・コサレツカ

わたしの上司、クラスメート、隣人、
親戚は、イエス・キリストについて教えるために仕事や学校、家庭を捨てるのはばかげた行為だと思いました。わたしがこのことを行っても報酬をもらえないと知ったときは、さらに心配しました。

わたしは主に助けを祈り求めました。わたしはこうに人々に尋ね始めました。「人生の目的は何ですか。わたしたちはどうしてこの地上に生きていますか。わたしたちはこの地上での人生を終えた後どこへ行きますか。」わたしは救いの計画について証を述べました。たくさんの神の子どもたちがこれらの質問に対する答えを待っていることを説明しました。

ブラジル・マセイオ伝道部

カルロス・エドアルド・ファリア・
ボアト長老

神が友人たちの心を和らげてくださるよう謙遜に祈りながら、教会に関するわたしの証、モルモン書に対するわたしの気持ち、主の業に参加したいというわたしの大きな望みを伝えました。その結果、教会のことを学び始めた友人もいました。

フィリピン・ダバオ・ブハンジンステーキ、
ランランワード

メイ・J・ティコン

送別会の席上、わたしは伝道に出る理由について話しました。話し終わったとき、わたしの友人たちは涙を流していました。きっと主の御霊に心を動かされたのだと思います。そのときの友人の中には、現在、宣教師として働



アーニス・カンリンシュ



タビア・モウ・ファ



江 雅 齡



エカテリーナ・
ロディオナバ



ユリーア・イホリウナ・
コサレツカ



カルロス・エドアルド・
ファリア・ボアト長老



メイ・J・ティコン



マーク・アミアン長老



エブリン・
アルバレス姉妹



ロベルト・パチェコ長老



ウンベルト・マルティンス・
デ・アラウーホ・
ジュニア長老



ベニヤミン・ムランボ・
ワ・ムランボ

いている人々もいますし、教会のことについて学んでいる人々もいます。

ナイジェリア・ラゴス伝道部

マーク・アミアン長老

友人であるエリアナとわたしは一緒に教育と仕事の計画を立てていました。しかし、伝道について祈ったときに、「伝道に出るように」という答えを受けました。わたしはエリアナに福音がわたしの生活にもたらしたことについて話しました。わたしが簡潔に証をしたとき、聖霊からの影響力が及び、エリアナは理解できるようになりました。

ペルー・トルヒーヨ伝道部

エブリン・アルバレス姉妹

イエス・キリストの福音がどのようにわたしの生活を変えたか、またなぜ、福音に関する真理を伝えるためにすべてを捨ててやって来た宣教師から福音を聞くようになったのか話しました。今度はわたしが福音の喜びを分かち合う番だと友人たちに告げました。

ペルー・リマ中央伝道部

ロベルト・パチェコ長老

なぜ伝道に出る計画を立てているのか、またそれがわたし自身の人生と伝道中に会おう人々の人生にどれほど意義あることか説明する機会は、高校時代によくありました。伝道活動の重要性をクラスメートが理解できるように、教会のパンフレットを配ることさえありました。

ブラジル・クリティーバ伝道部

ウンベルト・マルティンス・デ・
アラウーホ・ジュニア長老

友人に伝道のことを理解してもらうのに役立ったものがあります。祈ること、聖文を活用すること、そして、天父の子どもたちの生活の中に生じた変化を示す出来事について紹介することです。

コンゴ民主共和国キンシャサステーク、
ビンザワード

ベニヤミン・ムランボ・ワ・ムランボ

下記の質問に答えて「質疑応答」のページをさらに有意義なものにしてください。締め切りは2001年12月1日、あて先は次のとおりです。

QUESTIONS AND ANSWERS
12/01, Liahona Floor 24, 50 East North
Temple Street, Salt Lake City, UT
84150-3223, U.S.A.またはEメールで
CUR-Liahona-IMag@ldschurch.orgま
でお送りください。

住所、氏名、年齢、所属ステーク／
地方部、ワード／支部名を明記のうえ、
日本語で意見をお寄せください。手書
き、パソコン、いずれでもけっこうで
す。手書きの場合は、かい書で読みや
すい文字でお書きください。できれば
写真を同封してください。ただし返却
は致しかねますので、あらかじめご了
承ください。類似した答えの場合は、
代表的なもの1通を採用させていただきます。

質問——悲しく感じることが多いので
すが、もっと幸せを感じるためには何
ができるでしょうか。

あなたの

召し

バーバラ・ジーン・ジョーンズ
フォトリストレーション/ジェド・A・クラーク

監督や支部長との最初の面接から、胸躍る白い封筒が到着するまでには、いつ、どんなことが起こるのでしょうか。以下に具体的に紹介しましょう。

召しを受けることは、将来宣教師になる人々の人生において、間違いなく、最も心躍る出来事となり、同時に最も困難な経験の一つとなります。宣教師推薦書がステーク会長あるいは伝道部長の手を離れてから、最終的に伝道の召しを知らせる手紙が郵便受けに届けられるまでの間の、じっとしていられないような数週間一体どのようなことが行われているのだろうかと思ったことのある人は、次の説明を読んでみてください。伝道の召しを受けるまでのそれぞれの段階で何が行われているかを理解し、書類を適切に完成させるための貴重な情報を得られるでしょう。

書類の記入

伝道に出発可能な日から約4か月前に、監督または支部長との個人面接を受けられるよう約束し、宣教師推薦用の書類を受け取ります。これには、『宣教師推薦書』記入チェックリスト』『宣教師推薦書』（裏面に「神権指導者の所見および提案」が印刷されている）、『宣教師健康診断書』が含まれています。

『宣教師推薦書』には、履歴や、外国語を学ぶ意欲と能力、学歴、伝道費用の負担方法を含む、自分自身に関する情報を記入します。自分自身について完全に正確に記載するために、父親や母親ではなくあなた自身の手で記入する必要があります。あなたの望みや能力について

率直に正直にすべてを記入してください。

この書類には、宣教師の標準に基づいて服装と身だしなみを整えたあなた自身の写真を添付してください。十二使徒定員会の会員は、提出された個人情報を読むだけでなく、あなたがどの伝道地に召されるべきかという靈感を求めて写真を見ることでしょう。提出された写真は、あなたの伝道地が割り当てられた後、その地域の伝道部長に転送されます。伝道部長に与えるあなたの第一印象はとても大切です。

推薦書の記入を始めると同時に、診断を受けるために、歯科医と医師にすぐに予約を入れてください。医療に関する専門家から早めに診断を受けておけば、治療を要する健康上の問題が明らかになったとしても、伝道の開始を遅らせる必要がなくなるでしょう。あなたの健康に関して、あなた自身と医師が健康診断書に記入した、正直で詳しい診断は、伝道地の割り当てを考慮するうえで、重要な要素となります。

書類が完成し、健康上の問題が解決したら、もう一度監督または支部長の面接を受けます。監督または支部長は、あなたが宣教師としてふさわしく準備できていると判断すると、ステーク会長または伝道部長の面接を申請してくれます。もしもあなたの生活において戒めに反する事柄があり、それらが適切に解決されていない場合、速やかに神権指導者に援助を求めてください。これから



宣教師になろうとする人はだれでも、未解決の問題を無視して平静を装うことができるなどと思っはなりません。告白や悔い改めを引き延ばしていると、伝道の召しが延期されたり、あるいは取り消されたりすることがあります。また、宣教師として召された後に告白がなされた場合、悔い改めの過程を完全なものとするために、相応の時間を取るよう、自宅に送還されることもあります。

書類の処理

神権指導者は、あらゆる観点から見てあなたに伝道の備えができていると判断した後、「神権指導者の所見および提案」の各項目に記入し、それらの情報を地域会長会事務局に送ります。書類に記された情報は、伝道管理部の作成したソフトウェアを用いてコンピューターディスクに入力されます。このような電子システムによって、同管理部は年間3万5,000の召しを処理することができます。

あなたの推薦書の入ったディスクと書類は、今度は地域会長会事務局からソルトレイク・シティの伝道管理部へ送られます。そこでディスクの情報が伝道管理部のコンピューターシステムに取り込まれます。書類に不備があった場合や、伝道開始可能な日から90日以上前に到着した場合、書類は、再提出するように、あるいは問題を解決するようにという指示とともに地域会長に返送されることもあります。

次に、医師によって構成される委員会が「健康診断書」と「歯科健康診断書」の内容を検討し、記載が完全であるか、またあなたが肉体的にも精神的にも、専任宣教師としての過酷な働きに耐える備えができているかどうかを確認します。

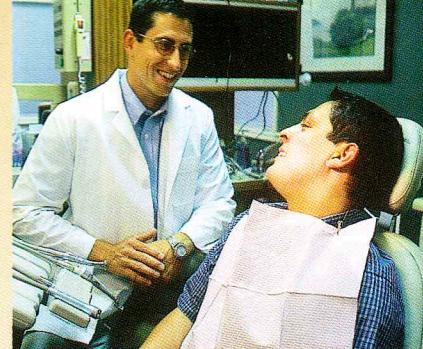
推薦書がこの段階まで処理された時点で、伝道地の



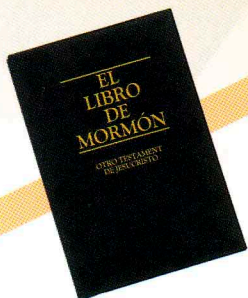
伝道に出発可能な日から約4か月前に、監督または支部長との個人面接を受けられるよう手配してください。



自分自身の手で、正確に誠実に記入してください。そして宣教師の標準に基づいて服装と身だしなみを整えたあなたの写真を添付してください。



できるだけ早く医師と歯科医の予約を入れてください。そうすれば伝道の開始を遅らせる必要がなくなるでしょう。



割り当てを受ける準備が整ったことになります。

伝道部の割り当て

どの宣教師も、教会の大管長を通して神からの召しを受けます。実際の伝道地の割り当ては、預言者から任命され、権能を与えられた十二使徒定員会の会員によって行われます。

伝道地を割り当てるべき宣教師の数に応じて、毎週2人から4人の十二使徒定員会会員が教会本部に集まり、一人ずつ別々の部屋に入ります。定員会の会員はそれぞれの部屋でひざまずいて祈り、神の導きを求めた後、コンピューターの画面に向かいます。画面上には宣教師の候補者の写真と個人情報が一人分ずつ表示されます。また、教会のすべての伝道部における宣教師の必要状況も同時に表示されます。こうして、宣教師一人一人に、特定の伝道部が割り当てられるのです。

トーマス・S・モンソン長老は、十二使徒定員会の会員だったころ、このように述べました。「確かに、そのような神聖な責任には、必ず神の靈感が伴います。」(『主の軍勢』『聖徒の道』1990年4月号、30)

召しの通知を受け取る

伝道の召しを受け、伝道地が割り当てられるとすぐに、通知の手紙と伝道に関する資料のセットがあなたあてに郵送されます。あなたの住んでいる地域によって、また提出書類が適切に記入されていたかどうかによって、こ

書類が送られてから2週間から6週間後、あなたは、召しを知らせる手紙の封を開けるとい、霊的で心躍る経験をするでしょう。

れら一連の処理には2週間から6週を要します。

伝道の召しを知らせる手紙を受け取ったことのある人ならだれでも、それがどんなに霊的で、わくわくする経験であるかを知っています。ユタ州テラーズビルのジョエル・ヒラーは、母親が台所の食卓に置いた白い封筒を見たときから、胸が高鳴り、家族と二人の親友が自宅に集まるまでの数時間が待ち切れませんでした。

やがて、ジョエルの人生において最も長い3時間が過ぎ、皆が集まって来ました。そして、興奮しながら話したり笑ったり、伝道地を推測したりしました。けれどジョエルが封を開け、預言者の言葉を声に出して読み始めると、部屋は突然霊的な静けさに満たされました。それは次のような言葉でした。「親愛なるヒラー長老、あなたはここに末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師として奉仕するように召されました。」

手紙の続きを読みながら経験した出来事を、ジョエルは次のように語っています。「わたしは召しを受けたことを、とても誇りに思いました。そしてこれは正しいことであり、わたしにとってふさわしい伝道部であると、聖霊から直接、証を受けました。それは一生に一度の経験でした。」□



書類が完成したら、もう一度監督または支部長の面接を受けます。



あなたの準備ができると、監督または支部長は、ステーク会長または伝道部長との面接を手配してくれます。



神権指導者が、あなたの準備が整ったと判断したら、あなたの情報は地域会長会を通じてソルトレーク・シティの伝道管理部に送られます。



伝道に 備える

どのような備えをすれば、
自分になり得る最高の
宣教師となれるでしょうか。

以下は、現役の宣教師、そのほかの
読者からの勧めです。

- 毎日祈りましょう。よく備えられるよう、天の御父に助けを求めてください。
- 主はふさわしい宣教師を必要としておられます。日々戒めに従って生活してください。
- セミナーやインスティテュートに出席し、よく耳を傾けましょう。
- 毎日、聖文、特にモルモン書を読んでください。モロナイ書第10章3節から5節に書かれているモロナイの約束を実行してください。
- 自分の受けた召しや割り当てを尊んで大いなるものとする^{みたま}ことで、責任を果たすことを学んでください（教義と聖約88：80参照）。例えば、ホームティーチングは、人々と信頼関係を築くことを学ぶ絶好の機会です。
- できるかぎり頻繁に神殿に参入しましょう。
- 家族とできるだけ多くの時間を過ごしてください。家を離れている間は、家族に会えなくて寂しい思いをすることでしょう。家族の祈り、家庭の夕べ、その他の家族の活動に加わりましょう。
- 家庭の夕べで、聖文や宣教師の福音の標準教授法を使って、家族に教える練習をするとよいでしょう。

- 毎週、日曜日には教会に集い、御^{みたま}霊を感じてください。
- 祝福師の祝福を受けてください。もしすでに受けていれば、祝福文を頻繁に読み返しましょう。
- 人と面識を持ったり、親しくなった^{あかし}りする練習をしてください。
- 伝道には体力を要します。健康状態を良好に保てるよう、運動してください。
- 今から貯金を始めましょう。貯金できるときはいつも、伝道資金として取っておいてください。
- 専任宣教師や、ワードまたは支部の

伝道主任とともに働きましょう。

- 専任宣教師と組んで教えてください。また彼らが教える姿をよく観察してください。
- 練習として、友達にレッスンを教えてください。
- ワード／支部のバプテスマ会に出席しましょう。
- あらゆる機会を活用して証を述べ^{あかし}ましょう。
- 教会員でない友人を、教会やその他の活動に招待してください。
- 伝道準備クラスに出席しましょう。
- 信仰箇条を暗記しましょう。□

オーストラリア・パース神殿、奉獻される



パース神殿はオーストラリアで4番目の神殿となる。
「これらの新しい神殿は多くの新会員に家族を結び固める機会を提供することでしょう」と地元の指導者は語った。
写真／リチャード・ハンター

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は5月20日、4回にわたって開かれたセッションにおいてオーストラリア・パース神殿を奉獻した。この新しい神殿は儀式が執行されている教会の神殿として106番目に当たり、オーストラリアで4番目の神殿となる。

ヒンクレイ大管長は奉獻の祈りで次のように述べた。「わたしたちはこの神殿をはじめとして数々の神殿が建てられているオーストラリアの地をお与えくださったことを感謝しています。この地で……与えられている礼拝の自由に感謝しています。この偉大な国家がいつまでも個人の自由を尊重する国であって、人々がいかなる種類の脅威や妨害にも遭うことなくこの建物の中であなたに近づくことができますように祝福してください。」

この奉獻式には十二使徒定員会のジェフリー・R・ホルランド長老、オーストラリア・ニュージーランド地域会長会を構成する七十人のケネス・ジョンソン長老、バル・R・クリステンセン長老、地域幹部七十人のビクター・D・ケイブ長老が参加した。

神殿の奉獻式には2,800人近くの教会員が出席した。4月28日から5月12日までの日曜日を除く毎日、開催されたオープンハウスには政府、実業界、メディア、宗教団体の著名人を含む約3万

7,000人が訪れている。

アデレード、メルボルン、シドニーの神殿は近年奉獻されており、さらにオーストラリアで5番目の神殿が建設されるブリスベンではすでに鉄入れ式が行われている。オーストラリア・パース・ワーウィックステークのピーター・ミューアーズ会長はこれらの新しく建てられている神殿についてこのように述べている。「オーストラリアは教会にとって非常に大切な位置を占めるようになってきました。これらの新しい神殿は多くの新会員に家族を永遠に結び固める機会を提供し、イエス・キリストの回復された福音に対する信仰を強めるものとなることでしょう。」□



新しい神殿の隅石を封じるオーストラリアの青少年。
写真／リチャード・ハンター

開拓者をたたえる式典に出席したヒンクレー大管長とファウスト副管長

5月12日ソルトレーク・シティーにおいて行われた式典においてゴードン・B・ヒンクレー大管長は復元された開拓者小屋を記念館として奉獻した。同じ日に大管長会のジェームズ・E・ファウスト第二副管長はワイオミング州を訪れ、同州において末日聖徒がささげた犠牲を人々の記憶にとどめるために尽力した教会員をたたえる式典に出席して、話した。

ヒンクレー大管長はソルトレーク・シティーの「ジス・イズ・ザ・ブレース記念公園」に復元されたリチャード・ベイとメアリー・ゴープル・ベイの丸太小屋を奉獻する式典において話をしている。この家はヒンクレー大管長の夫人マージョリー・ベイ・ヒンクレーの祖父母であるベイ家が所有していたものであった。当時はユタ州中部地域に建てられていたものであったが、ベイ家の人々によって復元され、ジス・イズ・ザ・ブレース財団に寄贈された。

奉獻式には十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老も出席している。

ヒンクレー大管長は開拓者小屋を奉獻する祈りの中で、開拓者の一団が受けた苦難について述べている。メアリー・ゴープルの家族とリチャード・ベイの家族が加わっていたこの一団は西部を目指して合衆国を横断する旅の途中、激しい雪嵐のためにワイオミングで立ち往生していた。ヒンクレー大管長は祈りの中で次のように述べた。「かつて開拓者であった人々の子孫である者たちは皆、この復元された家を偉大にしてたぐいえない受け継ぎの記念として心にとどめます」またさらにこう語った。「開拓者たちが抱いていた大きなビジョンを、わたしたちも持てますように、彼らが持っていたような堅固な信仰を、わたしたちも持

てますように祝福してください」

メアリー・ゴープルとリチャード・ベイは1856年、ウィリーとマーティンの手車隊とともにワイオミングを旅した幌馬車隊に属していた。このグループに属していた開拓者の多くは、ブリガム・ヤング大管長が派遣した救援隊の到着する前に命を落としている。

ワイオミングで行われた式典で、ファウスト副管長はその開拓者グループの救出に向かった二つの隊について述べた。1856年の最初の救出隊によって、多くの開拓者は命を救われた。2度目の救出隊が到着したのは1990年代であった。このとき、多くの開拓者のために神殿で救いの儀式が執行され、彼らの犠牲の記念碑が史跡地に建立されたのである。

ファウスト副管長はスコット・ロリマー、ディー・ロリマー夫妻をたたえる式典の主賓として招かれた。スコット・ロリマーとディー夫人はスコットがワイオミング州リバートンステーキ会長を務めていたときに、現在記念碑と訪問者センターが建てられている史跡地を広く人々に知らせる運動を展開した。彼らの努力をたたえて、ワイオミング州議会は2001年5月12日を「スコット・ロリマー、ディー・ロリマー夫妻の日」とすることを宣言したのである。

ファウスト副管長はウィリーとマーテ



「ジス・イズ・ザ・ブレース記念公園」で復元された小屋を奉獻するヒンクレー大管長。

写真/スコット・ロイド、『チャーチニュース』(Church News)の厚意により掲載。

インの手車隊に加わった開拓者たちが「信仰のために苦痛と苦難によって支払った並々な代価」について語った。「わたしたちは、思いやり深く憐れみに満ちておられる神がなぜ風雪を弱めて、この上なく厳しい苦しみから彼らを救われなかったのだろうかと考えます。わたしは自分で納得できる答えを見つけたと思います。違っているかもしれませんが、彼らの命はその苦しみと模範を通してより高い目的のために聖別されたわたしは信じています。救い主を愛する気持ちには彼らの心の奥深くにしっかりと根を下ろしていました。そして、彼らの子どもたちの心に、さらにその子どもたちへと永遠に受け継がれていくことでしょう。彼らのそのような姿勢は、心底からの、真の改心を原点としていたのです。」

この式典には北アメリカ中央地域会長会会長の دونالد・L・ステーリー長老、州政府の指導者、リバートンステーキの現会長ロイド・ラーセンが出席した。□

200歳の誕生日にブリガム・ヤング大管長をたたえる

6月1日、ブリガム・ヤング大管長の生誕200周年を迎え、大管長の功績をたたえるプログラムが2か所で催され

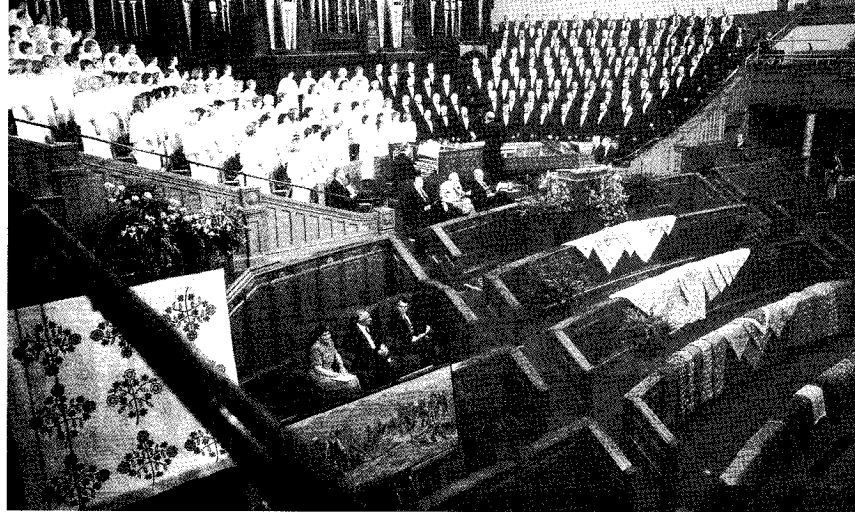
た。開催された場所は、大管長が1800年代中ごろに教会とその会員たちの入植を支援したソルトレーク・シティーと、

大管長の生誕地バーモント州である。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は1日の夜、ソルトレーク・シティーのテンプルス

クウェアにあるタバナクルで行われたコンサートプログラムでこのように述べた。ヤング大管長は、建設の貢献者、改革者、開拓者、人々を動機づける指導者として正統に知られながらも、「自分に与えられたさらに大いなる召しを見失うことは決してありませんでした。彼は自分の民の預言者、聖見者、啓示者でした。」

ヒンクレー大管長は次のように語る。「人類の救いの計画、人の永遠の可能性、人類の救い主の贖いと贖いが神の息子と娘に及ぼす影響、すべての人の父であり宇宙の偉大な神である御方について話すときのヤング大管長は、預言者としての光をこの上ないほど放っていました。」



200歳の誕生日を記念してブリガム・ヤングを追悼する教会指導者とタバナクル合唱団。
写真/クレグ・ダイヤモンド

(Brigham Young Family Association)の会長であるトーマス・B・ウィリアムズがあいさつの言葉を述べた。

ウィリアムズ兄弟は、預言者の子孫に受け継がれる真の祝福は、物質的なものでも社会的なものでもなく、霊的なものであると語った。彼は、「ブリガム・ヤングは何にも増してイエス・キリストの熱心な証人でした」と述べ、子孫にもたらされるその祝福はヤング大管長の証に注意し、模範に倣うことによって得られると話した。ウィリアムズ兄弟は、ヤング大管長と今日のヒンクレー大管長が預言者として召されていることについて証を述べた。

この会の開閉会の祈りは、ヤング大管長の子孫によってささげられた。カリフォルニア州シールビーチに住み、孫娘のうちただ一人現在も存命しているマリアン・モーガン(102歳)も同席した。

ヒンクレー大管長は、この日の昼に開かれた昼食会で、ジス・イズ・ザ・プレース財団から第1回ブリガム・ヤング・ヘリテージ賞を受けた。大管長は、開拓者を記念し、ブリガム・ヤングが築いた地域社会の建設する努力をたたえられた。

夜のコンサートに先立ち、ソルトレーク・シティ市街のブリガム・ヤング墓地において、ヤング大管長の新しい銅像の除幕式が行われた。銅像は、父親、教師として二人の子どもに本を読むヤング大管長を表している。

ユタ州知事マイク・レビットは、2001年6月1日を特別に「ユタ州におけるブリガム・ヤングの日」と宣言し、ユタの領地

で最初の知事を務めた人物の200歳の誕生日を記念した。

ブリガム・ヤングは、1801年6月1日、バーモント州ウィットニングハムに生まれた。地元出身のヤング大管長をたたえようと、彼の生誕記念日には、合わせて約180人の教会員やそのほかの人々がニューイングランド中から集まり、バーモント州ジャクソンビルにある小さなウィットニングハム市営センターの記念行事に参列した。

ウィットニングハムを管轄地域に含むヒンズデール支部のドン・ガーブ支部長は、この集会のプログラムと集会でなされた話が「多くのニューイングランド住民たちがブリガム・ヤングと教会に対して抱えている誤解を解く」うえで助けとなったと語った。□



6月1日、ソルトレーク・シティのブリガム・ヤング墓地で除幕されたヤング大管長と二人の子どもの像。

写真/ドン・L・サール

ヤング大管長が、1847年、ソルトレーク神殿の建設地を示すために用いた杖を掲げるヒンクレー大管長。

写真/クレグ・ダイヤモンド

ヒンクレー大管長は、教会の第2代大管長についてこのように話した。「今日、ヤング大管長の200回目の誕生日に、賛辞の言葉を述べたいと思います。わたしたちはヤング大管長を愛しています。尊敬しています。心から敬愛しています。わたしたちは、ヤング大管長の召しが神から与えられたものであり、彼がそれを立派に成し遂げたことを証します。そして、この偉大な大義と王国、すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会を前進させるうえで、今もなお指導者の模範として仰ぎ、倣っています。」

ヒンクレー大管長とともに、大管長会のトーマス・S・モンソン第一副管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長もこの会に出席した。モンソン副管長が司会を務めたこの会では、タバナクル合唱団が賛美歌や唱歌を歌い、ブリガム・ヤング・ファミリー・アソシエーション

第6回国際美術コンテストへの応募作品募集

教 教会歴史美術博物館は、末日聖徒の芸術家が芸術と信仰を調和させ、新しい創作品を生み出すことを目的とし、コンテストを主催する。そのため、2003年に開かれる第6回国際美術コンテストに新しい美術作品を出品するよう呼びかけている。2003年3月21日から9月1日にかけて開かれる作品展の主題は、末日聖徒の生活全般に及び、テーマは「過去、そして現在の末日聖徒——信条、歴史、生活」である。出品作品は、以下の(1)から(3)の項目のうち一つ以上の項目に関連したテーマ、物語、人々、場所、概念が描写されていることが条件となる。(1)聖文のメッセージや物語および預言者の教えを含む、末日聖徒の教義、信条、教え。(2)教会歴史上重要な出来事、場所、人々。(3)教会、家族、個人の活動およびプログラムを含む福音の教えや価値観を末日聖徒の生活に実践する姿。博物館はプロおよびアマチュアの芸術家による卓越した作品を求めている。

18歳以上の末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であれば誰でもコンテストに出品できる。出品は一人一点に限定。さらに主催者側は、多種多様な文化のおよび審美的伝統、スタイル、手法、形式を歓迎している。絵画、彫刻、キルト、織物、陶磁器、装身具、木彫り、金属細工、写真、デッサン画、版画など。応募作品は2000年1月1日以降の完成品に限定。また作品の寸法は、額を含め最大213センチ四方までとする。

一次審査はスライドおよび写真にて行われる。写真およびスライドの返却は行わない。一次審査の段階では作品自体は送付しないこと。

二次審査に選ばれた作品の作者は、2002年12月15日以降に通知を受ける。合衆国およびカナダ以外の国に住み、一次審査通過の通告を受けた作者は、2003年1月7日までに最寄りの教会配送センターに作品の現物を送付する。配送センターは博物館あてに2003年2月7日必着で輸送を行う。審査の基準は、テーマがいかに独創的かつ巧みに表現されているか、さらにいかに審美的かつ技術的に仕上げられているか、という点に置かれる。

合衆国およびカナダ以外の出品者のための応募用紙は、2002年5月以降、地元の配送センターで入手することができる。もしくは名前と返信用住所を博物館に送付することにより、応募用紙を一部請求できる。応募用紙は直接、2002年11月22日必着で教会歴史美術博物館に郵送する。

詳細に関する問い合わせは、以下の住所に書面、またはメールで行うことができる。□

Museum of Church History and Art
45 North West Temple Street
Salt Lake City, UT
84150-3810 USA

E メールアドレス:
churchmuseum@ldschurch.org

オークス長老、 韓国の首相を訪れる

十 二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は、4月28日、韓国の李漢東首相と会談した。オークス長老は、地区大会を管理するためにソウルを訪れていた。4月28、29日の両日に行われた大会には、5,000人以上の教会員が出席した。

李首相はオークス長老との会談の中で、教会員たちが互いに愛し合うというイエス・キリストの教えを実践していることを称賛した。また、教会が家族の価値観を強調していることにも深い関心を示した。オークス長老は李首相に、『家族——世界への宣言』と幸福な家族を表す影像を贈呈した。

この会談には中央幹部から、七十人からアジア北地域会長会の第一副会長を



韓国の李漢東首相に影像を贈る
ダリン・H・オークス長老。
写真/アジア北地域の厚意により掲載。

務めるE・レイ・バイトマン長老と地域幹部七十人の高元龍長老も同席した。□

『チャーチニュース(Church News)の厚意により、2001年5月26日付けの記事より掲載。

「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 2001年10月

 以下は、初等協会の指導者が『リアホナ』2001年10月号に掲載の「分かち合いの時間」とともに使用でき

る「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデアに対応するレッスン、指示、活動は本号「フレ

ンド」12、13ページ「やくそくされたしゅくふく」を参照する。

1. 古代の預言者も現代の預言者もイエ

ス・キリスト^{あかし}を証したことを説明する(モルモン書ヤコブ7:11参照)。そしてわたしたちに天の御父の戒めを守るよう伝えている。子どもたちに、預言者は最近の総大会で何を証し、わたしたちに何をするように話したか尋ねる。答えをゴードン・B・ヒンクレー大管長の名前あるいはその写真の下に列挙する。ほかの預言者による類似した勧告が記述された聖句を配る。どの預言者が類似した勧告を与えたか分かるよう、子どもたちに聖句を調べさせる。例:アルマ34:19、27——祈り(アミュレク);モロナイ10:3——聖文を読む(モロナイ);1ヨハネ4:14;教義と聖約76:22-24——イエス・キリストが世の救い主であられると信じる(ヨハネ、ジョセフ・スミス)。ヒンクレー大管長の勧告や証の隣にほかの預言者の名前を書く。天の御父は今も昔もその子らすべてに同じ真理の原則を教えるため、預言者を与えてくださることを説明する。それぞれの預言者はわたしたちに神の戒めを守るよう教え、イエス・キリストを証していることについて自分の証を述べる。

2.ヒンクレー大管長の写真を掲示する。年長のクラスには、それぞれ最近の総大会の話から引用したいいろいろな文を渡す。年少のクラスには預言者からの勧告を表す絵を渡す。各クラスから預言者の語っている事柄について発表する人を選ばせる。引用文あるいは絵をヒンクレー大管長の写真の下にはる。預言者に言われたとおりに行うことを選択すれば、わたしたちは忠実で、正義を擁護していることになることを説明する。預言者の教えを生活で実践する方法に関する質問を事前に準備しておく。例——(1)預言者は人に親切にするように言っているが、友達にクラスの転校生を仲間外れにしている。どうすれば預言者の教えに忠実になれるか。(2)預言者は両親に従順になるよう教えている。母親は放課後寄り道をせず帰宅するように望んでいるが、友達と一緒に遊びたがっている。どうすれば預言者に従うことができるか。各クラスから一人ずつ質問に答える子どもを選ぶ。その子どもに引用文あるいは絵から、その状況の中でどの勧告

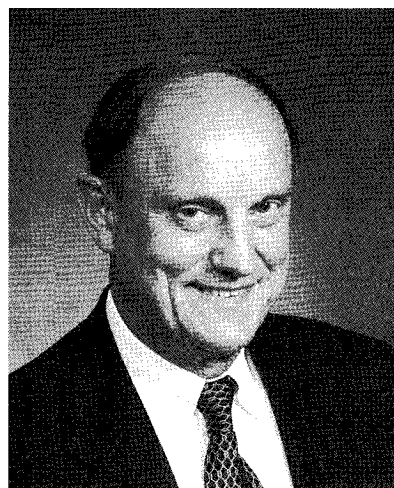
七十人会長会の異動

今年6月、大管長会は、七十人会長会の異動を発表した。L・アルディン・ポーター長老とマーリン・K・ジェンセン長老に代わり、チャールズ・ディディエ長老とセシル・O・サミュエルソン・ジュニア長老が新たに召された。

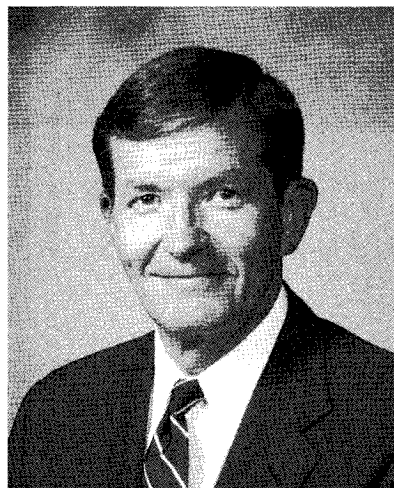
ポーター長老は1996年から七十人先任会長を務め、10月からは、名誉幹部となる。ジェンセン長老は、神権部の管理ディレクターならびに中央日曜学校会長の責任を果たしてきたが、この度中央ヨーロッパ地域会長会の召しを受けた。

この召しを受けたとき、ディディエ長老はユタ南地域会長会の一員を務め、家族・教会歴史部で管理ディレクター補佐として働いていた。それ以前には、1992年から1995年までの間、七十人会長会の一員を務めていた。サミュエルソン長老はユタ北地域会長会会長で、神殿部のディレクター補佐の任にあった。

七十人先任会長には、新たにアール・C・ティンギー長老が召された。また、D・トッド・クリストファーソン長老、デビッド・E・ソレンセン長老、ベン・B・バンクス長老、デニス・B・ノイエンスバnder長老は、引き続き七十人会長会の責任を果たす。□



チャールズ・ディディエ長老



セシル・O・サミュエルソン・ジュニア長老

に従うべきか指摘させる。預言者に従うことから得られる祝福について自分の証を述べる。

3.預言者は家庭においてより大きな愛と思いやりを示すように勧めている。救い主はわたしたちに「互に愛し合いなさい」と述べている(ヨハネ13:34)。家族の写真を掲示し、家族の中で愛と思いやりを示す方法が数多くあることを話す。家族に愛を示す方法の一つは家族に奉仕することであると説明する。子どもたちは家族の写真を回しながら、家族についての歌か賛美歌を歌う。定期的な歌を止め、写真を手にしている子どもに、家族に奉仕するために何ができるかを尋ねる。今後1週間、家族のだれかに奉仕するために行う事柄を、子どもたちに絵で描かせる。子どもに絵を持ち帰らせ、することを思い出させてもよいし、

絵を集めて次週掲示してもよい。歌の時間に絵を見せ、それまでの1週間家族のだれかに奉仕するために何をしたか尋ねる。預言者に従うことで、どのように家族がいっそう強められ、幸福になれるかを証する。□

お詫びと訂正

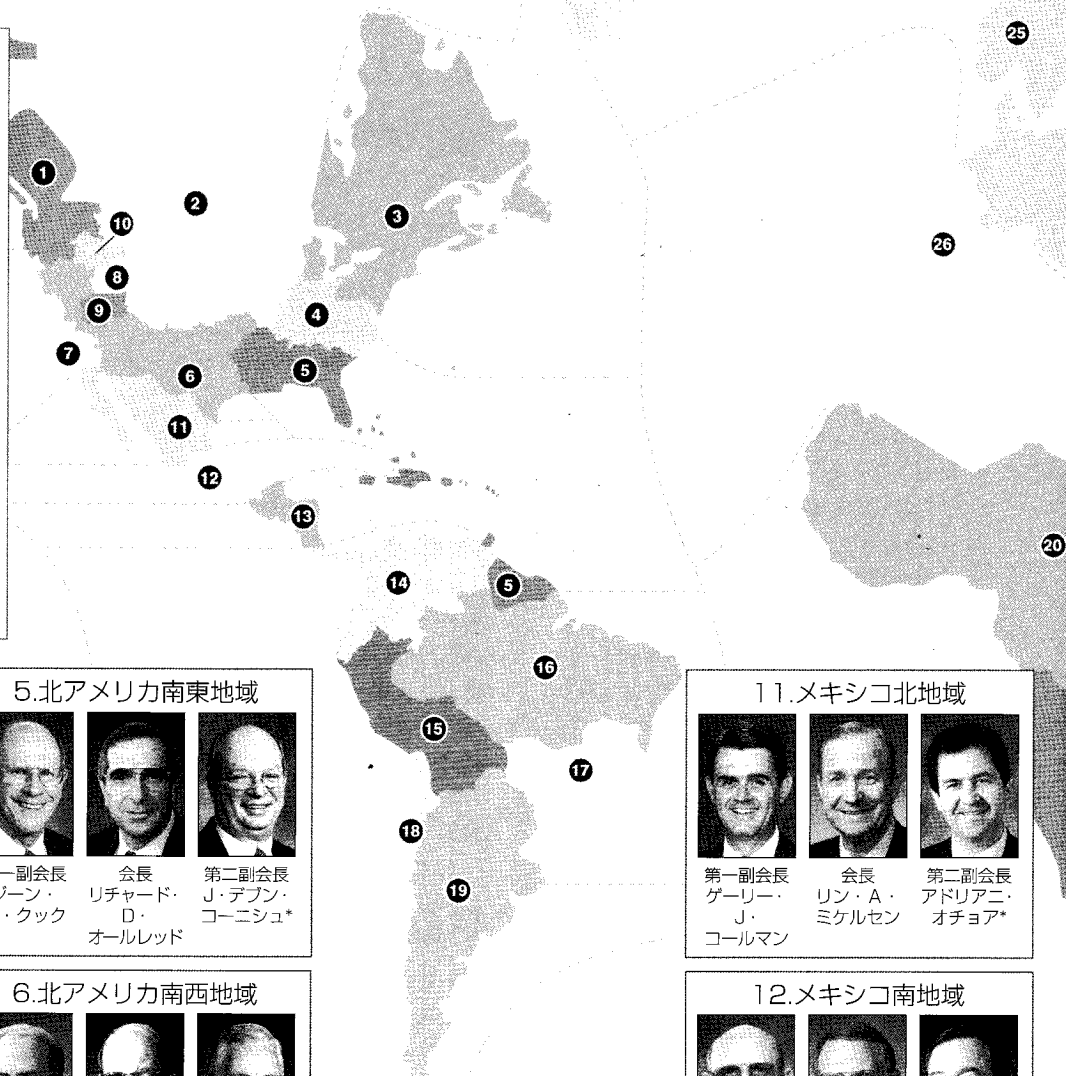
「リアホナ」2001年9月号チャーチ・ニュース8ページ、「永代教育基金」の記事において誤りがありましたので下記のとおり訂正いたします。●誤——「その際、用紙の『その他』という項目の余白に『永代教育基金』と記入する」●正——「その際、日本の直接献金制度下にあるユニットでは、用紙の『他』という項目の記号欄に『3』と記入する」なお、通信欄には数字以外は書かないようお願いいたします。

また、同12ページ左下写真のキャプションに「タトウィッチ長老」とありましたが、「パートリッジ長老」の誤りでした。関係各位へ大変ご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

新しく 召された 地域会長会

大管長会は、合衆国西部に新たにアイダホ地域を組織したことを含め、各地域会長会の任地の変更を発表した。この変更は2001年8月15日より、すでに実施されている。地域会長会の会員はすべて七十人定員会に所属している。

*地域幹部七十人



1.北アメリカ北西地域



第一副会長
ウィリアム・
R・ブラッドフォード
会長
クエンティン・
L・クック
第二副会長
スティーブン・
A・ウェスト

5.北アメリカ南東地域



第一副会長
ジョン・
R・クック
会長
リチャード・
D・オールレッド
第二副会長
J・デブン・
コーニッシュ*

11.メキシコ北地域



第一副会長
ゲアリー・
J・コールマン
会長
リン・A・
ミケルセン
第二副会長
アドリアニ・
オチャ*

2.北アメリカ中央地域



第一副会長
ブルース・
C・ヘーフェン
会長
ドナルド・
L・ステリー
第二副会長
デニス・
E・シモンズ

6.北アメリカ南西地域



第一副会長
リチャード・
J・メインズ
会長
F・バートン・
ハワード
第二副会長
テレル・
E・ミラー

12.メキシコ南地域



第一副会長
ジェラルド・
L・テラー
会長
リチャード・
H・ウィンケル
第二副会長
アルマンド・
ガオナ*

3.北アメリカ北東地域



第一副会長
スペンサー・
J・コンディー
会長
W・クレイグ・
スウィック
第二副会長
グレン・
L・ベイス

7.北アメリカ西地域



第一副会長
リン・G・
ロビンズ
会長
ディーター・
F・ワークトルフ
第二副会長
デュエイン・
B・ジェラード

9.ユタ南地域



第一副会長
W・ロルフ・
カー
会長
ジョン・H・
グローバーク
第二副会長
ネッド・B・
ローシェイ

13.中央アメリカ地域



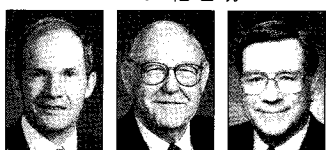
第一副会長
フリオ・
E・アルバラド*
会長
エンリケ・
R・ファラベヤ*
第二副会長
E・イスラエル・
ペレス*

4.北アメリカ東地域



第一副会長
J・ケント・
ジョリー
会長
シェルドン・
F・チャイルド
第二副会長
ゴードン・
T・ワッツ

8.ユタ北地域



第一副会長
モンティ・
J・ブラフ
会長
クリー・L・
コッフオード
第二副会長
L・エドワード・
ブラウン

10.アイダホ地域



第一副会長
D・レックス・
グラット*
会長
C・スコット・
グロー*
第二副会長
ロナルド・
L・ラブランド*

14.南アメリカ北地域



第一副会長
H・オルドリッジ・
ギレスピー
会長
ロバート・J・
ホエットン
第二副会長
ロベルト・
ガルシア*

24. オーストラリア/ニュージーランド地域



第一副会長 パール・R・クリステンセン
会長 ケネス・ジョンソン
第二副会長 ビクター・D・ケイブ*

26. ヨーロッパ西地域



第一副会長 ウェイン・S・ピーターソン
会長 ハロルド・G・ヒラム
第二副会長 ジョン・マックスウェル*

27. ヨーロッパ東地域



第一副会長 キース・K・ヒルビグ
会長 ダグラス・L・カリスター
第二副会長 ロバート・F・オートン

25. ヨーロッパ中央地域



第一副会長 ロナルド・A・ラスバンド
会長 D・リー・トブラー
第二副会長 マーリン・K・ジェンセン

28. アジア北地域



第一副会長 キー・菊地良彦
会長 ドナルド・L・ホールストロム
第二副会長 ゲーリー・S・松田*

29. アジア地域



第一副会長 E・レイ・バイトマン
会長 H・プライアン・リチャーズ
第二副会長 ジョン・B・ディクソン

15. 南アメリカ西地域



第一副会長 カーロス・H・アマーゾー
会長 デビッド・R・ストーン
第二副会長 ジョーン・ウセダ*

16. ブラジル北地域



第一副会長 ダーウィン・B・クリステンセン
会長 ロバート・S・ウッド
第二副会長 ロバート・R・ストウアー

18. チリ地域



第一副会長 フランシスコ・J・ピーナス
会長 ステイブン・B・オーブソン
第二副会長 ジョン・A・ハリス*

20. アフリカ西地域



第一副会長 H・ロス・ワークマン
会長 H・ブルース・ストゥーキ
第二副会長 R・コンラッド・シュルツ

22. フィリピン地域



第一副会長 アンヘル・アブレア
会長 メリル・C・オークス
第二副会長 ジョン・M・マドセン

17. ブラジル南地域



第一副会長 ニール・L・アンダーセン
会長 アトス・M・アモリム
第二副会長 アデマール・ダミアニ

19. 南アメリカ南地域



第一副会長 キース・クロケット
会長 ジェイ・E・ジェンセン
第二副会長 クラウディオ・D・ズィビック*

21. アフリカ南東地域



第一副会長 クリストファー・ゴールデン・ジュニア
会長 ロバート・C・オークス
第二副会長 スティーブン・E・スノー

23. 太平洋諸島地域



第一副会長 アール・M・モンソン
会長 ロナルド・T・ハルバーソン
第二副会長 ロバート・K・デレンバック

アジア北地域の教会員の皆さんへ

拝啓

この度新たに組織されたアジア北地域会長会から皆さんへ、わたしたちの愛をお伝えするとともにごあいさつを申し上げます。わたしたちに託された責任の重要性について深く考えると、心のへりくだる思いです。一方で、この地域に住むすばらしい指導者と会員の方々の信仰と献身の姿を拝見すると、心が鼓舞されます。

日本と韓国には、信仰堅固な会員が数多くいます。両国において教会は十分に確立され、幾世代にもわたる義にかなった家族が増えています。わたしたち地域会長会は皆さんとともに、会員、会員でない人々、そしてすでに世を去ったさらに多くの人々が「キリストのもとに来て、キリストによって完全に」なる日を見るという望みを抱いています(モロナイ10:32)。

下に示されている、「基本指導原則」と題された資料が、当地

域の指導者の指針となるよう願っています。神権組織と補助組織双方の責任において、すべてのレベルの指導者が、簡潔ながらも深遠なこれらの原則に従うよう望んでいます。わたしたちがこれらの原則を実践し、個人と家族が霊的な支援と啓発という雰囲気の下で祝福を受けるにつれ、日本と韓国の教会は一層力強く発展していくことでしょう。

わたしたち地域会長会は、証と目的と方向性において一致しています。わたしたちは、救い主とその栄えある福音について厳粛に証します。そして、今日主の教会を導く預言者が存在し、わたしたちが預言者と一致するよう願っていることを証します。わたしたちは、聖なる御霊を受けるにふさわしくあり、それによって永遠にわたり重要な事柄に対し適切に力を注げるよう望んでいます。

敬具

アジア北地域会長会

ドナルド・L・ホールストロム

菊地 良彦

ゲリー・S・松田



Amal h. Hallstrom
Gerry S. Matsuda

基本指導原則

アジア北地域会長会

わたしたちは主イエス・キリストを愛し、主に仕えます。

「それゆえ、わたしは彼らに戒めを与えて、このように言う。あなたは心を尽くし、勢力と意思と力を尽くして、主なるあなたの神を愛さなければならない。また、イエス・キリストの名によって、神に仕えなければならない。」(教義と聖約59:5)

「あなたはわたしを愛するならば、わたしに仕え、わたしのすべての戒めを守るべきである。」(教義と聖約42:29)

わたしたちは絶えず聖霊の導きを求めます。

「しかし、書き記されたそれらのものがあるにもかかわらず、聖なる御霊によって指示され導かれるままにすべての集会

を執り行うことが、初めから常にわたしの教会の長老たちに指示されてきたし、またこれから先いつまでも指示されるであろう。」(教義と聖約46:2)

わたしたちは大管長会と十二使徒定員会に忠実に従います。

「彼らは、そこから先は途中で御言葉を宣べ伝えながら旅をなささい。しかし、預言者たちや使徒たちが書き記したことで、信仰の祈りによって慰め主により教えられることのほかは何も語ってはならない。」(教義と聖約52:9)

わたしたちは地域会長会として一致します。

「あなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない、と主は言

われました(教義と聖約38:27参照)。この大いなる一致とは、真のキリスト教会のしるしです。そして指導者への忠誠は、主の軍勢として仕えるすべての人々に求められるきわめて重要な事柄です。また、内わで分れ争う家は立ち行かないでしょう(マルコ3:25参照)。一致は基本的かつ不可欠な事柄なのです。」(ゴードン・B・ヒンクレイ)

わたしたちはこの地域の指導者と会員に慈愛をもって仕えます。

「人は謙遜であり、愛に満ち、信仰と希望と慈愛を持ち、また自分に任せられたすべてのことについて自制しなければ、だれもこの業を助けることはできない。」(教義と聖約12:8)

日本奉獻から100年、 教会歴史ゆかりの地に 記念碑を建立

日本伝道100周年 Japan Mission Centennial

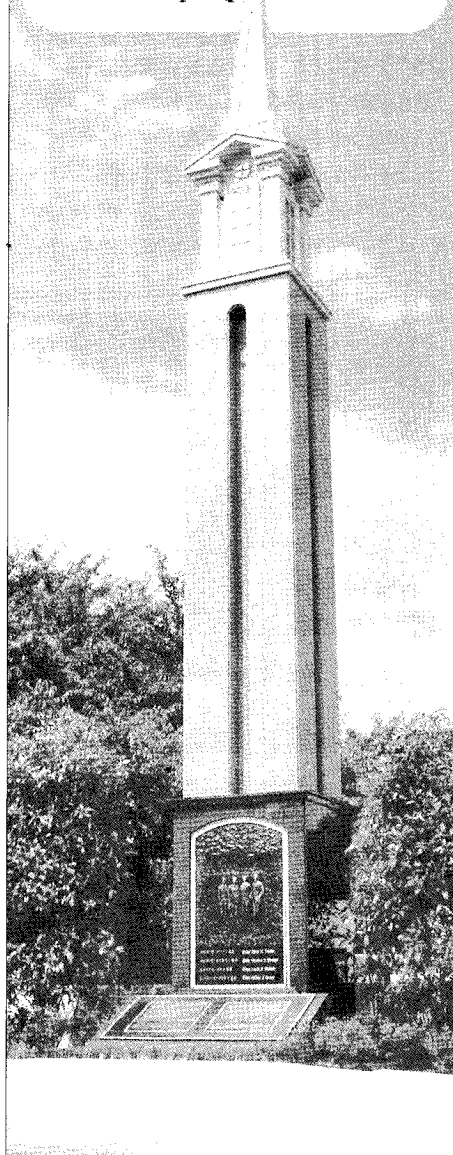


2001年9月1日——1901年9月1日に
ヒーバー・J・グラントらが横浜市
郊外の静かな森で日本奉獻の祈りをささ
げてからまさに100年目に当たるこの日、
日本伝道100周年記念行事の一環として、
最初の4人の宣教師の姿が刻まれた記念
碑の除幕式と山手ワードの歛入れ式が催
された。前日まで降り続いた雨も上がり、
まぶしい日差しが出席者を照りつけるほ
どの晴天に恵まれて、地域会長会のドナ
ルド・L・ホールストロム会長管理の下、
第二副会長のゲーリー・S・松田長老の司
会で式典は進められた。



山手ワードの敷地は、古い洋館が外国
人居留地の面影を残す、当時グラント長
老らが住んでいた場所にもほど近い歴史
的な町並みの一角にある。記念碑は、や
がて山手ワード教会堂のシンボルタワー
となる塔の基部に据えられている。

当日は、かつて賛美歌の翻訳を手がけ
た柳田聰子姉妹、アジアで最初のステ
ーク会長であった田中健治兄弟など開拓
期を担った人々から、教会員の第3世代



である幼子まで様々な年代の500人余り
の人々が一堂に会した。

田中兄弟は、召された当時、教会本
部から送られてきた大量の英文の手紙に
苦勞したエピソードを交えながら、ステ
ーク会長として、「わたしの羊を養いなさ

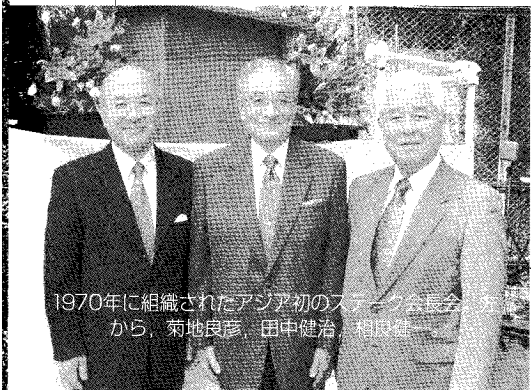
日本に福音の光が輝き始めてから
1世紀が過ぎた西暦2001年、
わたしたちの受け継ぎを思い起こし
来るべき時代を予感するために行われた、
この夏の記念行事の模様を
レポートします。

い」という主の言葉が常に心に響いてい
たことを話した。また1908年にバプテスマ
を受けた高橋仁吉のめいであり、初
期の改宗者である高木富五郎の娘の柳
田姉妹は、まさに日本の教会歴史の語
り部として証を述べた。

熱い日差しの中、聖歌隊の歌声は、
出席者の気持ちを大いに和らげるもので
あった。最初の4人の宣教師の一人であ
り、タバナクル合唱隊の副隊長でもあつ
たホレス・S・エンサイン作曲の「恐れず
来たれ、聖徒」が特別に発表された。日
本最初の賛美歌集に収められており、
メロディーも歌詞も現在のものとは異なる
ため、7月中旬から練習を始めた聖歌
隊のメンバーも覚えるのに苦勞したとい
う。当時は主旋律のみであった楽譜も
美しくアレンジされた。ほとんどの教会
員にとって初めて耳にする曲であった。
この式典で歌われた賛美歌はすべて、
100年前の日本奉獻の際、宣教師たちによ
って歌われた賛美歌を踏襲したもので
ある。



式典中、会場に設置されたモニターで
上映された映像作品『日の出ずる国へ』
は、4人の宣教師が来日した当時から現
代に至る伝道の歴史を、貴重な当時の
写真や映像に再現シーンを交えてつづ
ったものであった。苦勞の中にも燃える
ような希望を抱き続けていた宣教師の精



1970年に組織されたアジア初のステーク会長会
から、菊地良彦、田中健治、柳田健一



デビッド・
ブライアン・岩浅
アドニー・Y・小松
伝道部長の時代に伝道

●当時の伝道期間は

2年半でした。カナダへ帰国してから留学する機会があり、日本とのかかわりは強くなりました。当時は新幹線はありませんでしたから、長崎から金沢へ転任したときには、大変な旅でした。福岡で伝道していたときに伝道部が二つに別れて、ピルス伝道部長、岡崎伝道部長によって管理されました。昔は独身者ばかりで家族で集う教会員はほとんどいませんでしたが、現在は様々な年齢層の人たちが集い、日本の教会も「熟してきている」という印象を受けます。叔父のジュン・岩浅は、戦後に伝道部が再開されて間もなく宣教師として働きしました。



ラドン・D・バンノイ
かつて日本で伝道
式典のためにアリゾナ
から来日

●伝道中にわたしが
出会った日本人は、と

ても優しい人ばかりでした。しかし、あまり笑うこともなく、深いつきあいはできませんでした。わたしたちは宣教師の間で「1メートルルール」というものを作っていました。それは笑顔のない日本人も、わたしたちが1メートルまで近づくとこちらが黙っていても何かしら反応してくれるというものでした。日本人とあいさつをするときに奇妙な日本語を話していたようで、彼らもほほえみながらあいさつしてくれることもありました。宣教師は変わったアメリカ人と思われていたようですが、随分と楽しくコミュニケーションもできました。



ドゥエイン・N・
アンダーセン

伝道部長時代にハワイ
神殿団体参入を計画
初代東京神殿長

●日本人の教会員と

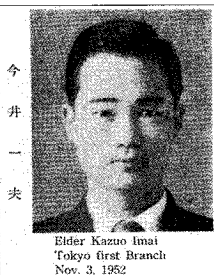
ハワイの神殿へ参入したのは良い思い出です。ハワイ神殿へ行くときには、忠実な教会員が多くの犠牲を払って準備しました。大変な犠牲を払ってハワイへ行った人たちの多くが、現在、教会の指導者として活躍しているのを見るのはとてもすばらしく、うれしいことです。今回の式典で懐かしい方々と会えたのも心躍ることでした。わたしの孫(今回は孫のケビン・ヒートン兄弟と来日)は、東京南伝道部で宣教師の務めを最近終えましたが、昔のことを思い出すと、日本の教会はかつてとは比較できないほど大きく発展していると感じました。

会報

今井一男

最初の日本人宣教師の一人

●もしできることならば、伝道のお手伝いをさせてくださいと、宣教師に召される1年前から祈っていました。その当時は進駐軍の教会員によって毎月1万4,400円が伝道資金として援助されていました。経済的にも精神的にも苦しい時代でしたが、断食と祈りによって乗り越えることができました。マース伝道部長、ロバートソン伝道部長のもとで働き、教材もいまま伝道しましたが、話す言葉には御霊の導きがありました。現在はすべてが準備されて恵まれすぎているような感じもします。



Elder Kazuo Imai
Tokyo first Branch
Nov. 3, 1952



除幕する
地域会長会と
開拓者、若い世代を
代表する会員たち

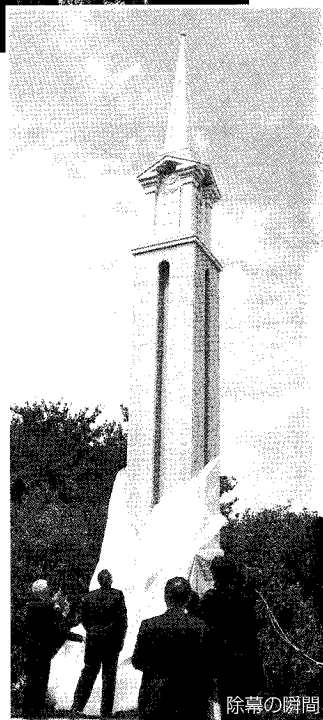
神を感じ、会場には涙で目を潤ませる人々もいた。

その後地域会長会からのメッセージとして、ゲーリー・S・松田長老は、パラリンピックで転倒した走者を助けてともにゴールした女性のエピソードを披露し、周りの人たちに手を差し伸べ、人生のゴールを目指して福音を分かち合うことの大切さを強調した。また、菊地良彦長老は、キリスト教が伝来した当時、多くの日本人が改宗した歴史を引いて、日本人の中にはキリストの教えを受け入れる素地があると述べ、イエス・キリストが過去に亡くなった人々、現在の人々、すべての人々にとって救い主であられることを厳粛に証した。ドナルド・L・ホールストロム長老は、この記念式典が実現した経緯を述べ、一人の監督の小さな願い

からすべてが始まったと話した。また記念碑や式典は、過去に感謝し将来に思いを向けるものになると語った。

記念碑の除幕式は、ホールストロム長老、菊地長老、松田長老の地域会長会と各世代を代表する兄弟姉妹によって行われた。

閉会の祈りをささげたのは鈴木なる子姉妹であった。鈴木姉妹の母親の



除幕の瞬間

米日 奉 装 工 エ ス キ リ ス ト 教

LDS SERVICEMEN'S MISSIONARY PROJECT

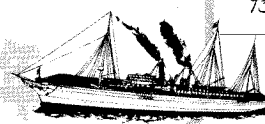
今井一男

Elder Kazuo Imai
Tokyo first Branch
Nov. 3, 1952

LDS軍人による宣教師運動と題するポスター。当時の日本人宣教師は物質的に恵まれない中、米軍の末日聖徒の経済的援助を受けて伝道した。

THESE MEMBERS ARE SERVING THE LATTER DAY SAINTS MISSIONARY PROJECT WITH REGULAR MONTHLY CONTRIBUTION

LDS軍人による宣教師運動





高塚 ゆり・空

教会員として
2世代目の母親と
3世代目の息子

●日本の教会の開拓
者となった人たちは

自分や家族を犠牲にして働くこともあった
と思います。彼らがいなければ、今のよう
な恵まれた環境はなかったと思います。最初
は何もないような状況で福音を学んだり
教えたりしていたわけですから。今は信仰
生活でもゆとりある気持ちでいられるので、
100年前の宣教師や開拓者の教会員を思
う度に感謝の気持ちで満たされます。教会
員の家庭に生まれた3世となる息子には、
心の大きい人に成長してほしいという願い
と、だれも見えていなくても天のお父様が
いつも見守ってくださっているという意味
を込めて、空と命名しました。

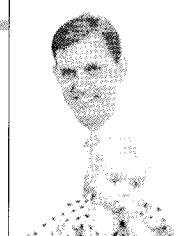


山中真由美姉（左）
やぶ 友美姉妹（右）

最初の宣教師から
100年目の宣教師

●教会員一人一人は

奇跡の結晶のようなものです。すべての教
会員には直接的、間接的に宣教師の名前が
刻まれています。今の宣教師は住む所も、
教会の施設も、レッスンプランも、経済的
にもすべての面で最初の4人の宣教師とは
違って恵まれています。恵まれているから
こそできないこともあり、不足しているか
らこそできることもあると感じました。か
つて日本で伝道した宣教師のことを知る
と、自分が一生懸命主の業に携わるならば、
神様が助けてくださると思います。伝道
100周年という特別な年に横浜で働ける
のは導きであつたと感じています。



ボイド・J・タトル

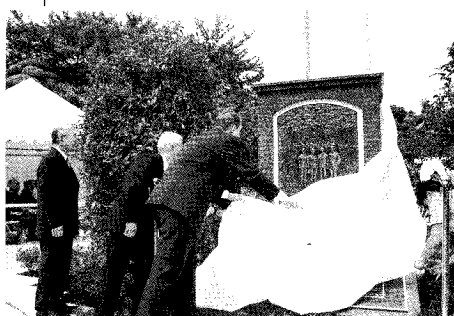
山手ワード元監督
現在はアメリカに住
念願のワード獄入れ式を
見届けた翌日に解任

●式典に参列して、

夢が実現したような気持ちでした。すべて
が一度に訪れてきたようでした。ワードに
ふさわしい場所、訪問者センターのような
役割ができる場所を見つけることを3年前
に監督に召されたときからいつも考えてい
ました。期待どおりにいかず、何度も落ち
込むこともありましたが。日本の教会には
100年の歴史の中で、すばらしいレガシー
(遺産)があります。今こそ日本の教会歴史
に触れることのできる場所や記念碑が必要
です。日本各地に、訪れる人に何かを提供
できるような場所ができれば、教会も急速
に発展するような気がします。□

鈴木 波は、グラント長老らによって日
本で最初にバプテスマを施された女性
であり、宣教師のメードとしても働いて
いた。当時の写真などの貴重な記録は、
関東大震災と戦時中の空襲によってすべ
て失われてしまったという。鈴木姉妹自
身も「今にして思えば、もう少し母から
話を聞いておけばよかったと残念に思っ
ているんです」と語る。

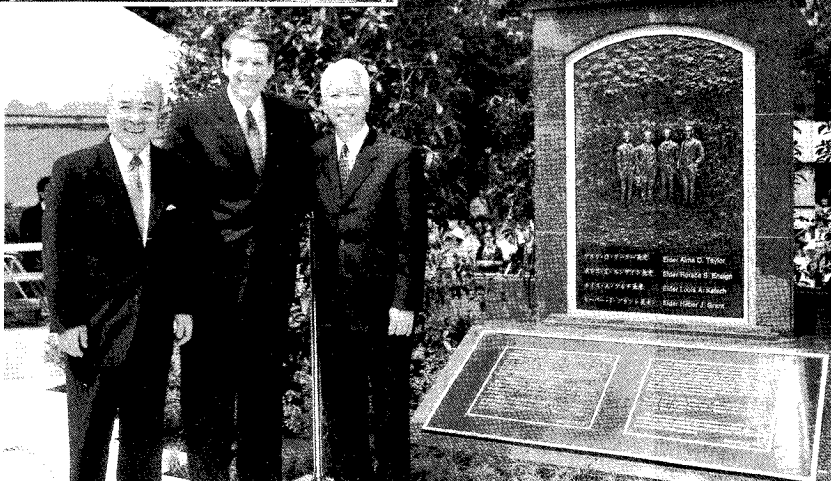
閉会後も、その場は懐かしい再会に
抱き合う人たちや、旧交を温める人たち
の笑顔と喜びにあふれていた。



式典の後にはかつて日本で伝道した
宣教師や、会員たちによる証会が行われ、
教会100年史の写真展や音楽祭が
催された。残暑の厳しい日であったが、
集う人たちの気持ちはそれ以上に熱く、
笑みの絶えない一日であった。

横浜開港ゆかりの地であり、観光客、
ことにキリスト教や歴史に関心のある
人々の往来する場所にあつて、この記念
碑はひととき目を引く存在である。教会
員にとっても、碑文に刻まれているよう
に「日本各地の忠実な教会員による一世
紀にわたる献身を記念するものであり、
イエス・キリストの福音がこの偉大な国
の人々に今後も祝福をもたらし続ける
という希望の灯として」信仰に思いを向け、
感動を与え続ける場所の一つとなるに違
いない。□

記念碑の前に立つ地域会長



日本の教会歴史書

これまで教会歴史は、節目ごとに
振り返られてきた。右写真の下
の2冊は、1957年にアメリカでま
とめられたものと、1970年日本万
国博へのモルモン館出展を前にま
とめられたものである。これ
らは英語で記述されている。

●新しい世紀を前にした
1990年代にも、各地で日本
語の歴史書がまとめられた。

写真上から、名古屋

地区における歴

史をまとめて

1994年に発行

された『尾張の

始め』。そして

『日本末日聖徒

1850-1980年』はウィリアム・マッ

キンタイヤ兄弟と高木信二兄弟によ

る10年もの調査を経て発刊された

労作である(1996年発刊)。最近で

は1999年に仙台地区の歴史であ

る『みちのくの光』が発行されてい

る。そのほか、正式に製本された

ものでなくとも、九州など各地で

記録がまとめられている。

●2001年のプリガム・ヤング大学の紀要(学術論
文集)に、高木信二兄弟による日本教会歴史の論
文が2本掲載された。1つは日本人最初の2人の
教会員について、そしてもう1つは最初の宣教師
が日本に上陸した際の新聞各紙の論調について
調べ上げたものである。高木兄弟の専門は経済学
だが、綿密な調査をし、日記などの主観的な史料
のみによらず、複数の史料や当時の政治・経済ま
た社会情勢によって裏付けられた論文には、正確
であろうとする学者としての姿勢が買われている。
今後は日本教会歴史も、研究の対象としてさまざ
まなアプローチがなされてゆくことだろう。□

福岡会場には全九州、広島、山口、松山から若い男性106人、指導者53人が参加しました。キャンプはまず、煮炊きするために竹で「立ち竈」^{かまど}を作ることから始まりました。トイレと井戸以外に設備のない会場で、自分たちで組み上げたかまどで作った夕食には大満足でした。

翌日の17キロハイクでは、話に花が咲きました。途中の滝つぼに服のまま飛び込む子もいて若さ炸裂です。

3日目はアロン神権達成プログラムのセミナーを実施しました。

多くの神権指導者を講師に招き、進路や職業、インターネットと標準、結婚、神権者の義務などについてのクラスを受講しま



共通プログラム後の記念撮影。前列でふざけているのはユースカウンセラーたち。若い男性にとってもよく溶け込んでいた。

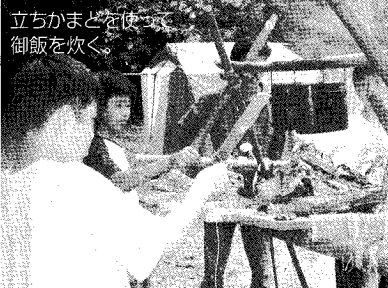
した。近くの消防署では救急救命法の実技指導をしていただき、また交代で福岡神殿へ参入する機会もありました。そしてこの日、あるユースカウンセラーの兄弟が伝道の召しを受け取り、その手紙を全員が見守る中で開きました。伝道地が読み上げられると、歓声と拍手がわき起こり、だれからともなく「われらは天の王に」の大合唱となりました。

その夜、神権定員会ごとに分かれて「光を伝える」ために標準と伝道についてのファイヤサイドを持ちました。福岡伝道部のゴットフレッドソン部長は祭司の兄弟たちに「あなたたちは日本の教会の将来です」と語り、ある兄弟は「御霊を強く感じて、伝道に出たいと思った」と言っていました。

最終日、共通プログラムでの証会はずばらしいものでした。

「ほんとうは来たくなかったけどすごく楽しくて、また参加したい。」「初めて自分から立って証しました。」「いつか伝道に出たいです」と、自分の中にともった光を言葉にしようと努力する未来の宣教師の証には、どれも純粋な輝きと力がありました。

立ちかまどを使って御飯を炊く。



暑さのあまり服のまま滝つぼへ飛び込む。

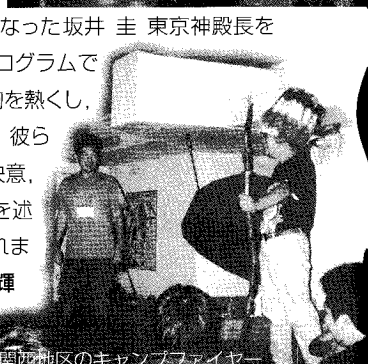
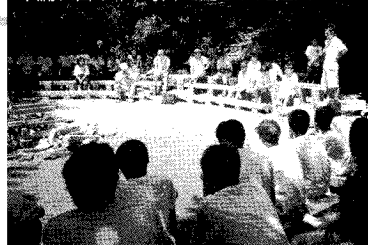


前日から天気が崩れて若干の変更はあったものの、主が推し進めてくださった素晴らしい4日間でした。

(レポート：須恵 耕二 福岡ステーキ高等評議員・若い男性会長)

関西地区では8月9日から11日まで、7ステーキと3地方部から125人のアロン神権者と58人の指導者が集いました。クライマックスとなった坂井 圭 東京神殿長を迎えての全国共通プログラムでは、多くの参加者が胸を熱くし、涙を流していました。彼らは専任宣教師になる決意、また標準を守る決意を述べ、力強く証してくれました。(レポート：橘 輝 京都ステーキ第二副会長)

木漏れ日の中、野外で開かれた証会



関西地区のキャンプファイヤー

日本伝道100周年記念 2001年アロン神権キャンプ

日 本伝道100周年に当たるこの夏、北海道、東北、関東、中部、関西、九州、沖縄の全国7地区を結んで2001年アロン神権キャンプが開催されました。

去る8月7日から11日までの4泊5日、山梨県の本栖湖湖畔で開かれた関東地区のキャンプは、長野、新潟、宇都宮の3地方部と関東の11ステーキから、指導者126人、若い男性239人の計365人が参加した全国でも最大規模のものでした。アロン神権者たちは富士登山、料理コンテストやキャンプファイヤーなど盛りだくさんのプログラムを楽しみました。

特筆すべきは、ユースカウンセラー(リ

アホナ」2001年3月号チャーチ・ニュース、13参照)の活躍です。数人の青少年の班に大学生世代のユースカウンセラーがついて面倒を見るというシステムは日本に導入されてまだ数年ですが、兄貴の世代が発揮する良い影響力は青少年の間に着実に根を下ろしつつあるようです。

またある地方部の指導者は、普段比較的小人数でのプログラムに参加してきた青少年たちが初めて数百人もの神権者の群れに入り、自分たちが決して孤独ではないと知ることができたのは大変によかった、と5日間を振り返りました。実際に証会においても、学校などでは話せ

ない、教会員としての悩みや思いの丈を率直に分ち合えた喜び、仲間への友情がしばしば語られていました。

キャンプにおける活動はそれぞれ各地区ごとに趣向を凝らして行われましたが、全国に共通するプログラムとして、各地に映像が届けられました。中央若い男性会長のロバート・K・デレンバック長老と地域会長会のドナルド・L・ホールストロム会長によるメッセージビデオ、そして映像作品『日の出ずる国へ——日本の扉を開けた宣教師たち』です。日本全国約800人ものアロン神権者たちが、同じ思いでこの100年の教会歴史を振り

8月3日から6日、東北地区の2001年アロン神権キャンプが蔵王山麓の国立南蔵王青少年野営場にて、若い男性42人、父親と指導者27人の参加の下3泊4日で行われました。わたしたちのサイトは、大沼ステーキ会長が「ここは聖なる森にそっくり」と言うように、地形、雰囲気、ともに最高で、楽しいキャンプ生活を期待させるに十分でした。初対面も再会した者同士もともに語り合い夜を過ごしました。

夜通し降った雨も朝には上がり、2日目午前中のプログラムは「日本伝道100年史オリエンテーリング」。このキャンプのテーマである日本伝道100周年にちなんで、若い男性たちが、100年前横浜に上陸した4人の宣教師となってエピソードを仮想体験するというものです。例えば、ロレンゾ・スノー大管長から伝道に召されるシーン。まったく文化も言葉も分からない国へ召される気持ちを追体験します。また、横浜の森に入ってささげた奉獻の祈り。実際に林の中に入って祈りをささげます。若い男性たちは起伏に富んだ約2時間のコースを全員歩き通しました。

3日目は安息日。ガールズキャンプをしていた若い女性たちと合流

し、聖餐会と全国共通プログラムが行われました。アジア北地域実務ディレクターの北村正隆兄弟も出席され、うぐいすのさえずりが響く中、若い男性女性たちの純粋な証が述べられました。続く全国共通プログラムでは、中央幹部メッセージと、日本伝道100周年を記念して作られたビデオ「日の出する国へ」が上映されました。100年前、日本にやって来た宣教師たちの苦労や、日本人に対する彼らの愛がドラマチックに描かれ、若い男性たちも食い入るように見ていました。前日のオリエンテーリングの体験ともオーバーラップしたのでしょうか、とても感動したようでした。北村兄弟は、若人がこの苦難の時代をどのような指針で歩いていくべきかを感銘深く話されました。午後からは若い女性と合同のセミナリーフェスティバルで宣教師の疑似体験をしてもらいました。彼らは宣教師の楽しさのみならず苦労の一端をも知ったようでした。

その夜、静かな森の中でたき火を囲み、自由に話してもらいました。ほとんどの子どもが自主的に、このキャンプで自分の感じたこと、伝道に対する思いなどを語ってくれました。彼らの多くが伝道に出ることを決意し、また考えていることを知りました。確かに彼らは聖霊の導きを受けていました。



「伝道のつらさや大変さを知ることができてよかった。自分の無力さにも気づくことができたので、これから一生懸命に努力して伝道に備えたいと思う。仲間はほんとうに最高です。」「自分が伝道に出たら、ちょっとくらいのことでもめげずにやっていきたいです。」「最初は宣教師になるとか考えなかったけど、ビデオを見て、宣教師になれるように努力したいと思いました。」「温かい気持ちがあった。伝道に出たい。大変な困難があるかな？ だけど、それ以上のものがある。」

100年前、横浜に上陸した4人の宣教師の大いなる勇氣と信仰と愛があって、また、彼らに続いて今日までこの日本の地で伝道して下さった数知れない宣教師たちの努力のうえに今のわたしたちがあることを改めて知ることができました。参加した若い男性たちも同様に感じたことでしょう。(レポート：キャンプ企画委員長 大森淳一 仙台ステーキ泉ワード)

返ったのです。

逆境にあっても恐れを知らなかった初期の宣教師たちの勇氣と、この100年間の自らの受け継ぎを再確認した多くの若い男性たちは、専任宣教師になるというイメージを自らの人生のうえに置くようになりました。ある青少年は、伝道とそれまで真剣に向き合うことを避けてきたけれど、キャンプを通じ、人に奉仕することで自分も成長する生き方を考えるようになった、と話しました。証会ではすべてのアロン神権者が伝道について語りました。彼らは決意を披瀝し、あるいは伝道に出ることを具体的に考え始めたようでした。「予想以上でした、びっくりしました」と町田ステーキの服部行彦会長は語ります。キャンプの後にも

関東地区のキャンプファイヤー



様々な変化がありました。これまでまったく証をすることのなかったある青少年は、キャンプから帰るなりワードの監督へ、次の安息日の集会で証をさせてくれるよう頼み込みました。そして壇上に立った彼は、伝道に出ます、と語ったそうです。また消極的だった12歳のある男の子は、初めて聖餐会の話をきちんと準備してきて、やはり伝道に出ると証したといいます。

関東地区キャンプの最終日、訪問したホールストロム会長は、その話の中で第1世代、第2世代、第3世代の教会員にそれぞれ起立を求めました。第1世代はほとんどの成人指導者とわずかな青少年たちでした。ところが第2世代と呼びかけられたとき、九割以上のアロン神

権者が起立したのです。第3世代にも10数人の神権者が起立しました。それは新しい時代の日本の教会の姿でした。そしてそのまま、21世紀の主の軍勢の姿でもあったのです。ホールストロム会長はその場の若い男性の中に、彼らの子どもの世代、またさらに次の世代を見るような思いがすると述べ、続けて「これからの教会は皆さんの肩にかかっています。皆さんは忠実さによって、その生涯のうちに日本において教会が、大きな影響力を持つに至るのを見るでしょう。さらに多くの神殿の建設を見るでしょう」と語りました。たった4人の宣教師から100年を経て、日本の教会は今、いっそう輝かしい時代を迎えようとしているのです。□

全国共通プログラム



起立する第二世代の神権者たち



写真で見る 日本教会100年史

第12回

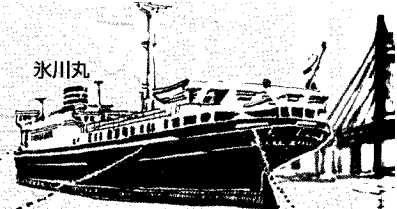
大棧橋



1872年(明治5年)に初めて点火されたガス灯を復元した街灯。グラントらもこのようなガス灯を目にしたのであろう。



ニューグランドホテル。1927年に県や市の出資によって山下町10番地に建設された。グランドホテルとの継承関係はないが、かつて付近にあった旧ホテルをしのんで命名された。



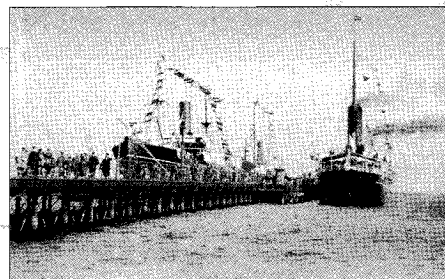
山下公園

氷川丸

マリンタワー

写真/横浜開港資料館所蔵

宣教師たちが滞在したグランドホテル新館。居留地20番の旧館に隣接する18・19番に1890年に増築された。現在のマリンタワーの隣に当たる。



明治30年ごろの大棧橋。入国手続きを終えた宣教師たちは、そこで初めて客待ちをする人力車に出会った。

写真/横浜開港資料館所蔵



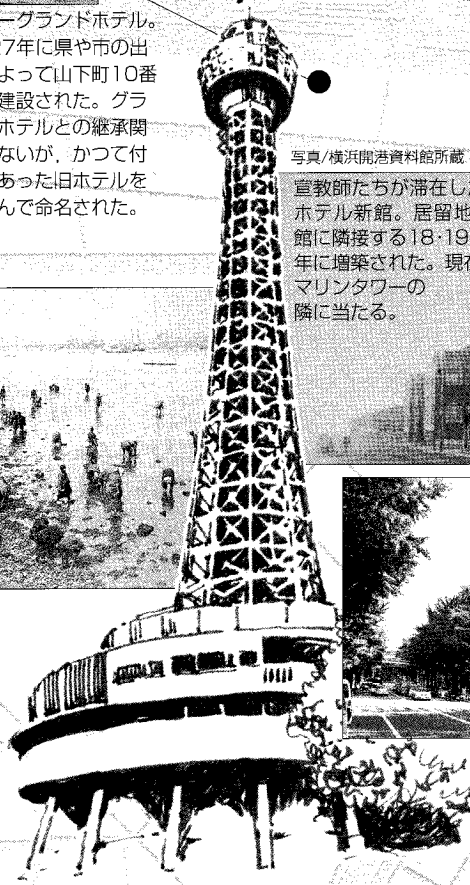
山下公園から撮影した現在の大棧橋。左手の建物は国際航路のターミナルビル。



写真/横浜開港資料館所蔵

明治中ごろのグランドホテル前の海岸では人々が潮干狩りをする光景が一般的であった。

かつての海岸は埋め立てられて山下公園となり、現在は市民の憩いの場所となっている。



横浜球場

至横浜

JR関内駅

よこはま
横浜

ヒストリックサイト案内

●1901年8月12日に横浜大棧橋に到着した「エンプレス・オブ・インディア」号の乗船者名簿には、ヒーバー・J・グラントをはじめとする4人の宣教師たちの名前が残されている。彼らは大棧橋から程近いグランドホテルにしばらく滞在し、その後山手の下宿に居を移したのであった。当時、すでにほかのキリスト教会は教会堂を建設し、布教活動を開始していた。末日聖徒を誹謗中傷するうわさがグラントらの上陸以前から流されていたため、宣教師たちの到着は決して歓迎されたものではなかった。下宿を探し回っても偏見によって拒絶され、宣教師の来日は社会問題として、また、嘲笑的な題材として新聞に掲載された。言葉も通じない東洋の異国・日本で、

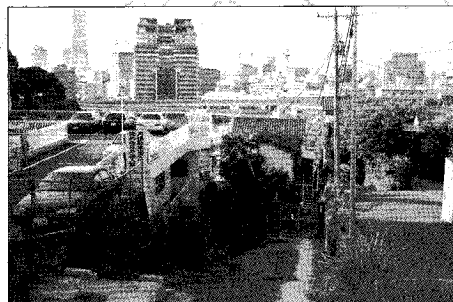
彼らを守り、彼らに慰めを与えるのは聖霊による導きと確固とした証だけであつた。偏見と奇異の目で見られていた宣教師たちは、横浜の海を眺め、近代化へと向かう日本を眺め、どのような思いを日本人に抱いていたのであろうか。現在では100年前の面影を残す風景は少なくなってしまったが、4人の宣教師たちが歩き、目にしたであろう、日本の教会歴史にゆかりのある場所を、約100年前の写真と現在の写真を比較しながらたどってみた。

JR石川町駅

宣教師下宿跡
(旧山手24番地)

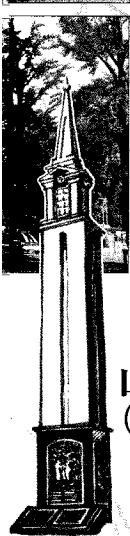
山手イタリア山庭園

山手ワードから山手本通りに沿って南西の位置(山手町24番)にかつて4人の宣教師たちが下宿していた場所がある。しかし当時の面影は残されていない。





グランドホテル跡



関東大震災によって倒壊したグランドホテル跡には、現在郵便貯金会館（メルパルク）が建てられている。

山手ワード（記念碑）



●カトリック教会

山手公園

日本最初の公園と言われる。明治42年当時の古地図では森になっており、外国人遊園地との表記がある。

鷺山



明治30年代に撮影された谷戸坂。奥に見えるのが山下町の外国人居留地と横浜港。

写真/横浜開港資料館所蔵



現在の谷戸坂。山手の丘の北東の外れ、静かなフランス山に沿った坂から眺める景色は変わったが、傾斜は当時の面影を残している。

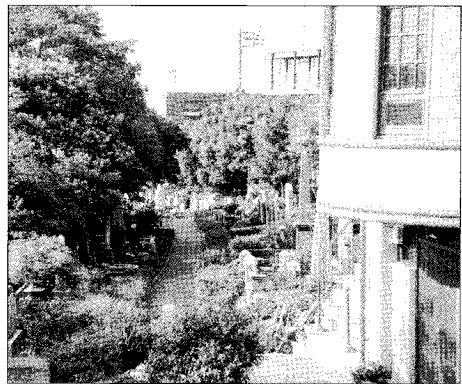


日本伝道100周年

1861年に外国人専用の墓地として定められた外国人墓地は、順次拡張を重ねていった。



写真/横浜開港資料館所蔵

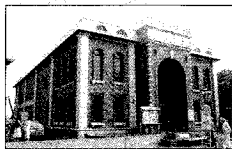


現在の外国人墓地の風景。100年前と同じ墓石がある。

港の見える丘公園

谷戸坂

ゲート座跡



1885年に建てられたゲート座は、西洋人によるシェークスピア作品上演などに触れることのできる当時唯一の劇場であった。現在の建物は1980年に復元された。

外国人墓地

山手資料館

この付近には移築も含めて古い洋館が点在する。山手資料館は現存する最古の洋館で1909年建築。



元町公園

エリスマン邸

聖公会

山手234番館



旧天沼

明治42年当時の古地図によると、ここに小さな森に囲まれた沼があった。



聖公会の教会堂。4人の宣教師が来日した1901年に建設された。現在の建物は関東大震災と太平洋戦争による2度の崩壊から再建されたもの。



奉獻の祈りをささげた場所について正確な位置を示す資料は残されていない。アルマ・O・テラーの日記の中には奉獻の祈りをささげた場所を示すキーワードとして次の言葉が残されている。「部屋から20分歩いた場所」「横浜の南」「山手の外国人居留地と東京湾との中間」「小さな森」「人目につかない場所」。一般的に現在の鷺山との説もあるが、歩いた方向が限定されていないことから別の場所であった可能性もあると思われる。



専任宣教師

2001年8月(262期生)12人●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット



いけうえ ぐ え
池上公久枝
東京南伝道部
鹿児島地方部
谷山支部



いのまた けんた
猪股賢太
東京南伝道部
仙台ステーキ
泉ワード



うえむら たくや
上村拓也
東京北伝道部
広島ステーキ
広島光ワード



うたがわ かつき
宇田川夕紀
福岡伝道部
東京西ステーキ
多摩ワード



あさい みき
笠井美岐
仙台伝道部
大阪ステーキ
平野ワード



かも ひろこ
加茂寛子
名古屋伝道部
札幌ステーキ
江別ワード



くわいばやし ゆたか
栗林裕志
東京北伝道部
京都ステーキ
下鴨ワード



ふじ きよたか
藤 清貴
札幌伝道部
長崎地方部
長崎支部



にしほ たかし
西原嵩志
名古屋伝道部
我孫子ステーキ
牛久第一ワード



みやら けい
宮良 啓
東京北伝道部
那覇ステーキ
首里ワード



わたなべ みちこ
渡辺路子
東京北伝道部
福岡ステーキ
北九州ワード



わたなべ やまと
渡邊大和
広島伝道部
横浜南ステーキ
戸塚ワード

役員の異動

2001年8月18日から2001年9月14日まで
に管理本部会員統計記録課に通知のあ
った役員の異動 (敬称略)

- 松山地方部宇和島支部
支部長: しばはし のぶひこ 柴橋 信彦
- アジア北地域
会長: Hallstrom, Donald L.
- 釧路地方部釧路支部
支部長: しみず ゆか 清水 豊
- 東京北ステーキ春日部支部
支部長: の と よしかず 能登 由和
- 札幌伝道部釧路地方部
第1副部長: ひらた あつひと 平田 篤人
- 仙台伝道部盛岡地方部
第1副部長: おおばやし けい 大林 恵
第2副部長: はしの まさし 星野 正司
- 盛岡地方部盛岡支部
支部長: あだ たけし 吉田 孝
- 横浜ステーキ山手ワード
監督: Robinson, Brent C.
- 広島伝道部山口地方部
地方部長: ふじな かい 二 藤中 玲一
第1副部長: ふじさき かつお 藤崎 和夫
第2副部長: みるたに あきひろ 古谷 明寛
- 盛岡地方部北上支部
支部長: たかはし りょうじ 高橋 竜治
- 盛岡地方部宮古支部
支部長: みずもと よしや 水本 嘉哉

皆さんの情報をご提供ください

◎あなたや友人の経験、また地域のニ
ュースなど、全国の読者に紹介したい
有意義な情報をお寄せください。

◎お願い——海外に召される日本人宣
教師を紹介いたします。氏名〔フリガナ〕、
所属ステーキ/地方部、ワード/支部、
MTC入所月、伝道部名を明記のうえ、
編集室に写真を添えてお知らせください。
デジタルカメラでお撮りになった画像デ
ータ(JPEG)を添付しての電子メール入
稿(下記アドレスあて)も歓迎いたします。

◎あて先: 〒106-0047 東京都港区南麻
布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト
教会「リアホナ」編集室

TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275
電子メール Liahona-jp@ldschurch.org

◎国際機関誌「リアホナ」のお届け、
その他商品に関するお問い合わせは——
教会配送センター

TEL.03(5668)3391 FAX.03(5668)3392

ブックセンターだより

『個人の先祖ファイル 5.0』CD-ROM (Personal Ancestral File 5.0)

カタログ番号 77034 700円

●系図情報の記録、管理、公開を支援するコンピ
ューターソフトウェア「個人の先祖ファイル 5.0」
(Personal Ancestral File 5.0) CD-ROMです。英語、
ドイツ語、スウェーデン語、韓国語、中国語、日本語
の6言語のうちから使用言語を選べるマルチリンガル
版。先祖の情報を画面に入力することで、家系図や一
覧表を自動作成するなど多くの機能があり、また作成
したファイルを東京神殿ネームズプロセスング課へ
提出することもできます。教会内外を問わず、先祖を
探究するうえではなくてはならないソフトウェアです。
(「リアホナ」2001年6月号チャーチニュース、8参照)



動作環境●Windows95-B (OSR2)以降のオペレーティングシステム、あるいはマイクロソフト社のInternet ExplorerがインストールされているWindows95-A●Pentiumプロセッサ搭載のパソコンまたはWindowsエミュレーターが動作するIMAC●32MB以上のメモリ●20MBから60MBのハードディスク空き容量●CD-ROMドライブ

神聖な聖約を守ることに由る平安

神聖な聖約を交わしそれを守るとき、わたしたちは祝福されて、苦難に耐え、誘惑を退け、福音の祝福を余すところなく享受する力を頂きます。十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老は次のように教えています。「わたしたちが聖約を守れば、その聖約はわたしたちを霊的に……守ってくれます。」（「わたしが勝利を得たと同様に勝利を得なさい」『聖徒の道』1987年7月号、78参照）

聖約とは何でしょうか

聖約とは、神と個人または集団との間で、双方の合意のうでに交わされる神聖な契約です。神は御自分の聖約に対して条件を定められます。もしわたしたちが聖約の条件に従えば、祝福を受けます。それは、神が聖約を守る人に約束された祝福です。神はわたしたちとの愛のきずなのうちに、次のように約束しておられます。「あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う。」（教義と聖約82：10）

天の御父のすべての戒めは聖約に基づいています。聖約は、バプテスマや聖餐などの救いの儀式や、神殿で執行される昇栄の儀式を通じて交わされます。

聖約を守るときにどんな祝福があるでしょうか

すべての聖約には、それを守るときに特定の祝福が

伴います。例えば、ふさわしく聖餐を取り、バプテスマの聖約を新たにすれば、常に主の御霊がともにあるという約束を受けます（教義と聖約20：77，79参照）。また、日の栄えの結婚の「新しくかつ永遠の聖約」の条件に従う人は、「彼らはそこに置かれる天使たちと神々のそばを通り過ぎ……すべての事柄について昇栄と栄光を受けるであろう」と約束されています（教義と聖約132：19）。

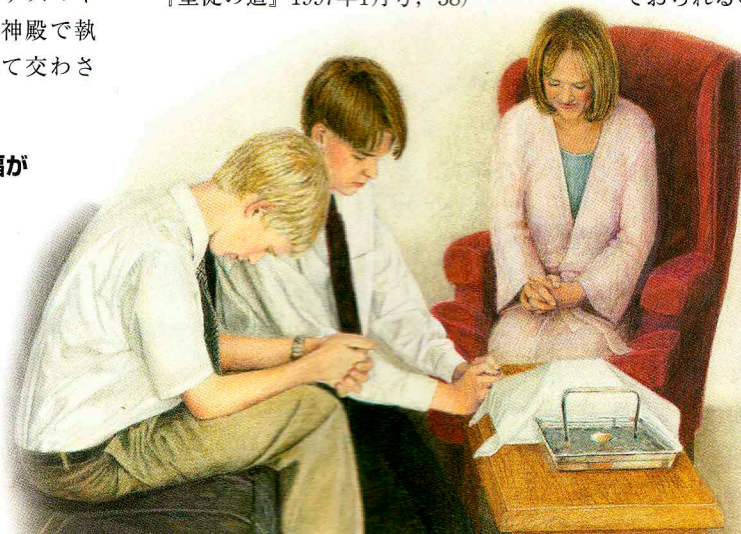
神聖な聖約に従うことによって神にしっかりとつながるとき、わたしたちはサタンから守られる力を祝福として受けます。特に試練のときには聖約から力を得ることができます。十二使徒定員会のヘンリー・B・アイリング長老は次のように説明しています。「聖約を守ることによってもたらされる報いは、聖霊を受けることであり、愛の力が増すことです。なぜこのようなことが起こるかと言えば、イエス・キリストの贖いの力がわたしたちの本質を変えるからです。聖約を受け入れ、戒めを守る人々にいっそう大きい霊的な力が与えられ〔ます。〕」（『神の証人』『聖徒の道』1997年1月号、38）

神との個人的な関係

健康を損ねているために教会に出席できなかったある姉妹は、神の聖約がほんとうに喜ばしく個人的なものであるということを知りました。特別な状況であったため、監督の指示の下、アロン神権者が聖餐を執行するためにこの姉妹の家にやって来ました。姉妹は神権者が来ることは知っていましたが、ただ自分のためだけに、神権者がひざまずいてパンと水を祝福してくれたときに感じたあふれるような神の愛は思いもかけないものでした。「神権者が聖餐のトレイに一切れのパンを載せ、次に小さな水のカップを一つ置いてくれたときのことは決して忘れないでしょう。聖餐のパンと水を頂いたとき、わたしは救い主との個人的なつながりを強く感じました。主の贖いはほんとうにわたしのためになされたのだ、と悟りました。主の憐れみと愛を感じました。ただわたし一人だけに与えられた困難に対処できるよう、すべての点でわたしは新たにされ、強められたのです。」

天の御父はわたしたち人間のもろさや、各自が直面する困難をすべて知っておられるので、この世の生涯を歩む

うで安全な道を見いだせるよう、聖約を与えられました。聖約を守ろうと熱心に努めれば努めるほど、主に対する従順によって得られる霊的な守りを強く感じることでしょう。□



伝道活動と 贖罪^{しよくざい}

十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド

預言者ジョセフ・スミスはかつて、「わたしたちの宗教に関するすべての事柄は、〔イエス・キリストの贖罪〕に付随しているだけなのです」¹と述べました。同様に、また同じ理由で、宣教師や会員が教えるあらゆる真理は、すべての時代において中心を成すメッセージ、すなわちイエスがキリストであり、世の救い主、^{あがな}贖い主であられるというメッセージに付随したものにすぎないのです。

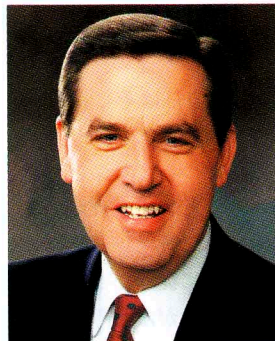
わたしたちの基本的なメッセージは、キリストが御自分の体と血をすべてささげ、霊に苦しみを受けて、エデンの園におけるアダムとエバの最初の背きを贖い、またアダムの時代から時の終わりに至るまでこの世に生を受けるすべての者の個人的な罪をも贖われた^{たまもの}というものです。

そうした祝福には、復活の賜物など、無条件に与えられるものもあります。しかし、明確な条件を伴う祝福もあります。その条件とは、戒めを守り、儀式を受け、キリストの弟子として生活することです。

いずれにしても、福音の基本的なメッセージとは、主御自身の口により述べられた次の言葉です。「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない」²このように、御父のもとに帰ることを可能にするキリストの贖罪は、大いなる永遠の救いの計画の中心的事実、きわめて重要な基、主要な教義であり、わたしたちはこれを教えるように召されているのです。

バプテスマの要件

恐らく、この教義が中心であることを知らない宣教師



は、もしいたとしてもごくわずかでしょう。しかし、驚いたことにこの教義は、宣教師が福音を教えるレッスンの中で早い時期に教えられていないことが分かりました。

例えば、わたしはほうほうのゾーン大会で宣教師たちに、求道者に福音を教えた結果として何を期待しているかと尋ねてきました。

「バプテスマを受けることです。」宣教師たちは異口同音に叫びます。

「そうですね。」わたしは言います。「では、そのためには何が必要でしょうか。」

そこで、彼らは少し用心深くなります。「なるほど。これはテストなんだ。これは第1課のテストに違いない。」彼らはそう考えるのです。「モルモン書を読むことです。」ある宣教師は叫びます。「祈りです。」一人の長老が大声で言います。「教会に出席することです。」姉妹の一人が言います。「すべてのレッスンを受けることです」と答える人もいます。

「さて、皆さんは第1課のレッスンにある決意事項をほとんど挙げました。しかし、皆さんは求道者に何をしてもらいたいですか。」わたしは尋ねます。

「バプテスマを受けることです。」再度、声を合わせて返事があります。

そこで、わたしは言います。「長老と姉妹の皆さん、バプテスマのことはもう出たでしょう。ほかにはどうですか。」

すると、彼らは困ってしまいます。「ほかの課からの決意事項があるかもしれない」と彼らは考えます。「知恵の言葉に従って生活することです」と、だれかが答え



宣 教師や会員が教えるあらゆる真理は、すべての時代において中心を成すメッセージ、すなわちイエスがキリストであられるというメッセージに付随したものにすぎないのです。

ます。^{じゅうぶん}「什分の一を納めることです」と、ほかの宣教師が叫びます。そのように答えが続きます。

ここで申し上げなければならないのは、宣教師の中でバプテスマ前の求道者に望まれる二つの最も基本的な事柄を挙げる人はほとんどないという事実です。その二つの事柄とは、主イエス・キリストを信じる信仰を持つことと、罪を悔い改めることです。「わたしたちは、福音の第一の原則と儀式とは、第一に主イエス・キリストを信じる信仰、第二に悔い改め、〔次いで〕第三に^{ゆる}罪の赦しのために水に沈めるバプテスマ、第四に聖霊の賜物を授けるための^{あんしゅ}按手であることを信じる。』³

改宗者の新たな生活は、主イエス・キリストと主の贖いの犠牲を信じる信仰の上に築かれなければなりません。主イエス・キリストが実際に神の御子であり、この瞬間にも実在しておられ、主イエス・キリストのみがわたしたちの救いと昇栄に対する^{かぎ}鍵をお持ちであるという確信がなければなりません。その信仰に次いで、真の悔い改め、すなわち清められ更新され完全な状態になりたいという望みを示す悔い改め、贖罪のもたらすすべての

祝福を求めることを可能にする悔い改めがなければなりません。

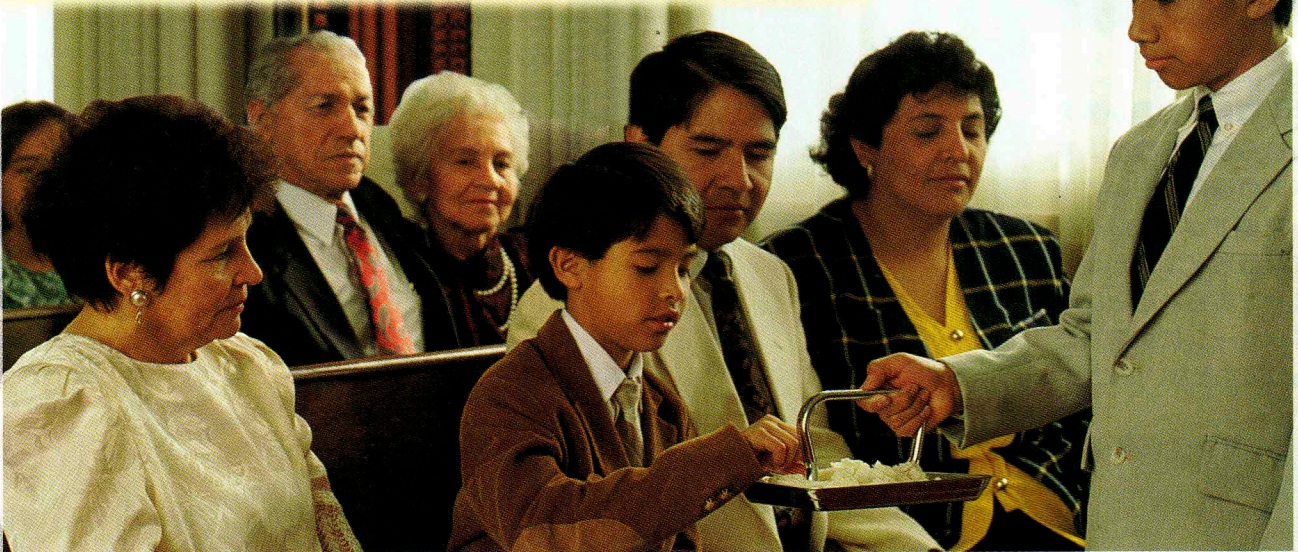
その後、罪の赦しのためのバプテスマが続きます。そうです。バプテスマは教会の会員になるためのものです。しかし、預言者ジョセフ・スミスが信仰箇条の中で強調したのはそのことではありませんでした。彼が強調したのは、罪の赦しのためのバプテスマでした。それは、皆さんやわたし、宣教師や求道者に、贖罪と救い、キリストがわたしたちに与えてくださる賜物に焦点を当てさせるものです。

贖罪を伝道活動の中心に置く

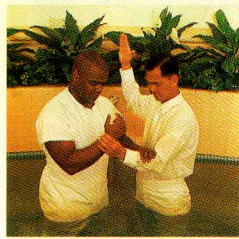
キリストとキリストの贖罪を会員と求道者の意識の中心に置くために、わたしたち全員が行えることを幾つか提案しましょう。

教会の集会、特に^{せいさん}聖餐会をあらゆる点でもっと霊的なものにするようにしてください。求道者は宣教師から教えを受けるときに感じる同じ気持ちを、当然聖餐会でも感じる必要があります。

救いに至る唯一の道はゲツセマネを経由してカルバリに続きます。永遠に至る唯一の道は、主、すなわち道であり真理であり命である御方を通じて続くのです。



フットボストレーション・タイプ・バプテスマン（前記はわたしの除く）
左：フットボストレーション・バプテスマン



**バプテスマ会は、
この儀式の意義とキ
リストの贖罪に焦点
を当てたものでな
ければなりません。儀
式は贖罪を有効なも
のとするのです。**

聖餐の儀式については、実際にその場に臨む前に説明して準備をさせてください。宣教師は聖文の中の聖餐の祈りをそのまま読んで聞かせることができます。好きな聖餐の賛美歌の歌詞を幾つか分かち合うこともできます。あるいは、聖餐会の中で求道者が有益な学習体験ができるように、ほかにもたくさんのことができるでしょう。

同様に、バプテスマ会を霊的な、キリストを中心とした経験とするために、できる限りのことを行ってください。新しい改宗者がこの会を神聖な、入念に計画された、霊的に高められる時にすることができるよう配慮すべきです。祈り、賛美歌、そして特にそこで語られる話、これらのすべては、バプテスマの儀式の意義とキリストの贖罪に焦点を当てたものでなければなりません。儀式は贖罪を有効なものとしします。宣教師の皆さん、バプテスマの記録を作ることに熱中するあまり、バプテスマが象徴する事柄や、新会員の人生にとってバプテスマがどのような意味を持つかを忘れないでいただきたいと思います。

宣教師は、教える機会があるときはいつも、救い主について、また救い主がわたしたちに与えてくださる救いの賜物について証を述べなければなりません。確かに皆さんは、自分が教えるすべての原則についていつも証を述べなければなりません。中でも、天の御父の計画の中心に位置するこのバプテスマの教義について証するのは、特に大切なことです。

証を述べる理由は幾つかあります。その一つは、皆さんが真理を述べるとき、「この真理は以前に聞いたことがある」という無意識の記憶を求道者に呼び起こさせるということです。もちろん、彼らはその真理を聞いたことがあるのです。宣教師の証は、この世が存在する前の天上の会議の時にまでさかのぼって、そこで蓄えた大いなる証を思い出させます。当時、これらの人々はこの同じ計画が説かれたのを聞き、またイエス・キリストが彼らの救いに関して果たされる役割についてもそこで耳にしたのです。

事実、求道者は、キリストについてのわたしたちの証を聞くときに、当時のほかの人々の証がこだまするのを感じるのです。その中には、キリストに関する求道者自身の証も含まれます。なぜならば、彼らは最初の位を保

った忠実な者たちの側にいて、第二の位の特権を得たからです。わたしたちは、これらの求道者がかつてキリストの証の力によってサタンに打ち勝った雄々しい者たちの中にいたことを常に覚えておかねばなりません。⁴

さらに皆さんは、パウロが述べた「イエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト」⁵について証を述べるときに、父なる神と聖霊の力を引き出すことになります。救

い主御自身がこう教えておられるからです。

「わたしを信じる者は父をも信じるのである。その者〔求道者〕に、父はわたしのことを証されるであろう。父はその者〔求道者〕に火と聖霊を与えられる。

このようにして、父はわたしのことを証され、聖霊はその者〔求道者〕に父とわたしのことを証する。父とわたしと聖霊は一つである。

……これがわたしの教義である。この教義の上に建てる者はわたしの岩の上に建てるのである。地獄の門もこれらの者に打ち勝つことはない。」⁶

なぜわたしたちはキリストについてしばしば力強く証を述べなければならないのでしょうか。証を述べることによって御霊を招き、わたしたちの証が、父なる神と聖霊が述べられた神聖な証の力の一部となり、求道者の心を火のように燃え上がらせるからです。キリストについてのこのような神聖な証は、すべての新しい改宗者が基としなければならない岩なのです。贖いをなさった、油注がれ勝利を得られた御方についてのこの証だけが、地獄の門に打ち勝つのです。

誠実に聖文を研究し、キリストの贖いの使命を教え証する言葉に精通してください。わたしがこれまで語ってきた真理以上に皆さんの心に触れ、魂を奮い立たせるものはないでしょう。

わたしは特に、専任宣教師と伝道に携わる教会員の皆さんに、モルモン書を学び、モルモン書からキリストの贖罪について教えるようお勧めします。わたしはこのことを力説しすぎと思われるくらいに強く申し上げます。なぜならば、わたしは自分自身の伝道で、モルモン書とそこに示されている神の御子の尊厳を大切に思うようになったからです。モルモン書は世の救い主に特に焦点を当てることによって、文字どおり、新しい聖約の書、すなわちイエス・キリストについての「もう一つの証」に



モルモン書はこの 神権時代における最 初の伝道のための道 具であり、今なお最 もすばらしい伝道の 道具です。

なっています。そしてこの書は万人に、神の御子の贖罪によって「あなたは堕落したので、贖いを受けることができます。全人類、まことにそれを望むすべての者も同様である」⁷と宣言しているのです。

モルモン書の預言者たちの証

ニーファイが彼の教導の業の初期に述べた次の言葉を考えてみてください。

「しかし、世の人々は自分たちの罪悪のために、この御方を取るに足りない者と判断する。それで彼らはこの御方を鞭打つが、この御方はそれに耐えられる。また彼らはその御方を打つが、この御方はそれにも耐えられる。まことに、彼らはこの御方につばきを吐きかけるが、この御方はそれにも耐えられる。それは、この御方が人の子らに対して愛にあふれた優しさと寛容に富んでおられるからである。

わたしたちの先祖の神、……まことに、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神は、……一人の人として悪人たちの手に身をゆだねて、ゼノクという言葉のように上げられ、ニアムの言葉のように十字架につけられ、ゼノスの言葉のように墓に葬られるのである。……

預言者ゼノスはさらに言う。『これらのことは、すべて必ず起こる。そして地の岩は必ず裂ける。また大地がうなりを起こすので、海の島々にある多くの王は神の御霊に動かされて、「万物の神が苦しみに耐えておられる」と叫ぶ。』⁸

あるいは、2日間にわたって堕落と贖罪について述べた、ニーファイの立派な弟ヤコブの言葉を考えてみてください。

「おお、神の慈しみの何と深いことか。わたしたちがこの恐ろしい怪物に捕まらないように、神は逃れる道を備えてくださっている。まことに、その恐ろしい怪物とは死と地獄であり、わたしはそれを肉体の死および霊の死と呼ぶ。……

神は、神の声に聞き従うすべての人を救うために、この世に来られる。見よ、神はすべての人の苦痛、まことに男、女、子供の区別なく、アダムの家族に属する、生けるものすべての苦痛を受けられる。

神がこれを受けられるのは、復活がすべての人に及ぶようにするためである。

また神は、すべての人に、イスラエルの聖者に対して完全な信仰を抱きながら、悔い改めて、神の御名によってバプテスマを受けなければならないと命じておられる。そうでなければ、人は神の王国に救われない。』⁹

あるいは、最後にもう一つだけ、偉大な族長リーハイの述べた次の言葉を考えてみてください。

「したがって、贖いは聖なるメシヤによって、またメシヤを通じてもたらされる。……

見よ、メシヤは律法の目的を達するため、打ち碎かれた心と悔いる霊を持つすべての人のために、罪に対する犠牲として御自身をささげられる。このような人々のためにしか、律法の目的は達せられないのである。

したがって、これらのことを地に住む者に知らせて、聖なるメシヤの功德と憐れみと恵みによらなければ、だれも神の御前に住める者がいないことに気づかせるのは、何と大切なことであろうか。聖なるメシヤは、肉において御自分の命を一度捨て、そして、死者の復活をもたらすために御霊の力によって再びそれを得て、最初によみがえる者となられる。

したがって、メシヤは神にとって初穂となられるので、すべての人の子らのために執り成しをしてくださる。だから、メシヤを信じる者は救われるのである。』¹⁰

確かに、皆さんはこれらの例がモルモン書のほんの最初の部分からの証であることにはっきりとお気づきでしょう。これがその神聖な記録の全体にわたって述べられている緊急の、印象深いテーマであると感じていただければ、それで十分です。モルモン書はこの神権時代における最初の伝道のための道具であり、今なお最もすばらしい伝道の道具なのです。

わたしたちはモルモン書を用いて、またもちろんほかのすべての聖文をも用いて贖罪について教えるならば、自分自身の生活も含めて多くの人々の生活を変えることができますと、わたしは皆さんに証します。

贖罪と宣教師

どのような形であれ伝道活動を行う人は、次のように考えるときがあるでしょう。なぜ伝道はこんなに難しいのだろうか。なぜもっと早く成功が得られないのか。なぜもっと多くの人が教会に加わらないのか。「伝道活動

において唯一危険なことは、昼も夜も一日中バプテスマフロントの中でずぶぬれになっているために肺炎を起こしそうになることだ」などというような状態がなぜ起こらないのか。

わたしはかつてこうしたことについて深く考えてみたことがあります。わたしの個人的な気持ちとして次のように申し上げます。伝道活動が容易でないのは救いが簡単に得られるものでないからだ、わたしは確信してい

ます。救いは決して容易に得られるものではありません。わたしたちの教会はイエス・キリストの教会です。これは真実です。イエス・キリストはわたしたちの大いなる永遠の頭です。救うことがイエス・キリストにとって決して容易でなかったのにわたしたちにとって容易だと、どうして信じられるでしょうか。したがって、宣教師と伝道主任はゲツセマネで少なくとも少しの時間を過ごさなければならないと、わたしは思います。宣教師と伝道

リーハイはこう教えています。「これらのことを地に住む者に知らせ、聖なるメシヤの功德と憐れみと恵みによらなければ、だれも神の御前に住める者がいないことに気づかせるのは、何と大切なことであろうか。」





わたしたちはモルモン書を用いて、もちろんほかのすべての聖文をも用いて贖罪について教えるならば、自分自身の生活も含めて多くの人々の生活を変えることができる、わたしは皆さんに証します。

主任はカルバリの頂に向かって少なくとも一歩、二歩進まなければならないのです。

さて、どうか誤解しないでください。わたしはキリストが経験されたことに匹敵するほどの事柄についてお話しているのではありません。それはおこがましく、しかも神聖を汚すことになります。しかし、宣教師と求道者が真理を知り、救いを得、支払われたこの代価のいくばくかを知るためには、その同じ代価を少しなりとも払わなければならないと、わたしは信じています。

その理由で、わたしは、伝道活動が決して容易でなく、改宗や定着、また忠実であり続けることも容易でないと信じています。福音に生きるには幾らかの努力、心の底からの何かが必要であると、わたしは信じています。

イエスが夜に進み出て、ひざまずき、頭を垂れ、あらゆる毛穴から血を流し、「アバ、父よ（お父さん）、可能であれば、この杯をわたしから取りのけてください」¹¹と叫ばれたとすれば、わたしたちにとって救いが容易でなくても不思議ではありません。もっと容易な方法はないのかと思うとき、皆さんは、そのように尋ねたのは皆さんが最初ではないということを覚えておくとよいでしょう。もっと容易な方法はないのかと考えた人々は昔から大勢おり、おびただしい数に上っています。

皆さんが苦しむとき、皆さんが拒まれるとき、皆さんがつばきをかけられ追い出されるとき、皆さんは、この世の人々がかつて知っていた最良の生活、かつて人々が送った唯一の純粋かつ完全な生活をしているのです。皆さんは毅然として立つ理由があります。生ける神の生ける御子が皆さんの悲しみと苦難をすべて御存じであることを感謝してください。救いに至る唯一の道はゲツセマネを経由してカルバリに続きます。永遠に至る唯一の道は、主、すなわち道であり真理であり命である御方を通じて続くのです。

わたしは証します。生ける神はわたしたちの永遠の御父であり、イエス・キリストは御父の肉における生ける独り子です。わたしは証します。木にかけられて殺されたこのイエス¹²は生きておられます。福音のもたらす完全な喜びは、イエス・キリストが生きておられるということです。そして、イエス・キリストが生きておられるので、わたしたちも生きるのです。

あの最初の復活の日曜日に、マグダラのマリヤは最初、自分は園の番人を見ていると思いました。確かに、彼女は、エデンを設けられ、ゲツセマネで耐えられた園丁を見たのです。わたしたちに命の木を与えてくださったその園丁を。

その御方は世の救い主であられると、わたしは宣言します。その御方が上げられて亡くなられたのでわたしたちも上げられて命を得ることを、わたしは知っています。

わたしは証します。その御方はわたしたち

の背きのために傷つけられ、わたしたちの不義のために砕かれました。その御方は悲しみの人で、悲哀を知っておられました。その御方はわたしたち全員の背きを負われたからです。¹³

わたしは証します。イエスは、打ち砕かれた心を持つ者を癒し、すべての人の目の涙を乾かし、囚われ人に自由を宣言し、縛られている者に対して獄の扉を開けるために、御一方の神として神から遣わされました。¹⁴ わたしは約束します。皆さんが福音を広めるといふ召しに忠実にこたえておられるので、イエス・キリストは皆さんの打ち砕かれた心を癒し、皆さんの涙を乾かし、皆さんと皆さんの家族を自由にくださるでしょう。これは宣教師である皆さんへのわたしからの約束であり、世の人々への皆さんの伝道メッセージです。□

2000年6月20日、(ユタ州)プロボ宣教師訓練センターでの話

注

1. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス選 (1976年) 121参照

2. ヨハネ14:6

3. 信仰箇条1:4, 強調付加

4. 黙示12:10-11参照

5. 1コリント2:2

6. 3ニーファイ11:35-36, 39, 強調付加

7. モーセ5:9

8. 1ニーファイ19:9-10, 12

9. 2ニーファイ9:10, 21-23

10. 2ニーファイ2:6-9, 強調付加

11. マルコ14:36参照

12. 使徒5:30参照

13. イザヤ53章; モーサヤ14章参照

14. イザヤ61:1-3参照

最高の自分になりましょう

感謝する人になりましょう。知性を備えた人になりましょう。

清い人になりましょう。誠実な人になりましょう。

けんそん
謙遜な人になりましょう。よく祈る人になりましょう。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長



最も大切な一步

F・デビッド・スタンレー

元ユタ州バウンティフル神殿長、元七十人第二定員会会員

伝道、または人生に備えるうえで、
神殿で行われる事柄以上に大切な
ことはありません。

ある木曜日のことでした。ジムとアレックスは、ほかの大勢の会員と同様に、郵便が届くのを心待ちにしていました。数週間前に宣教師の推薦書を提出したので、彼らを伝道に召す手紙が今日届くかもしれないのです。

ジムは地元のスーパーで働いており、アレックスは大工の下で働いていました。二人はそれぞれ自分の母親に、教会本部から大きな白い封筒が届いても開けないように約束させました。その日、二人は仕事になかなか集中できませんでした。ジムはもう少しで石けんと新鮮な野菜を同じ袋に入れるところでした。アレックスは何度か板を短く切りすぎました。

予想どおり、大きな白い封筒が届きました。その日の仕事が終わると、二人の青年は急いで帰宅しました。家族が見守る中、二人は待ち焦がれた伝道の召しの手紙を開けました。期待は喜びと感謝の涙に変わりました。若い青年たちは二人とも、主が語られたと感じ、その召しにこたえる準備ができていました。

最初の興奮が治まると、次の準備段階に入ります。両方の家族は詳しいチェックリストを作成しました。仕事を辞める時期、衣類や持参品の購入、聖

餐会の準備、家族で集まる機会を設けること、それから……そうです。神殿に参入するのです。しかし、残念なことに、息子の人生での備えにおいて神殿参入が最も大切な側面であるとならえ、本来あるべき重点を置いたのは片方の家族だけでした。

神殿を中心とする

神殿参入が、本来あるように、あなたの伝道と人生において偉大な祝福となるよう望むなら、伝道地に赴く前のチェックリストの単なる一項目にとどめてはなりません。ハワード・W・ハンター大管長は次のように語りました。「実に、神殿で行われる業に匹敵するものは存在しません。」(“We Have a Work to Do”, *Ensign*, 1995年3月号, 65) また、さらにこのように述べています。「すべての宣教師がふさわしい状態で神殿に参入し、神殿参入を、伝道の召しを受けることよりもはるかに大いなる輝かしい体験とできるよう、彼らに備えをさせましょう。」(「神殿に心を向ける民」『聖徒の道』1995年5月号, 6) そして、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように語っています。「[神殿], そして、そこで執行される儀式は、わたしたちの礼拝の究極の姿を表しています。」(「伝道と神殿、そして管理の職」『聖徒の道』1996年1月号, 60) 個人への命の至高の祝福がもたらされるのは、神殿の中だけです。完全な神権について理解することがで

きるのは神殿の中だけです。わたしたちが教会で行うすべての事柄の真髄は、神殿を中心としているのです。

力を授けられる

神からの賜物であるエンダウメントは、あなたに「高い所から力を授けられる」権利を授けるものです(教義と聖約38:32)。この力とは、イエス・キリストの力です。神殿の中では、あなたが伝道地で教える幸福の計画が、最も神聖で分かりやすい方法で教えられます。あなたは神殿の神聖な儀式や、神殿で交わす聖約について、神殿以外では口外しないことを聖約します。しかし、神殿で交わした聖約に従うなら、伝道地で、そして生涯にわたって永遠の祝福がともにあることでしょう。

神殿参入に備える

神殿への備えとして非常に大切な事柄の一つは、聖文に記されている神殿の教義を研究し、理解するように努めることです。

これらの教義について深く考えるとき、神殿で交わす永遠の聖約の意味を理解できるように祈り求めてください。霊的に聞く力を祈り求めてください。神殿が近くにあれば、自分のエンダウメントを受けるに先立って死者のためのバプテスマに参加してもよいでしょう。

あなたがこの聖なる「主の山」に入るとき(イザヤ2:3参照)、あなたの



個人的なふさわしさが最も重要であることを覚えていてください。本質的に、神殿に参入するにふさわしいならば、伝道に出るふさわしさをも備えていると言えます。逆の場合も当てはまるでしょう。個人的な背きや罪を隠そうとしないでください。そのようなことをすれば、あなたはそれらの神聖な聖約を交わすときに正しい気持ちを感じないことでしょう。宣教師として、あなたが進歩するか、苦悩するかは自らのふさわしさにかかっています。

初めて神殿推薦状を受ける面接を行う際、監督または支部長はあなたと話し、幾つかの質問をします。正式な面接の前であっても、ふさわしさを尋ねるこれらの質問の目的と意味について、監督または支部長に説明してもらうことができます。

ワードまたは支部、ステークまたは地方部では、初めて神殿に参入する人のために神殿準備クラスを開いています。この機会を逃さずに活用するとよいでしょう。

神殿参入の経験

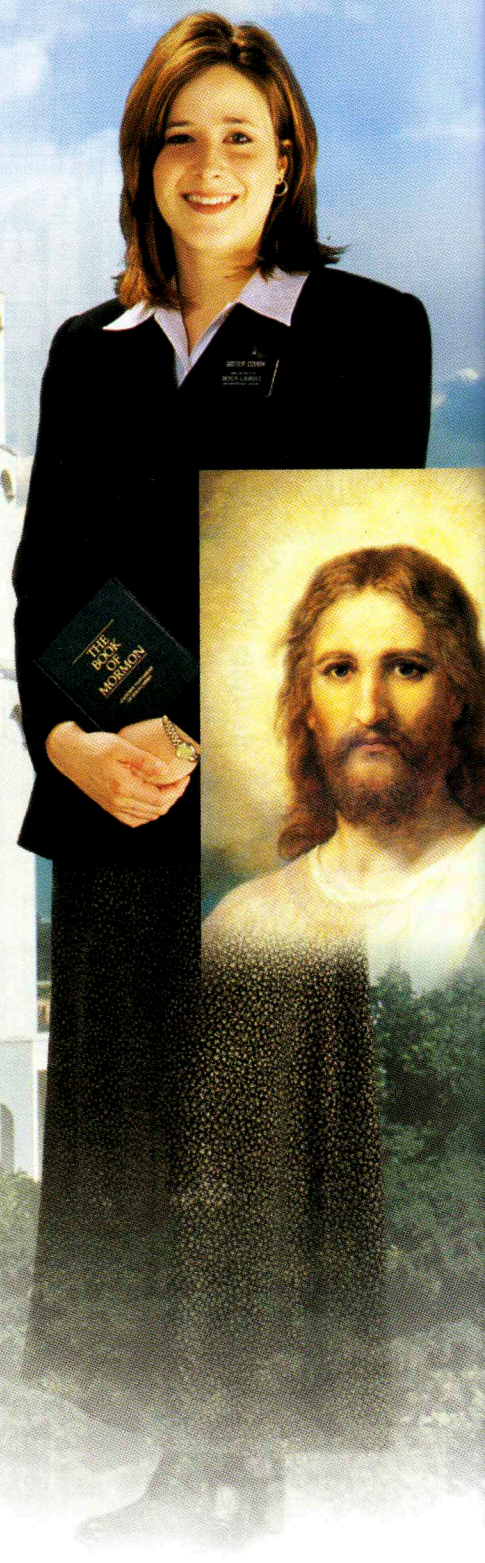
初めて神殿に参入するとき、どんなことを期待するでしょうか。神殿には、地上でほかのどこにも見いだせない平安、静寂、敬虔さがあります。親しみやすく、親切な神殿職員があなたを歓迎し、終始助けを行います。さらに、個人的に付き添ってくれる人を同伴することもできます。付き添う人は親戚でも、親しい友人でもかまいませんが、

できれば、参入者が兄弟なら父親が、姉妹なら母親が付き添うとよいでしょう。

あなた自身が敬虔さを保つことによって、神殿で見いだされる敬虔さをさらに増すことができます。ほかの人と話すときは、「神殿にふさわしい声」で話します。どのような声かは、神殿に参入すると分かるでしょう。

神殿職員があなたの推薦状を確認し、手続きを済ませた後、あなたは更衣室へ行き、洗いと油注ぎの儀式に備えます（教義と聖約124：39参照）。これらの神聖なイニシヤトリの儀式の後、神殿長会の一員あるいはメイトロンやメイトロン補佐の一人から説明を受けます。その機会は学びの場となることでしょう（教義と聖約109：8参照）。

この後、神聖な教えを受けたり、聖約を交わしたりするための儀式の部屋へ案内されます。ここで交わす永遠の聖約は、あなたの人生を永遠に変えるものとなります。もし聖文を研究していれば、これらの聖約に含まれる深遠な意味に特別驚くことはないと思います。これらの聖約は、バプテスマと聖霊の賜物を受けたすべての会員に求められる事柄の延長です。しかし、これらの聖約を聖なる神殿で受けることで、さらに



大きな義務を受け、忠実さの見返りに永遠の至高の祝福を約束されます。

聖なる神権のガーメントを生涯に着ける決意は、この過程の一部です。ガーメントは、あなたが交わした神聖な聖約の意味を思い起こし、悪から守られるうえで助けとなるものです。

エンダウメントを終えると、神殿の日の栄えの部屋に入り、この部屋の敬虔さと神聖さを享受することができます。ここでは、神殿の中で儀式とともに受けた、愛する人々と会います。神聖な事柄について話し、静かに瞑想し、深く考え、礼拝する機会であり、そのような場所です。

力づけられる

神殿に参入し、自身のエンダウメントを受けることによって、力を得られます。この偉大な祝福に自分を備えるなら、直ちにその力を感じることができるようでしょう。この力は、定期的に神殿に参入することで、伝道前だけでなく生涯にわたって保たれ、増し加えられます。大切な聖約を自分の身に受けることによって、天の御父の幸福の計画についてより深遠な意義を見いだすでしょう。アルマはこのように述べています。「あなたがたの理解力に光が注がれ、あなたがたの心が広がり始めている……。」(アルマ32:34) また、次のようにも語っています。「それはわたしに良い気持ちを与え始めている。」(アルマ32:28)

宣教師の福音の標準教授法を研究

し、学び、教えるとき、その内容が神殿で交わした神聖な聖約と一致していることがすぐに分かるでしょう。この経験からあなたの信仰と証が強められます。定期的な神殿参入によって感じる力は、救い主と救い主の贖いの犠牲に対するより強い証となって表れるでしょう。あなたが神殿で交わすすべての聖約は、天の御父と御子イエス・キリストを中心としています。聖約を従順に守ることは、伝道の期間中だけでなく、生涯にわたって豊かな祝福をもたらします。神殿に参入する際は、天の御父があなたに対して抱いておられる御心を着実に理解したいという謙遜な望みを持ってください。このような謙遜な思いにより、あなたは聖霊を感じ、聖霊によって義にかなった生活を行う望みと決意が増すことでしょう。人生の試練に対する答えは、主の聖なる神殿でわたしたち一人一人に与えられるのです。

生涯、そして永遠にわたる至高の祝福と完全な神権は、主の宮でしか見いだせません。神殿参入を、一覧表の単なる一項目にとどまらない価値あるものとしてとらえるなら、ほかの方法では得られない力があなたの生活に注がれるでしょう。あなたが主の業を行うときに、主の手に使われる器としてさらに効果的に働くことができます。そして、人々をキリストのもとへ導くために働くとき、自らが御父と御子の前に至る道を歩んでいることに気づくのです。□

以下は、初めての神殿参入、あるいはそれ以降の参入に備えるうえで助けとなる聖句です。

神性の力

教義と聖約84:20

高い所から授けられる力

教義と聖約95:8-9

学びの場

教義と聖約97:10-17

犠 牲

教義と聖約109:5

聖なる場所

教義と聖約109:13

すべての必要なものを得る

教義と聖約109:15

神の家

教義と聖約109:16

清 さ

教義と聖約109:20

救い主のカートランド神殿への現れ

教義と聖約110章

洗いと油注ぎ

教義と聖約124:37-42

聖 約

教義と聖約132:7-14



宣教師訓練センターにて

マービン・K・ガードナー

生まれたときから
教会に集っている人も、
改宗からわずか
1年足らずの人も、
宣教師訓練センターで
伝道に出る備えを
することができます。

マヌエル・ソリス・ルイズ
は、チョジョロというメキ
シコ南部の人里離れた山村

にある、かやぶき屋根と日干
しれんがでできた家で生まれ
ました。15歳で宣教師の話
を聞いたときは、宣教師が話す
スペイン語を母国語のツォツ
ィル語に通訳してもらう必要
がありました。マヌエルはツォツィ
ル語に翻訳されたモルモン書の抜粋をよ
く読んでバプテスマを受け、両親に福
音を伝えようとしてしました。それから4
年後、両親はバプテスマを受けました。



マヌエルは初等協会教師と支部の書記
として奉仕しました。専任宣教師とな
るよう宣教師から勧められると、マヌ

エルはなぜそれが無理なのかを
説明しました。「わたしが分かる
のはツォツィル語だけで、スペ
イン語は話せず、理解すること
もできません」とマヌエルは言
いました。「それに家にはお金が
まったくありません。年老いた両親を
養うため、小さいときに学校を退学し、
田畑で仕事をしなければなりませんで
した。両親は完全にわたしに依存して
います。」



しかしマヌエルは伝道に出たいと思い、勇気を出して地元の伝道部長に話をしました。マヌエルの純粋な気持ちを知った伝道部長と地域の指導者たちは、マヌエルが伝道に出ることができるよう支援しました。

「今わたしはメキシコシティの宣教師訓練センターにいます」とメキシコ・メキシコシティ南伝道部に召された21歳のマヌエルは言います。「父と母を残してくるのは悲しかったのですが、二人は元気でいてくれると思います。主がわたしに自信と強さを与えてくださいます。わたしはイエス・キ

リストの福音を学んでおり、宣教師訓練センターには力になってくれる友達がたくさんいます。

ソリス長老は宣教師訓練センターで、人生を変えるような経験をしています。伝道だけでなく、人生の備えに役立つことを経験しているのです。世界中の宣教師訓練センターにいる宣教師たちが同じような経験をしています。

宣教師訓練センターの目的は何でしょうか

すべての宣教師訓練センターは同じ基本理念を掲げています。

聖霊の影響、そして愛、信用、信頼、尊敬の下、宣教師訓練センターでの訓練は宣教師を神に近づけ、改宗の力をさらに強める。宣教師訓練センターで、各宣教師は以下のことを行う。

- 福音の教義を学んで常に心に留め、キリストのような属性を培う。
- 御霊の力により教えることを学び、それにより人々がキリストを信じる信仰を持ち、悔い改め、バプテスマを受け、聖霊を受け、最後まで堪え忍ぶよう助ける。
- 異言の賜物を求め、召された伝道地での公用語を話せるようになる。



十分な霊の糧に加え、宣教師訓練センターでは栄養バランスの取れた食事を提供している。左端——プロボの宣教師訓練センターで。左——メキシコの宣教師訓練センターで。

宣教師訓練センターは何か所ありますか

宣教師訓練センターは以下に示す、世界15か所に設置されています。アルゼンチン、ブラジル、チリ、コロンビア、ドミニカ共和国、イギリス、グアテマラ、日本、韓国、メキシコ、ニュージーランド、ペルー、フィリピン、スペイン、ユタ州プロボ。

どこで宣教師訓練センターに入るのでしょうか

皆さんが伝道の召しを受け取る際、どの宣教師訓練センターに所属するか通知されます。たいていの場合、伝道地の言語を母国語とする教師、あるいはその宣教師訓練センターがある地域に住む教師から訓練を受け、赴任する伝道地出身の宣教師と交流し、現地で働く宣教師とともに教え、地元の人々や文化に直接触れます。多くの人は言語を学ぶ必要がなく、宣教師訓練センターで学ぶ期間は約3週間となっています。語学訓練が必要な人の場合、訓練期間はおおよそ8週間に及びます。

どの宣教師訓練センターに所属しても、各地からやって来た宣教師と交わることで、皆さんは御霊を感じるでしょう。例えばグアテマラ出身のア

ナ・ビクトリア・オールドネズ・レクエナ姉妹はアルゼンチンの宣教師訓練センターに所属し、ウルグアイで働く準備をしており、同僚はチリ出身です。「ここに着いた瞬間から御霊を感じることができました」とレクエナ姉妹は言います。「わたしの証は着実に増えています。」

宣教師訓練センターでは何をするのでしょうか

皆さんは専任宣教師の同僚を得て、宣教師訓練センターの所長と帰還宣教師の教師から学びます。皆さんは教会の教義を勉強します。御霊によって教える方法、そして特にモルモン書などの聖典を使って教える方法を学びます。『福音の標準教授法』を用いての教え方を学習します。必要に応じ語学訓練も受けます。神殿に参入します。中央幹部や地域幹部が目の前で、または衛星中継やビデオを通して皆さんにディボーションで話をします。皆さんは礼儀正しい振る舞い、規則、専任宣教師の日課を学びます。運動をし、聖歌隊で歌い、食事、洗濯をし、手紙を書く時間もあります。

この過程で、皆さんは主イエス・キリストの大使となることを学びます。皆さんは自信と謙遜さ、信仰と確信、

しっかりとした福音の知識、教える技術、語学力、文化に対する認識をもって伝道地で働くことができるでしょう。

ほかの宣教師は宣教師訓練センターについて何と言っていますか

まだ信じられません。ペルーの宣教師訓練センターで学ぶボリビア出身のエドガー・エレウテリオ・キスベ・ペレス長老「自分がほんとうにこの宣教師訓練センターにいて宣教師の名札を付けているなんて、今だに信じられません。」

居心地がよい所。ニュージーランドの宣教師訓練センターにいる西サモア出身のウィリアム・サミュエル・ロラニ・メレディス長老「初めは緊張しましたが、今では居心地がよくなりました。」

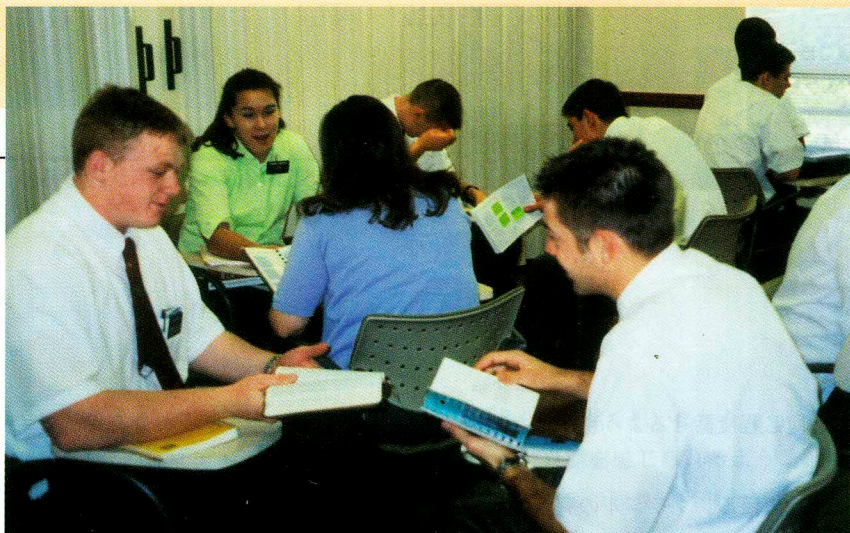
仕えるよう召された者の一人。韓国の宣教師訓練センターにいる韓国出身の崔秉龍長老「『仕えるよう召されて』(Called to Serve) のビデオを見て感動しました。自分は主に仕える6万人の宣教師の一人なのだということが分かりました。」

同僚を好きになれるでしょうか

友。スペインの宣教師訓練センターにいるアメリカ、ユタ州出身のジョセ



何時間にも及ぶ、集中的な学習の合間に運動を行う。下——ドミニカ共和国の宣教師訓練センターで。右——メキシコの宣教師訓練センターで。



フ・トーマス・ミラー長老「スペイン語を勉強したことはまったくありませんでしたが、同僚は6年間勉強していた、語学、福音など非常に多くの面でほんとうによく助けてくれました。彼は同僚以上の存在で、わたしの友です。」ミラー長老の同僚であるイギリス出身のサミュエル・デビッド・ノートン長老も同じだと言います。「ミラー長老は素晴らしい人です。ミラー長老からは謙遜と勤勉を学び、これがほんとうに役立っています。」

わたしに寛容です。アルゼンチンの宣教師訓練センターにいるウルグアイ出身のエステバン・ホセ・ベントウラ長老「同僚は人に愛を示す方法を教えてくれました。同僚はわたしに寛容で宣教師の福音教授法の勉強を助けてくれました。」

相手を第一に考える。プロボの宣教師訓練センターにいるロシア出身のユリア・ブラディミロブナ・ミハレバ姉妹「一人のひとと1日24時間常に行動を共にするのはたやすいことではありません。わたしたちは相手を第一に考え、

その後自分のことを考える、ということを学んでいます。」

御霊の言葉。イギリスの宣教師訓練センターにいるドイツ出身のキンバリー・モニカ・ジョンソン姉妹「ブルガリア出身の同僚アイバ・ベトコバ姉妹に感謝しています。わたしたちのグループでは12人の姉妹が8か国から集まっています。わたしはその姉妹一人一人を愛するようになりました。言葉の壁はあっても、御霊という共通の言葉によって意思の疎通ができています。姉妹たちの母国語での祈りを聞く度、そして英語での簡単な祈りを聞く度に、わたしは御霊に満たされます。」

同じ目的の下で一致する。プロボの宣教師訓練センターにいるチェコ共和国出身のヤナ・ヘドルリノバ姉妹「ここには様々な国と文化の人々がたくさんいて、わたしたちの間で感じる御霊は強いものです。わたしたちは同じ目的の下で一致しています。」

わたしは召しを果たせるでしょうか

初めは大変でした。ペルーの宣教師

訓練センターにいるペルー出身のホセ・ルイス・アグイラル長老「宣教師訓練センターで特に好きなことを二つ挙げるなら、食事とここで感じる素晴らしい御霊です。最も大変なのは、ここがとても厳格な所だということです。常に時間を厳守しなければならず、学習課題も数多くありますが、休憩時間は多くありません。最初慣れるまでは大変でした。でも今は大丈夫です。」

早起きの苦勞。ペルーの宣教師訓練センターにいるチリ出身のオスカル・イグナシオ・ベレス・アグイレラ長老「早寝早起きはわたしにとって大変ですが、規則によってわたしたちは責任を遂行し、成功できると知っています。」

ホームシックを克服する。グアテマラの宣教師訓練センターにいるエクアドル出身のクリスチャン・ロランド・エスカランテ・ロメロ長老「家から遠く離れているので、手紙が届くのに時間がかかります。でも同僚がそばにいて元気づけてくれます。宣教師訓練センターの所長は実の孫のようにわたしに助言を与えてくれます。所長のことが大好きです。イエス・キリストがわたしを養ってくださいます。」

主がついていてくださる。ドミニカ



宣教師訓練センターにいる間、宣教師には神殿参入の機会がある。左——スペイン・マドリッド神殿で。

共和国の宣教師訓練センターにいるアメリカ、ユタ州出身のコリー・リグネル長老「わたしには主がついてくださっていて、友達と家族がわたしのために祈ってくれていることを知っています。」

キリストの愛。ペルーの宣教師訓練センターにいるボリビア出身のホセ・カルロス・ベレス・ズビエタ長老「自分が成功する宣教師となるうえで助けとなるすべての習慣と規則を身に付けたいと思います。宣教師訓練センターではキリストの愛を感じます。キリストをととても近くに感じます。」

ほんとうに新しい言葉と文化を身に付けることができるのでしょうか

世界に類を見ない語学センター。プロボの宣教師訓練センターにいるポーランド出身のボイチェフ・クシュシトフ・バシチフ長老「このような短期間でこれほど上達できる語学センターは世界にもありません。これはわたしたちが聖霊の影響を受けながら教わっているからだと思います。ここに来る前、わたしは学校で5年間英語を勉強しましたが、隣に座っているブラジル人の長老は英語を勉強したことがまったくありませんでした。この長老は宣教師訓練センターに1か月いたただけでわた

しと同じ程度話せるようになったのです。」

文化に浸る。ブラジルの宣教師訓練センターにいるアメリカ、カリフォルニア州出身のダニエル・ボコボイ長老「新しい言語を習得するうえで最も大切な要素は、その言語が話されている地域の文化に浸ることです。ここでは街に出て地元の人たちと交流する機会がたくさんあります。地元の専任宣教師と伝道に出ることができます。わたしたちは本物の伝道活動を経験しているのです。」

授業と集会はどのようなものですか

教師が自信を植え付ける。メキシコの宣教師訓練センターにいるメキシコ出身のリズベス・アドリアナ・マルティネス・ヘルナンデス姉妹「先生たちは、熱心に働けば主が期待しておられることを達成できるという自信をわたしに得させてくれました。」

贖いを理解する。ペルーの宣教師訓練センターにいるペルー出身のパエリタ・カルメン・イトウザ・カサ姉妹「授業では、贖いの要点を書き出すという課題が出ました。でもわたしは贖いがよく分からなかったで、その課題ができませんでした。できなかったのは

わたし一人だけではありませんでした。課題を提出するときに、先生が助けてくれました。課題よりもわたしたちの方が大切なのだということが分かりました。わたしたちは教義と聖約第19章16節から19節を勉強し、わたしはイエス・キリストがわたしたちに抱いていらっしゃる偉大な愛について理解することができました。」

宣教師訓練センターの所長と過ごす。日本の宣教師訓練センターにいる原^{はら}智^{ともみ}三長老「特に大きな祝福は、宣教師訓練センターのすばらしい所長と姉妹とともにいられるということです。二人と一緒にいるとき、いつも御霊を感じます。」

中央幹部の話を聞く。ペルーの宣教師訓練センターにいるチリ出身のリカルド・アンドレス・イバネス・フエンテマビダ長老「『キリストの特別な証人』のビデオを見て、わたしはゴードン・B・ヒンクレー大管長が聖なる森で証をする場面で特に感銘を受けました。大きな喜びを感じ、大管長の目から愛と平安が伝わりました。」

ニュージーランドの宣教師訓練センターにいるパプア・ニューギニア出身のアビガイル・レイ・ババガ姉妹「十二使徒定員会のM・ラッセル・バラ

★メキシコ
★グアテマラ

★ドミニカ共和国

★韓国 ★日本

★コロンビア

★ペルー

★ブラジル

★チリ

★アルゼンチン

★イギリス

★スペイン

★フィリピン

★ニュージーランド



★ユタ州プロボ



現在世界で運営されている宣教師訓練センター

ド長老の話を放送で聞き、御霊に満たされました。」

ブラジルの宣教師訓練センターにいるアメリカ、アリゾナ州出身のベンジャミン・F・ガードナー長老「十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老がプロボの宣教師訓練センターで話している場面ビデオで見ました。とても力強いものでした。ホランド長老は自分の伝道について毎日のように考えていると述べました。」

神殿に参入していない場合はどうなるのでしょうか

神殿参入に備える。グアテマラの宣教師訓練センターにいるホンジュラス出身のカルメン・マリア・ラモス・ズニンガ姉妹「ここに来て最初の日曜日、わたしたちは神殿に参入する準備をするために断食をしました。朝起きた瞬間から御霊の存在を感じました。教会員ではない家族が間もなく宣教師と会い、福音を受け入れるであろうと強く感じました。」

神殿の中で。日本の宣教師訓練センターにいる宮川祥子姉妹「宣教師訓練センターにいる間に神殿に入ったときのことは決して忘れません。神殿の中でわたしはもっと忠実になり、神に近

づきたいと強く思いました。」

人が喜びを感じられるよう助ける。グアテマラの宣教師訓練センターにいるグアテマラ出身のレスリー・マリア・グズマン・マルドナド姉妹「神殿の儀式に参加している間、わたしは希望、確信、愛、感謝を感じました。家族とともに昇栄することがどれほど重要なことか、はっきりと理解しました。この同じ喜びをほかの人も感じることができるよう、力を尽くして働こうと思います。」

宣教師訓練センターはほんとうに「人生を変えて」くれるのでしょうか

出発点にすぎない。スペインの宣教師訓練センターにいるアメリカ、ユタ州出身のネーサン・クレーベン長老「10年間あまり活発でなく、その後教会に1年半集っただけのわたしは福音について何も知りませんでした。ですから2か月前の自分と比べれば、今のわたしは巨人のようなものです。でも、自分はまだ出発点にいることを実感しています。」

証をする。ドミニカ共和国の宣教師訓練センターにいるアメリカ、アイダホ州出身のブレット・マックスフィールド長老「ある晩、ディボーショナル

の後、わたしは所属する地区グループの宣教師たちとともに部屋に行き、自分たちが学んだことについて話し合った後で証をしました。それまでの人生で、あのときほど御霊を強く感じたことはありませんでした。」

霊的に成長する。イギリスの宣教師訓練センターにいるイギリス出身のナイジェル・モリス長老「ここでわたしは計り知れないほど霊的に成長しました。愛、信用、信頼、尊敬の下、わたしは言葉では表現できないような方法で神に近づきました。この経験は長い旅の始まりにすぎないのが分かるようになりました。伝道はより大きな成長への足がかりにすぎないのです。」

贖いを心に感じる。ブラジルの宣教師訓練センターにいるブラジル出身のエバニルダ・ゴメス・ド・ナシメント長老「ここでは信じられないほど霊的に成長します。それまでもわたしは贖いを受け入れてきましたが、今は言葉では表現できないような方法で、心に贖いを感じているのです。」□

冒険に生きる

十 二使徒定員会のデビッド・B・ヘイト長老は次のように記しています。
「多くの方がすでに御存じであ

るように、伝道を始めると、大きな冒険に乗り出すときに感じるのと同じ気持ちを味わいます。興奮や多少の心配、あるいはちょっとした恐れさえも感じるかもしれません。宣教師として働くとき



に、未知の世界に足を踏み入れます。」(本誌、16ページ参照) ♡ いかなる大冒険にも共通しますが、伝道には準備、訓練、実行が必要です。また、最善を尽くすことも求められます。しかし、以下の経験からも分かるように、人生を変えるような、肌で感じる喜びをもたらす冒険は、伝道のほかにはあまりないでしょう。

愛の宝

ロミー・バサラル・コテラ

わたしはある日の午後のことを、昨日のここのように覚えています。日曜日の集会の間、わたしはある笑顔のすてきな女性の隣に座りました。当時は午前と午後にまたがって集会が開かれていました。わたしはその女性と離れたい欲がなかったので、その手をしっかりと握り締めました。しかしわたしはまだ6歳で、そのときとても疲れていました。まぶたが重くなり、その暖かな手を握り締めようと頑張ってみたものの、とうとう眠ってしまいました。目を覚ますと、その暖かな手はもうそこにはありませんでした。わたしの小さな顔には涙が伝い、わたしの心は悲しみに沈みました。

その女性はエーボン・コンプトン姉妹といました。姉妹とご主人のマーリン・コンプトン兄弟はほほえみを絶やすことがありませんでした。そして二人の顔には

いつも愛が感じられました。今でも目を閉じれば、彼らの顔をはっきりと思い起こすことができます。わたしはよく、わたしが教えている初等協会のクラスの子どもたちにコンプトン夫妻のことを話します。わたしが知っているかぎり、彼らの話をすることがわたしのCTRクラスの子どもたちに愛を教える最良の方法なのです。

コンプトン夫妻はこの地でわたしたちとともにいるために、自国からペルーへやって来ました。コンプトン姉妹はあまりわたしたちの国の言葉を話していませんでしたが、兄弟の方は、わたしたちの国語をわたしたちの何人かよりも上手に話しました。わたしたちはコンプトン兄弟に感心していましたし、コンプトン兄弟がこの国の言葉と文化を愛していることを知っていました。

わたしが一体いつからコンプトン姉妹を愛するようになったのかは覚えていませんが、恐らくそれは、わたしが初めて初等協会に出席した日曜日のことだったと思います。コンプトン姉妹は「教会に行くのは」(『子供の歌集』142)という歌を教えてくださいました。絵を使って歌詞を教えながら、歌を歌うことについて教えてくださいました。天父とイエス・キリストは、わたしたちが歌声で主をたたえるときに喜ばれると教えてくださいました。

またあるとき、コンプトン姉妹とわたしは聖餐会^{せいさん}で一緒に座りました。言葉が通じなかったため、わたしたちはあまり話すことができませんでしたが、意思の疎通を図ることはできました。会の途中で、姉妹は紙とクレヨンを取り出しま

コンプトン姉妹は紙とクレヨンを取り出し、「あなたのママの絵を描きましよう」とささやきました。



した。わたしは姉妹が何か字を書くの
だろうと思いましたが、姉妹はこのよう
にささやきました。「あなたのママの絵
を描きましょう。」姉妹は小さな円を描い
てから自分の目を指差し、わたしに紙
とクレヨンを渡しました。わたしには、
姉妹がわたしに目を描いてほしいのだと
分かりました。それでわたしは目を描き
ました。クレヨンをコンプトン姉妹に返
すと、姉妹は髪を描きました。次にわた
しは洋服を描き、姉妹が腕を描きまし
た。やがてわたしたちは二人でお母さ
んの絵を完成させました。わたしはとて
もうれしくなりました。母にその絵を見
せ、コンプトン姉妹に抱きつきました。

コンプトン姉妹はいつでもわたしたちに
何かを分かち合ってくれました。コンプ
トン姉妹が自分で創作した子ども向け
の話をしてくれることも多かったです。
ある日コンプトン姉妹はイエス・キリスト
について話してくれました。それからわ
たしたちはコンプトン姉妹が描いてくれ
たイエスの絵に色をつけました。

やがて、コンプトン兄弟姉妹が帰国す
る日が来ました。わたしはどうして彼ら
がここを去らなければならないのか尋ね
ました。母はコンプトン夫妻にも家族が
いて、その家族は夫妻がいないと寂し
く、夫妻を必要としていると話してくれ
ました。わたしは自分の母のことを考え、
わたしが長い間母と離れていることなど
考えられないと思いました。そしてよう
やくコンプトン姉妹が帰国することを納
得したのです。

それから何年もたちましたが、わたし
たちは手紙を絶やすことなく、わたした
ちの友情はさらに深まっていきました。
コンプトン姉妹のことを考えると、主イ
エス・キリストが弟子たちに残された言
葉を思い出します。「わたしのいましめ
は、これである。わたしがあなたがたを
愛したように、あなたがたも互に愛し合
いなさい。」(ヨハネ15:12)

子ども時代の夏の日々に初等協会のみ

んなで宝探しのゲームを作ったことを、
愛情を込めて振り返ることができます。
お菓子、花、小さなおもちゃなどを年長
の子どもが隠しました。そしてその宝を
見つけたとき、わたしたちは大喜びでし
た。わたしはそのとき以降、自分の人
生の中で美しく価値ある宝を数多く見
つけてきました。しかし二人の特別な宣
教師、マーリン・コンプトン兄弟、エー
ボン・コンプトン姉妹夫妻の愛は、いつ
になってもわたしにとって最も素晴らしい
宝の一つであることでしょう。

ロミー・バサラル・コテラはペルー・リマ・
リマタンボステーク、サンタクルスワードの
会員です。

思いがけない経験

主 淑娟

わたしは1991年10月に、台湾の
台南で教会に入りました。それから
2年後、就職のために台北に引っ越し
ました。さらなる福音の知識の必要性を
感じたわたしは、インスティテュートに
登録しました。このときの決断により、
わたしは予想外の出来事へと導かれて
いったのです。

インスティテュートでの2年目には、
わたしたちは教義と聖約を勉強し、わた
しは神殿について多く学びました。その
おかげでわたしは神殿に参入したいとい
う強い望みを抱くようになりました。監
督に参入について話すと、監督は準備
の方法を提案してくれました。1995年6
月、わたしはステーキ会長との面接に出
かけて行きました。

ステーキ会長は初め、わたしはまだ神
殿の神聖な聖約を引き受けるには若すぎ
ると言いました。わたしはその言葉に打
ちひしがれてしまいました。それまで一
生懸命準備してきたので、自分は準備
が整っていると心から感じていたからで
す。そこでステーキ会長に、監督がわ
たしをステーキ会長のもとへ送ったのだ
から、もう一度考え直してほしいと懇願

しました。そして可能性だけでも話し合
えないだろうかと尋ねました。ステーキ
会長は「もしあなたがどうしても言うな
ら、話し合いましょう」と言いました。

面接の終わりに、ステーキ会長は次の
ように尋ねました。「もし主があなたに
今日伝道に出るようにと言われたら、あ
なたは行きますか?」

わたしは「そうだと思います」と答え
ました。

わたしは神殿の推薦状を受け取り、
その日のうちにエンダウメントを受けま
した。そして伝道の召しを受け入れよう
と決心しました。

わたしの決断に家族は目を丸くしまし
た。兄は、もしわたしが伝道に出るなら
ば、勘当される覚悟でいるようにと言
い放ちました。

しかしニーファイが約束しているよう
に、主はわたしが期待されていることを
成し遂げられるよう、道を備えてくださ
いました(1ニーファイ3:7参照)。わた
しは1996年5月、台湾台中伝道部へと
召されました。伝道へ出る直前、兄は
わたしを抱き寄せ、涙ながらに、反対し
たのはわたしを失いたくなかったからだ
と言ってくれました。伝道中、家族はわ
たしを最大限に支援してくれました。

伝道に出たことで、わたしの人生は
変わりました。自分と天の御父との関係
をより明確に理解できるようになりました。
証が増し、人をキリストのもとへ連れ
て来る御業の偉大さが、わたしの思
いと心に永遠に刻み込まれました。

伝道を終えたわたしにとって今最も大
切なことは、最後まで堪え忍ぶという神
との約束です。わたしたちのグループが
解任される時期が近づいたときに、伝
道部長が話してくれた言葉を思い出し
ます。伝道部長はわたしたちに、いつ
か天で再会できるよう、今後ふさわし
さを保ち続けてほしいと言いました。わ
たしはこのチャレンジについて思い巡ら
すことがよくあります。特に試練のとき



子どもたちが「祝福を！ 祝福を！
祝福を下さい！」と叫びながら、小さくつましい家から出て来たので、同僚とわたしは仰天してしまいました。

した。彼女は長いこと教会に行っていないませんでした。それは多分に、教会へ来るようにという励ましをだれからも感じたことがなかったからだと言いました。子どもたちは教会員ではありませんでした。しかし、彼女はイエス・キリストの福音が彼女自身と子どもたちの生活の一部になることを望んでいるように思えました。

わたしたちはこの女性の子どもたちに福音のメッセージを紹介し、その子どもたちは2週間後にバプテスマを受けました。バプテスマ会では、彼女の子どもの一人が喜びのあまりに泣きだしてしまいました。その子は母親が変わったと言い、主が宣教師を自分の家に送ってくださったことをとてもうれしく思っていると言いました。

この子どもたちは、遊びながら祝福を求めていたときに、主がその願いにこれほど豊かにこたえてくださるうとは思いませんでした。その家族は今日でも堅固で忠実な教会員であり続けています。

世界中には、この子どもたちのような人が大勢います。知らず知らずのうちに天の御父からの祝福を求めているのです。そのような人々に必要なのは単に求めることだけなのです。そうすれば御父はこたえてくださるのですから。主はどのように言われています。「あなたがたは幼い子供であり、父がどれほどの大いなる祝福を御手の中に持っていて、あなたがたのために備えておられるかをまだ理解していない。」(教義と聖約78:17)□

レスリー・アウグスト・トパール・コレアはエクアドル・ミラグロステーク、エルボルベニールワードの会員です。

にはよく考えます。

わたしの心は感謝で満たされています。神に守られてきたこと、そして神から学ぶ経験を与えられてきたことに感謝しています。そのような経験は不意に訪れることが多く、思いがけない場合が多いのですが、すべてのそうした経験により、わたしが心からなりたっているような主の僕にさらに近づくことができます。

王 淑娟は台湾台北中央ステーク、台北第4ワードの会員です。

「わたしたちに祝福を下さい！」 レスリー・アウグスト・トパール・コレア

エクアドル北東部の美しい町オタパロは、わたしがエクアドル・キト伝道部での伝道中に経験したある出来事のために、わたしの中でさらに美しさを増しています。1996年9月のある日の午後、同僚とわたしはレッスンの約束に向かうために歩いていました。すると突然子どもたちが、「祝福を！ 祝福を！ 祝福を下さい！」と叫びながら、小さく

つましい家から出て来ました。

わたしたちは仰天し、一体どういうことなのか分かりませんでした。気に留めず通り過ぎようかとも思いましたが、どうしたのか探るようにと、何かに促されました。良くないことが起きているのかもしれないと思ったのです。

子どもたちはすぐに家の中へ戻って行きました。その子どもたちの後を追いかけて行ったわたしたちは、中にいた女性と目が合いました。わたしたちはその女性を見て驚きました。驚いているわたしたちを見て、その女性も驚きました。どういふことを説明すると、その女性にはこやかに言いました。「子どもたちは遊んでいただけです。」わたしたちはしばらく話をし、この女性の名前と住所をメモして、そこを立ち去りました。

2日後再びその家に来ると、その女性が教会の会員であることが分かりま

『リアホナ』 2001年10月号 の活用法

レッスンと話し合いのアイデア

■「幸福な家庭のしるし」2ページ——トーマス・S・モンソン副管長が述べる幸福な家庭のしるしの一つは「学びの場」です。あなたの家庭にある本について考えてください。それらの本は学ぶ心や信仰をどのように養うでしょうか。

■「伝道——霊的な冒険」12ページ——デビッド・B・ヘイト長老の説明によれば、多くの宣教師は伝道に出るために何か好きな事柄を犠牲にしています。その犠牲に対し、もたらされる祝福はどのように勝るでしょうか。

■「伝道活動と贖罪」26ページ——ジェフリー・R・ホランド長老は宣教師に対し、求道者が福音を学んだ結果として、どのような事柄を行うよう望むか尋ねることがあります。長老によれば、ほとんどの宣教師は「求道者に望まれる二つの最も基本的な事柄」を挙げられないそうです。この二つの事柄とは何でしょうか。そして、それらのことが求道者だけでなく、宣教師や会員にとってもそれほど重要なのはなぜでしょうか。

■「みぞに雄牛はいない」F14ページ——わたしたちが親、教師、そして主から与えられる指示に従うことが大切なのはなぜでしょうか。

今月号に採り上げられている項目

愛	2, 44
証	2
贖罪	26
イエス・キリスト	26, F4, F6
祈り	2, F14
永遠の視野	F2
教える	48
改宗	26, 44
家族関係	2
家族歴史	F10
家庭の夕べ	48
家庭訪問	25
犠牲	12
教育	2
従順	F12, F14
祝福	F12
祝福師の祝福	F2
初等協会	F12
信仰	12, 26
神殿・神殿活動	34, 44, F10
新約聖書ものがたり	F4, F6
聖餐	25
聖文研究	2
聖約	25, 34
宣教師訓練センター	38
備え	17, 20, 24, 34, 38, F8
伝道活動	10, 12, 17, 20, 24, 26, 34, 38, 44, F2, F8
標準	33
ホームティーチング	9
モルモン書	26
友情	17
預言者	10, 33, F12

写真/ジェリー・ガーンズ



良い影響

皆さんの人生に良い影響を及ぼした人はだれですか。良い影響を与えてくれた人について、どのようにして影響を及ぼしたかについてご紹介します。皆さんの提案、話、経験を書いて、A Positive Influence, Liahona, Floor 24, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3223, USAまたはEメールで CUR-Liahona-IMag@ldschurch.orgまでお送りください。必ず氏名、住所、電話番号、所属ステーク/地方部、ワード/支部名を明記してください。



「夫婦宣教師」

「夫婦が奉仕できる方法は事実上無数にあります。……主が皆さんに与えられた、ほとんどすべての特技や才能を用いる機会があります。……成熟した姉妹や夫婦にとって、自分たちが喜んで伝道に出たいと思っている、また出られるということを神権指導者に知らせるのは適切なことです。ぜひそうすることをお勧めします。」

ロバート・D・ヘイルズ「夫婦宣教師——奉仕の時」『リアホナ』2001年7月号, 31



「宣教師は様々な国に出て行っている。」

預言者ジョセフ・スミスはこう宣言している。

「……神の真理は大胆かつ気高く、悠然と出で立ち、

あらゆる大陸を貫き、あらゆる地方に至り、

あらゆる国に広まり、あらゆる者の耳に達し、

神の目的は遂げられるであろう。

かくして、大いなるエホバは、

業は成就したと仰せになるのである。」

(「伝道活動について語る末日の預言者たち」10ページ、

および今月の『リアホナ』特別号の

伝道活動に関するその他の記事参照)